

那珂川市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
結果報告書

令和 5年 3月

那珂川市

目次

| | |
|--------------------|----|
| 第1章 調査の概要 | 1 |
| 1. 調査の目的 | 1 |
| 2. 調査の設計 | 1 |
| 3. 回収の結果 | 1 |
| 4. 報告書の見方 | 1 |
| 5. 回答者の基本属性 | 2 |
| (1) 認定区分の状況 | 2 |
| (2) 年齢 | 2 |
| (3) 性別 | 3 |
| (4) 日常生活圏域 | 3 |
| 第2章 リスクの発生状況 | 4 |
| 1. 運動器の機能低下 | 4 |
| (1) リスク判定方法 | 4 |
| (2) 運動器の機能低下者に係る考察 | 4 |
| 2. 転倒リスク | 6 |
| (1) リスク判定方法 | 6 |
| (2) 転倒リスク者に係る考察 | 6 |
| 3. 低栄養の傾向 | 8 |
| (1) リスク判定方法 | 8 |
| (2) 低栄養の傾向に係る考察 | 8 |
| 4. 口腔機能の低下 | 10 |
| (1) リスク判定方法 | 10 |
| (2) 口腔機能の低下に係る考察 | 10 |
| 5. 閉じこもり傾向 | 12 |
| (1) リスク判定方法 | 12 |
| (2) 閉じこもり傾向に係る考察 | 12 |
| 6. 認知機能の低下 | 14 |
| (1) リスク判定方法 | 14 |
| (2) 認知機能の低下に係る考察 | 14 |
| 7. うつ傾向 | 16 |
| (1) リスク判定方法 | 16 |
| (2) うつ傾向に係る考察 | 16 |
| 8. IADLの低下 | 18 |
| (1) IADLの判定方法 | 18 |
| (2) IADLに係る考察 | 19 |

| | |
|----------------------------|----|
| 9. 日常生活圏域別分析 | 20 |
| 【南畑地区】 | 20 |
| 【岩戸A地区】 | 21 |
| 【岩戸B地区】 | 22 |
| 【安徳A地区】 | 23 |
| 【安徳B地区】 | 24 |
| 第3章 設問ごとの分析..... | 25 |
| 問1 あなたのご家族や生活状況について | 26 |
| 問2 からだを動かすことについて..... | 31 |
| 問3 食べることについて..... | 41 |
| 問4 毎日の生活について..... | 48 |
| 問5 地域での活動について..... | 67 |
| 問6 たすけあいについて..... | 79 |
| 問7 健康について..... | 86 |
| 問8 認知症にかかる相談窓口の把握について..... | 93 |
| 問9 生活状況について（買物、移動等） | 96 |
| 第4章 調査票..... | 98 |

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

第9期那珂川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定するにあたり、那珂川市に在住する高齢者の日常生活の状況や健康状態等を聴取し、計画策定の基礎資料とするとともに、今後の保健福祉行政に活かすために調査を行いました。

2. 調査の設計

- 調査地域 那珂川市
- 調査対象 那珂川市にお住まいの65歳以上の方で、要介護認定を受けられていない方
- 調査方法 郵送による配付・回収
- 調査期間 令和4年12月9日（金）～令和5年1月23日（月）
- 抽出方法 無作為抽出

3. 回収の結果

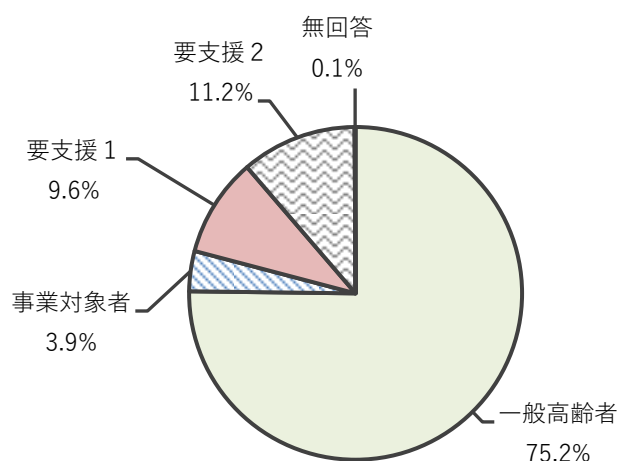
| 配付数 | 回収数 | 有効回収率 |
|--------|--------|-------|
| 2,000件 | 1,424件 | 71.2% |

4. 報告書の見方

- 回答は、各質問の回答者数（計）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えます。
- 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには「0.0」と表記しています。

5. 回答者の基本属性

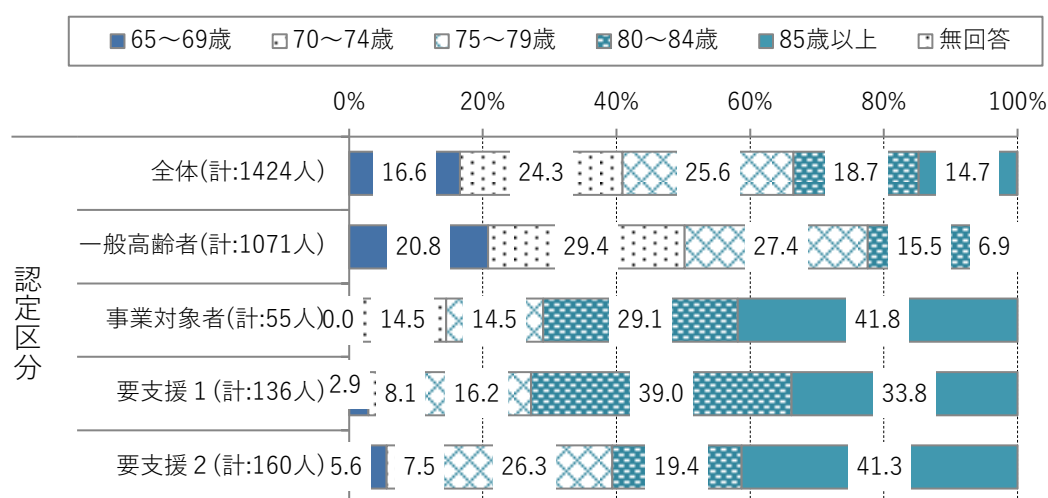
(1) 認定区分の状況



計：1424人

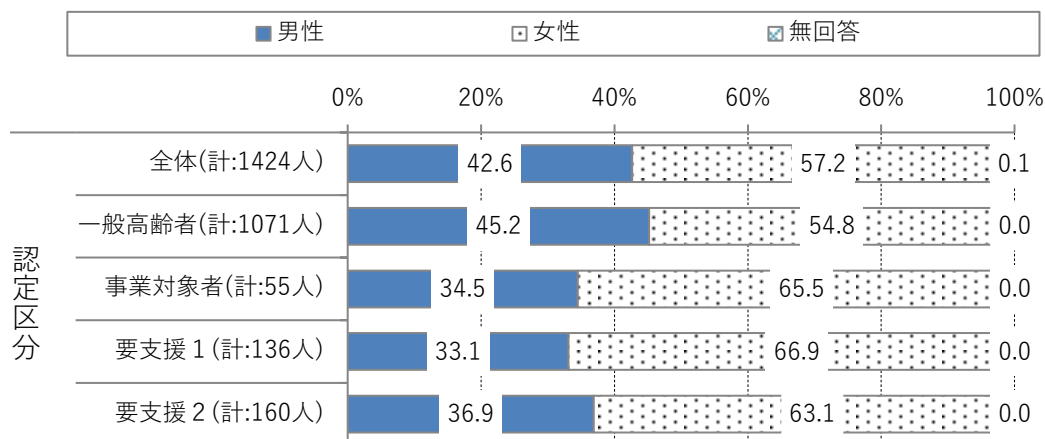
●認定区分をみると、「一般高齢者」の割合が最も高く、75.2%となっています。次いで、「要支援2」(11.2%)、「要支援1」(9.6%)と続いています。

(2) 年齢



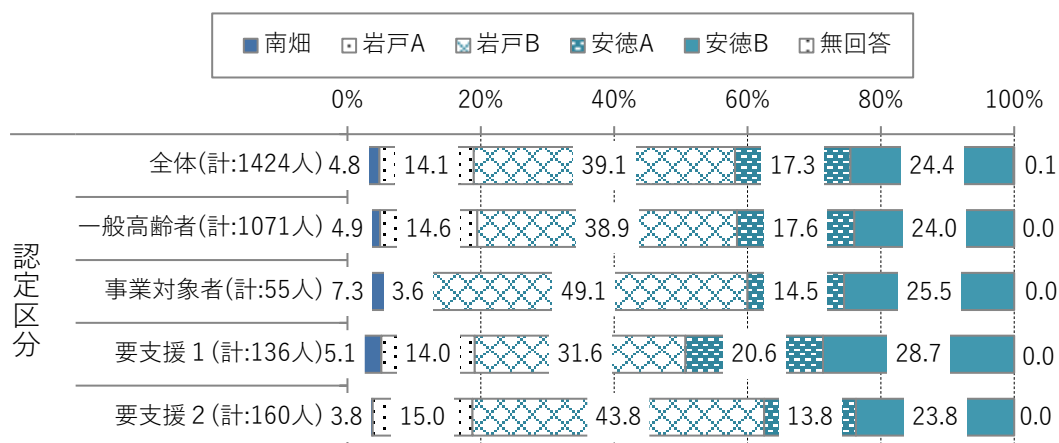
●年齢をみると、「75~79歳」の割合が最も高く、25.6%となっています。次いで、「70~74歳」(24.3%)、「80~84歳」(18.7%)と続いています。

(3) 性別



●性別をみると、「男性」の割合は、42.6%となっています。一方、「女性」の割合は 57.2%となっています。

(4) 日常生活圏域



●日常生活圏域をみると、「岩戸 B」の割合が最も高く、39.1%となっています。次いで、「安徳 B」(24.4%)、「安徳 A」(17.3%)と続いています。

第2章 リスクの発生状況

1. 運動器の機能低下

(1) リスク判定方法

| No. | 設問内容 | 選択肢 |
|-----|------------------------------|--|
| ① | 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか | 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない |
| ② | 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか | 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない |
| ③ | 15分位続けて歩いていますか | 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない |
| ④ | 過去1年間に転んだ経験がありますか | 1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない |
| ⑤ | 転倒に対する不安は大きいですか | 1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない |

上記の設問のうち、3問以上該当する選択肢（上の表の網掛け箇所）が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者と判定されます。

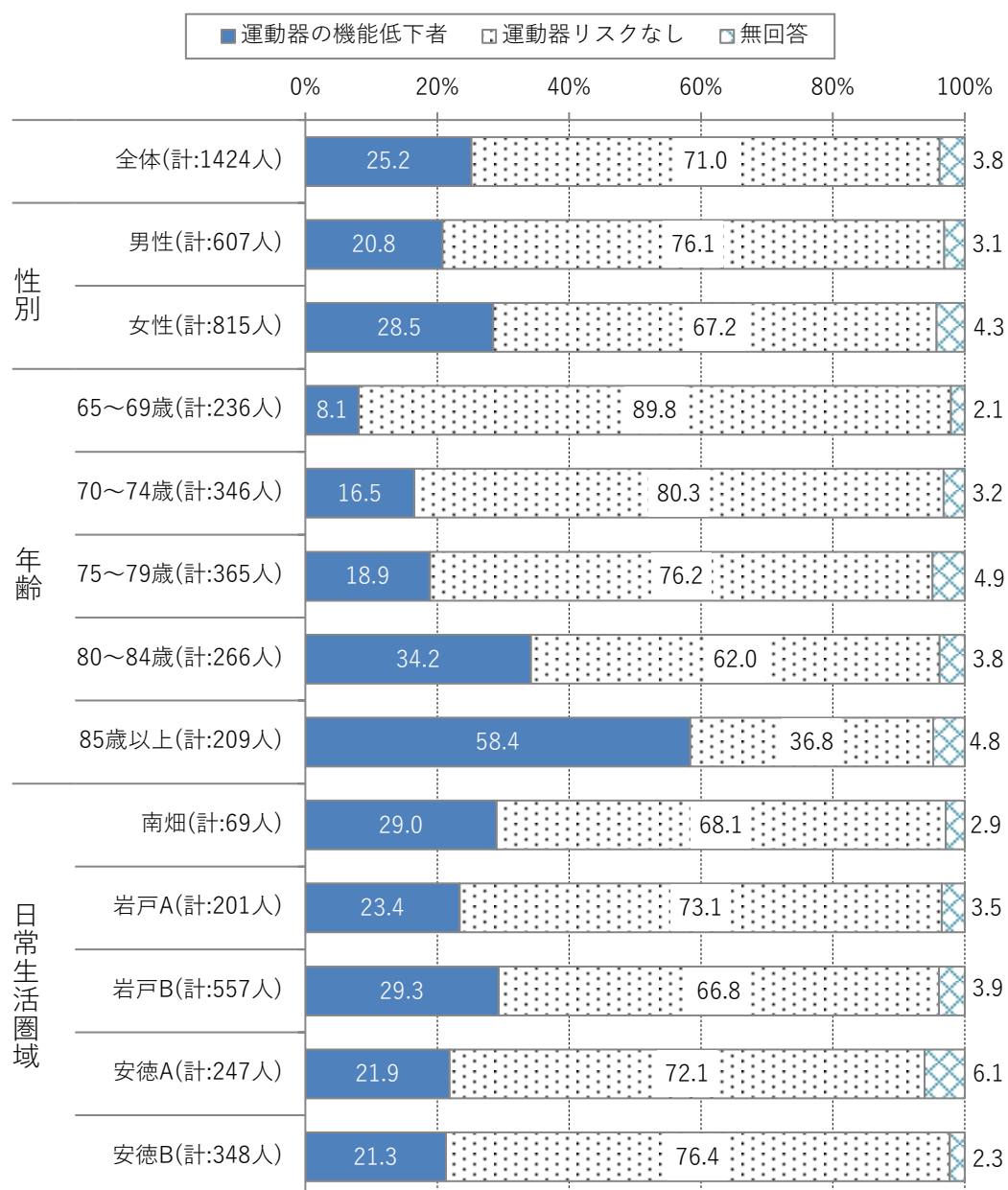
(2) 運動器の機能低下者に係る考察

日常生活圏域ごとにリスク者の割合をみると一定の地域性がみられることが分かります。リスク者の割合が少ないのは「安徳A」(21.9%)、「安徳B」(21.3%)であり、逆に、リスク者の割合が高いのは「岩戸B」(29.3%)、「南畑」(29.0%)となります。地域差は居住者の年齢構成や地理的要因、住まいや道路状況等様々な要素が複合的に合わさった結果であると考えられますが、それら要素を詳細に分析し、コントロール可能な要因についてそれぞれ対策を講じることでリスク者の割合を減じられる可能性があります。

運動器の機能低下者の割合は男性(20.8%)よりも女性(28.5%)の方が高くなっています。先に述べた通り、運動器の機能低下者の割合は年齢階層が高くなるに従って急激に増加する傾向にあるため、分析をする際にはそれぞれの集団の年齢構成をおさえておく必要があります。調査対象者のうち後期高齢者の割合は男性(57.7%)に比べて女性(60.2%)の方が高いことが性差に多少影響しているものと考えられますが、アンケート調査で得られるデータのみでは分析に限界があるため、地域で実施されている独自の取組内容を把握した上でさらに詳細に考察する必要があるといえます。

前回調査結果と比較すると、2.8ポイント上昇しています(前回:22.4%)。

図表 1 運動機能の低下者の状況



2. 転倒リスク

(1) リスク判定方法

| No. | 設問内容 | 選択肢 |
|-----|-------------------|------------------------------|
| ④ | 過去1年間に転んだ経験がありますか | 1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない |

④で「1. 何度もある」または「2. 1度ある」の選択肢を回答された場合、転倒リスクのある高齢者と判定されます。

(2) 転倒リスク者に係る考察

転倒リスク者は、運動器の機能低下リスク判定に用いた5つの設問のうち1設問の回答に基づき判定されるものであり、その意味においては運動器の機能低下リスクに内包された指標であるともいえます。

一方、転倒経験があっても他の2設問に該当しない場合は運動器の機能低下者とはならないため、別途リスク者として独立した指標を定め分析することとします。

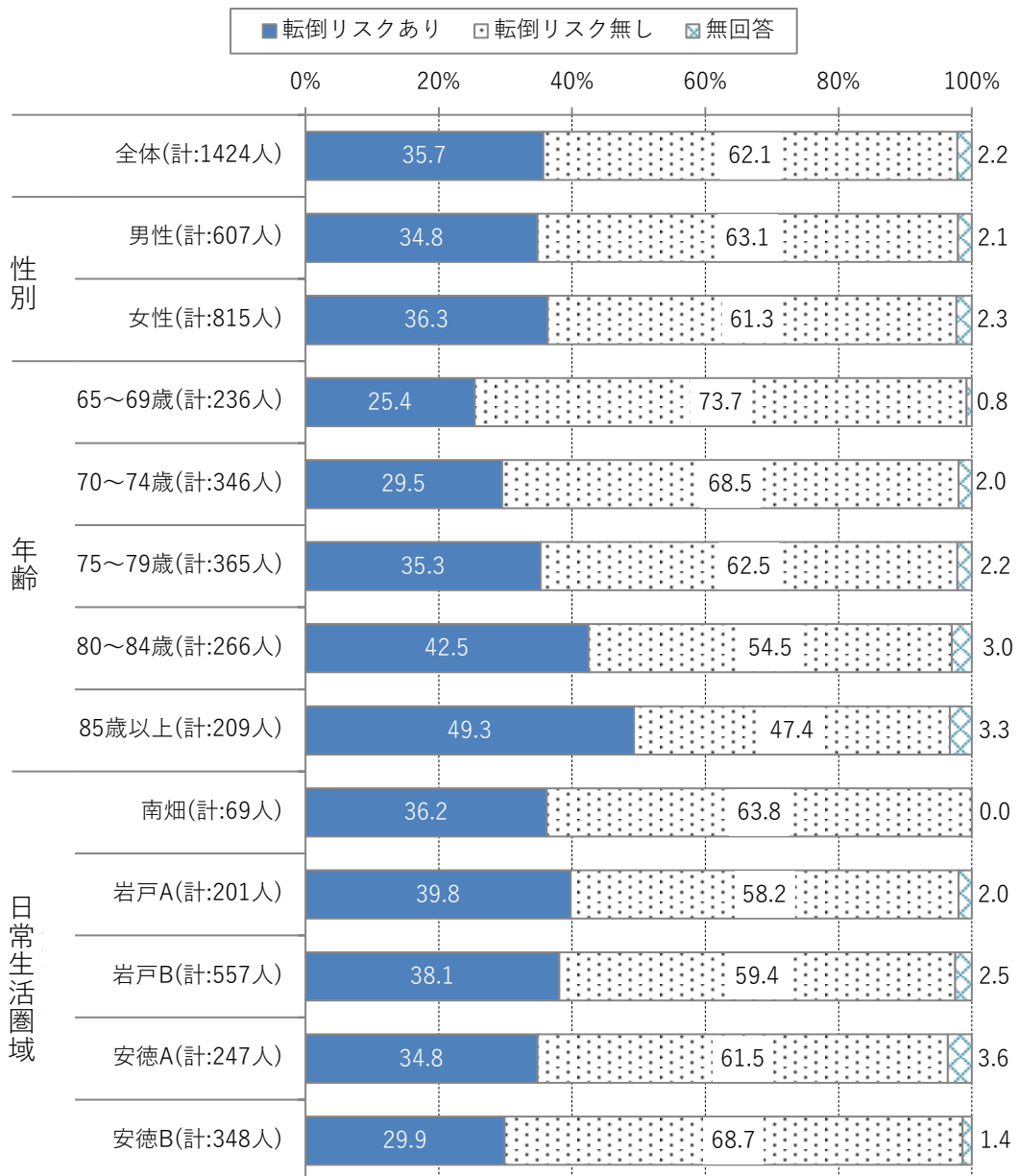
図表2をみると、1年に1回以上転倒の経験がある高齢者は年齢階層が高くなるに従って急増しており、後期高齢者になると3人に1人以上がリスク者となっています。

転倒の要因は、コードや段差につまずくなどの偶発的な環境要因と、歩行やバランス障がい、筋力低下等による身体的な要因によるものです。従って、転倒リスク者の減少のためにはサルコペニア（加齢性筋肉減弱症）対策と併せて、高齢者の生活環境等の整備が必要となります。

転倒リスク者を減じる取組は高齢者の転倒不安を軽減し、ひいては運動器の機能低下者を減らすことにつながります。

前回調査結果と比較すると、2.8ポイント減少しています（前回：38.5%）。

図表 2 転倒リスク者の状況



3. 低栄養の傾向

(1) リスク判定方法

| No. | 設問内容 | 選択肢 |
|-----|---------------------------------------|-------------------------------|
| ⑥ | 身長・体重 | () cm () kg →BMI 18.5 以下 |
| ⑦ | 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか (オプション項目) | 1. はい 2. いいえ |

身長・体重から算出されるBMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。

低栄養状態を確認する場合は国が示す必須項目 (身長・体重を問う設問) では不十分であるため、本市では、別途示されたオプション項目 (⑦) を追加して調査しました。

(2) 低栄養の傾向に係る考察

低栄養のリスク者割合は全体平均で 2.6% となっており、他のリスク判定と比べればリスク者の割合は低いことが分かります。

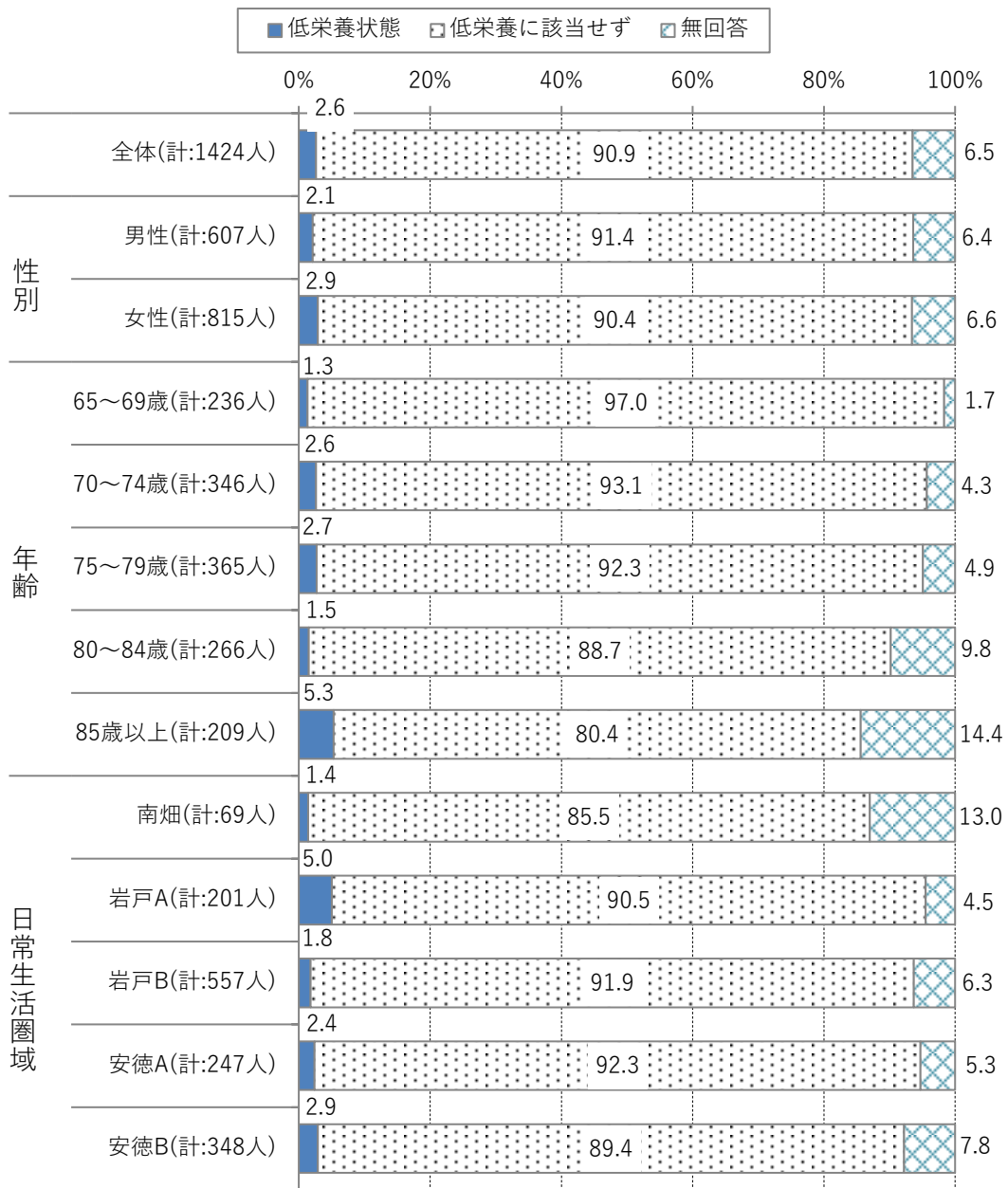
岩戸Aのリスク者の割合は 5.0% となっていますが、南畑は 1.4% となっています。

年齢別にみると、年齢階層によって大きな傾向はみられませんが、85歳以上でリスク者の割合が高くなっています。

低栄養の判定には現在の身長及び体重を記入していただく必要があり、他の設問と比べて無回答が多くなる傾向にあります。無回答がある場合は判定不能となります。調査結果からは低栄養のリスク者の割合は低いようにみえますが、判定不能者の中に潜在的なリスク者が存在していることも否めません。よりきめ細やかな分析をするためには、個別の追跡調査が必要となります。

前回調査結果と比較すると、0.4ポイント上昇しています (前回: 2.2%)。

図表 3 低栄養のリスク者の状況



4. 口腔機能の低下

(1) リスク判定方法

| No. | 設問内容 | 選択肢 |
|-----|---------------------------------|-----------------|
| ⑧ | 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか | 1. はい 2. いいえ |
| ⑨ | お茶や汁物等でむせることがありますか (オプション項目) | 1. はい 2. いいえ |
| ⑩ | 口の渇きが気になりますか (オプション項目) | 1. はい 2. いいえ |

⑧で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります。

口腔機能の低下を確認する場合は国が示す必須項目（⑧）のみでは不十分であるため、本市では、別途示されたオプション項目（⑨及び⑩）を追加して調査しました。

嚥下機能の低下を把握する「お茶や汁物等でむせることがありますか」、肺炎発症リスクを把握する「口の渇きが気になりますか」と併せ、⑧～⑩のうち2設問に該当した場合は、口腔機能が低下している高齢者と判定されます。

(2) 口腔機能の低下に係る考察

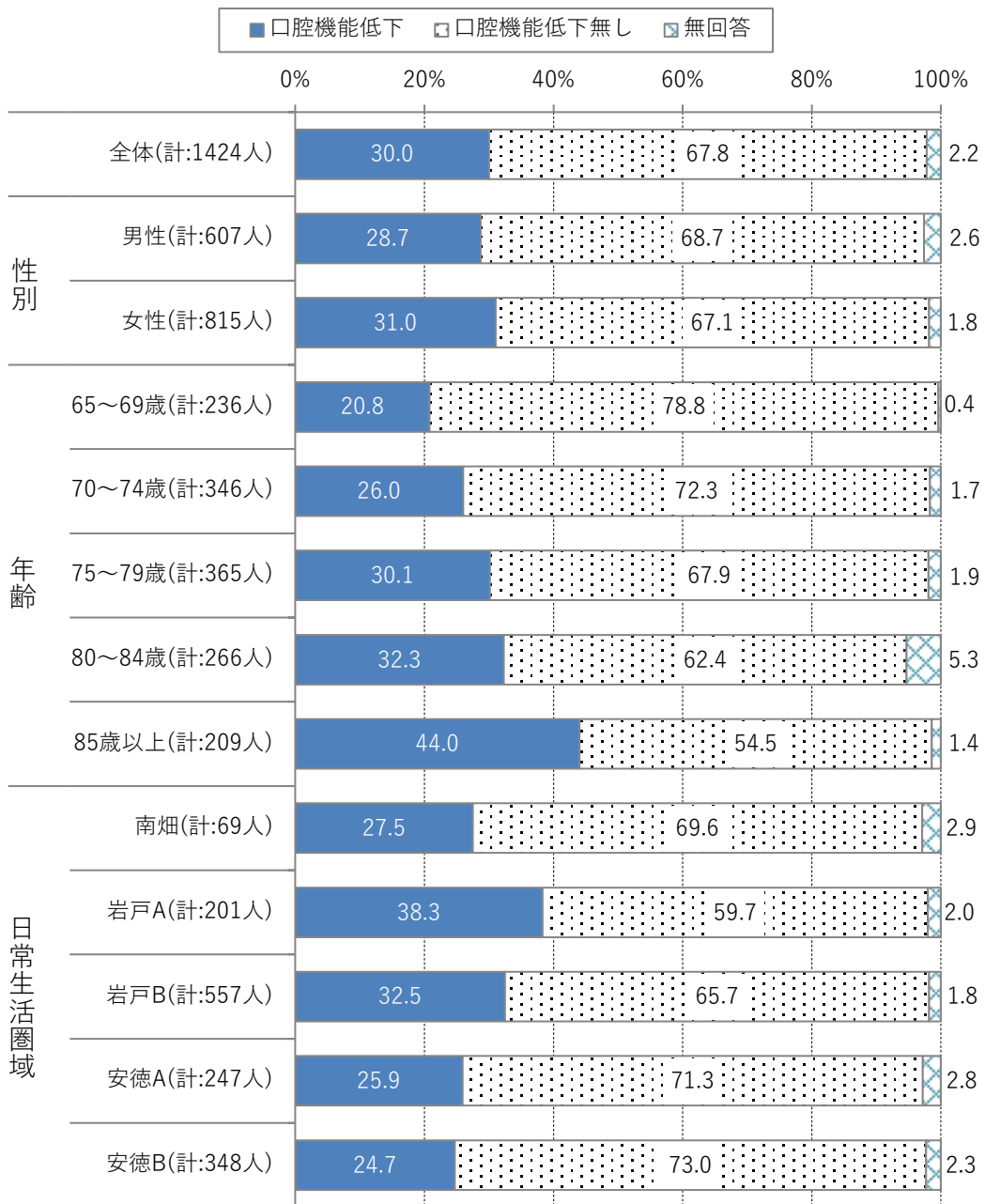
口腔機能低下のリスク者割合は全体で 30.0%となっています。日常生活圏域別にみると、岩戸Aのリスク者の割合が 38.3%と最も高くなっています。

年齢別にみると、年齢階層が高くなるにつれてリスク者の割合が高くなる傾向にあり、85歳以上では4割を超えています。

口腔機能の低下によって食事のバランスが悪くなり、運動機能や生理機能を正常に保つことが困難になるだけでなく、糖尿病や高血圧といった生活習慣病の発症や重症化のリスクが高くなると推察されています。

前回調査結果と比較すると、4.9ポイント上昇しています（前回：25.1%）。

図表 4 口腔機能低下のリスク者の状況



5. 閉じこもり傾向

(1) リスク判定方法

| No. | 設問内容 | 選択肢 |
|-----|-----------------|--|
| ⑪ | 週に1回以上は外出していますか | 1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上 |

⑪で「1. ほとんど外出しない」または「2. 週1回」の選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者と判定されます。

(2) 閉じこもり傾向に係る考察

上記に記しているとおり、本調査において閉じこもり傾向の高齢者とは、外出頻度が週に1回以下であることです。

外出頻度が低下する要因は数多く考えられます。そもそも、外出する目的が無ければ無理に自宅の外に出る必要性も無く、現に自宅内で穏やかに過ごすことを好む高齢者も多くいらっしゃいます。しかしながら、一般的に閉じこもり状態が長くなることで、人との交流が減り、うつ傾向になったり、認知機能が低下したりすると考えられています。運動器の機能低下や転倒リスク、低栄養と閉じこもりは関連があると言われていたことから、他のリスク者の割合を低減するためにも外出頻度を増やし閉じこもり傾向のある高齢者を減らすことが大切です。

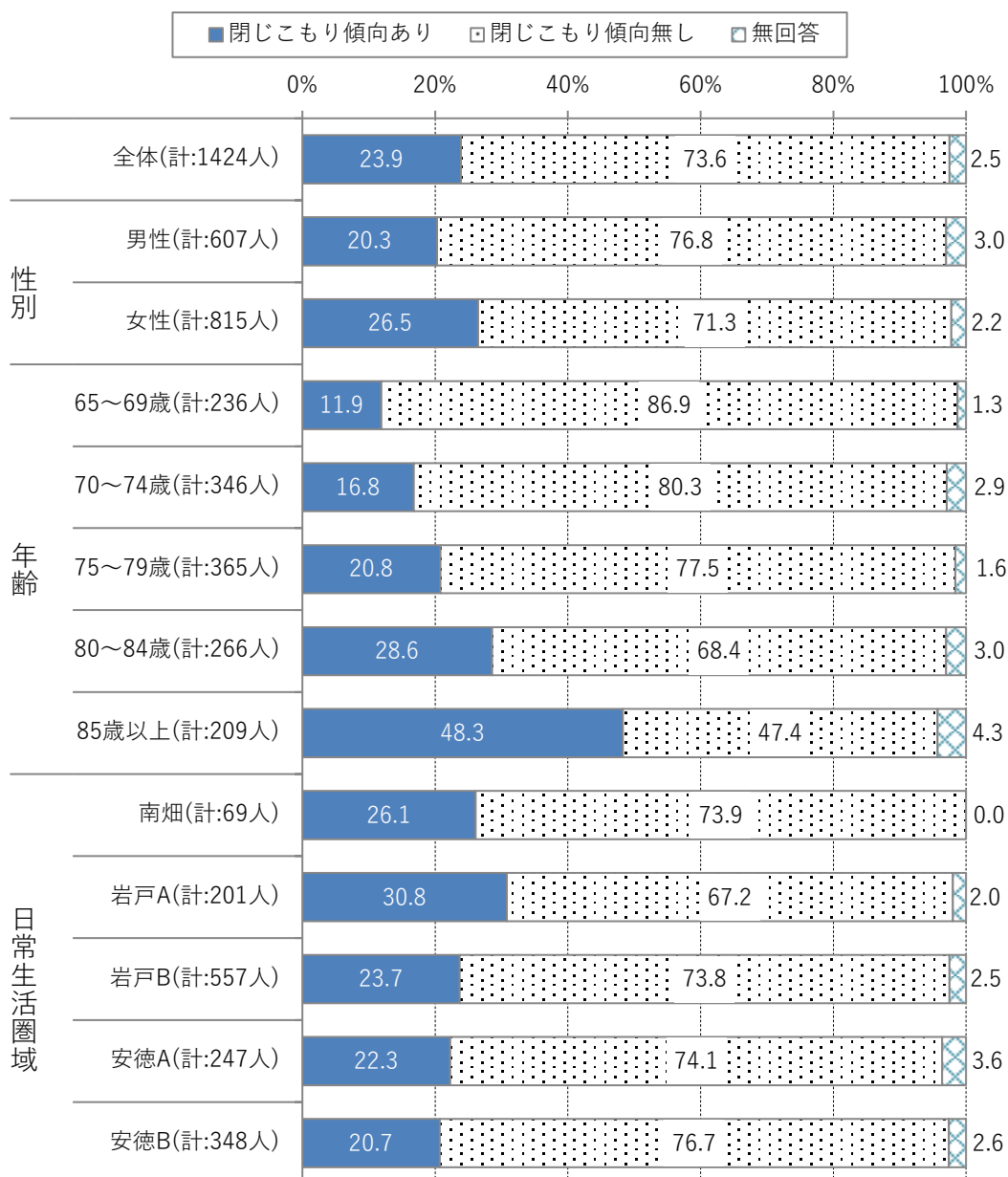
閉じこもり傾向となる要因は、「身体的要因」の他、「心理的要因」「社会・環境要因」が考えられます。「身体的要因」については運動器の機能低下者や転倒リスク者の割合を低減する取組によってある程度取り除くことが可能ですが、「心理的要因」及び「社会・環境要因」は家庭や地域で役割を持ち、積極的に地域に関わることで、高齢者が自然に地域と関われる環境づくり等、それぞれ特有の取組が必要となります。

閉じこもり傾向のある高齢者は、男性が20.3%であるのに対し女性が26.5%となっており、男性よりも女性の方にリスク者が多い傾向にあります。また、年齢階層が高くなるに従って閉じこもり傾向のある高齢者の割合は高くなる傾向にあり、特に85歳を境に急激にリスク者が増加し、85歳以上ではほぼ半数(48.3%)が週1回以下の外出頻度であることが分かります。

日常生活圏域ごとの傾向をみると、「安徳B」(20.7%)、「安徳A」(22.3%)では閉じこもり傾向にある高齢者の割合が低く、「岩戸A」(30.8%)ではリスク者の割合が高くなっています。

前回調査結果と比較すると、4.2ポイント上昇しています(前回:19.7%)。

図表 5 閉じこもりリスク者の状況



6. 認知機能の低下

(1) リスク判定方法

| No. | 設問内容 | 選択肢 |
|-----|--------------|-----------------|
| ⑫ | 物忘れが多いと感じますか | 1. はい 2. いいえ |

⑫で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、認知機能の低下がみられる高齢者と判定されます。

(2) 認知機能の低下に係る考察

認知症を引き起こす原因疾患は多数存在しますが、認知症が進行する最大の原因は加齢です。今後、いわゆる団塊の世代が後期高齢者に移行することで、認知症の高齢者の数は増加することが見込まれています。

認知症（特にアルツハイマー病）による症状が出現する十数年前から脳内ではタンパク質の異常な蓄積が既に始まっており、認知症と診断される時期には相当の神経細胞が機能不全に陥っていると考えられています。従って、明らかな認知症を発症した時点では予防対策は極めて困難といえます。

認知症を予防するためには、その前段階とされる「軽度認知機能障害」(MCI)の時期で認知機能低下を抑制する方法が現時点では最も効果的であると考えられています。MCIの診断では、記憶障害の有無とそのほかの認知機能障害の有無でタイプ分けされます。記憶障害がある場合は「健忘型MCI」、注意などに障害がある場合は「非健忘型MCI」に分類され、さらに単一または複数の機能障害の有無によって「単一領域」と「多重領域」へと細分化されます。

本調査では、「物忘れが多いと感じますか」という設問に「1. はい」と回答した人の割合を認知機能の低下リスク有りとして判定しており、一見すると認知症に係る実態を把握するには精度が劣る判定のように思えます。言うまでもなく、単なる「物忘れ」は加齢に伴い生じる自然な現象であり、認知症とは異なるからです。

一方、厚生労働省によると「物忘れが進んだ状態」とも言える軽度認知障害(MCI)に該当する高齢者は全国で400万人存在すると言われており、これは高齢者の約4人に1人に相当するとされています。本市の高齢者について、認知機能低下者が約4割(42.9%)であることを踏まえると、多少、「大きめの数字」が出ていることが分かります。

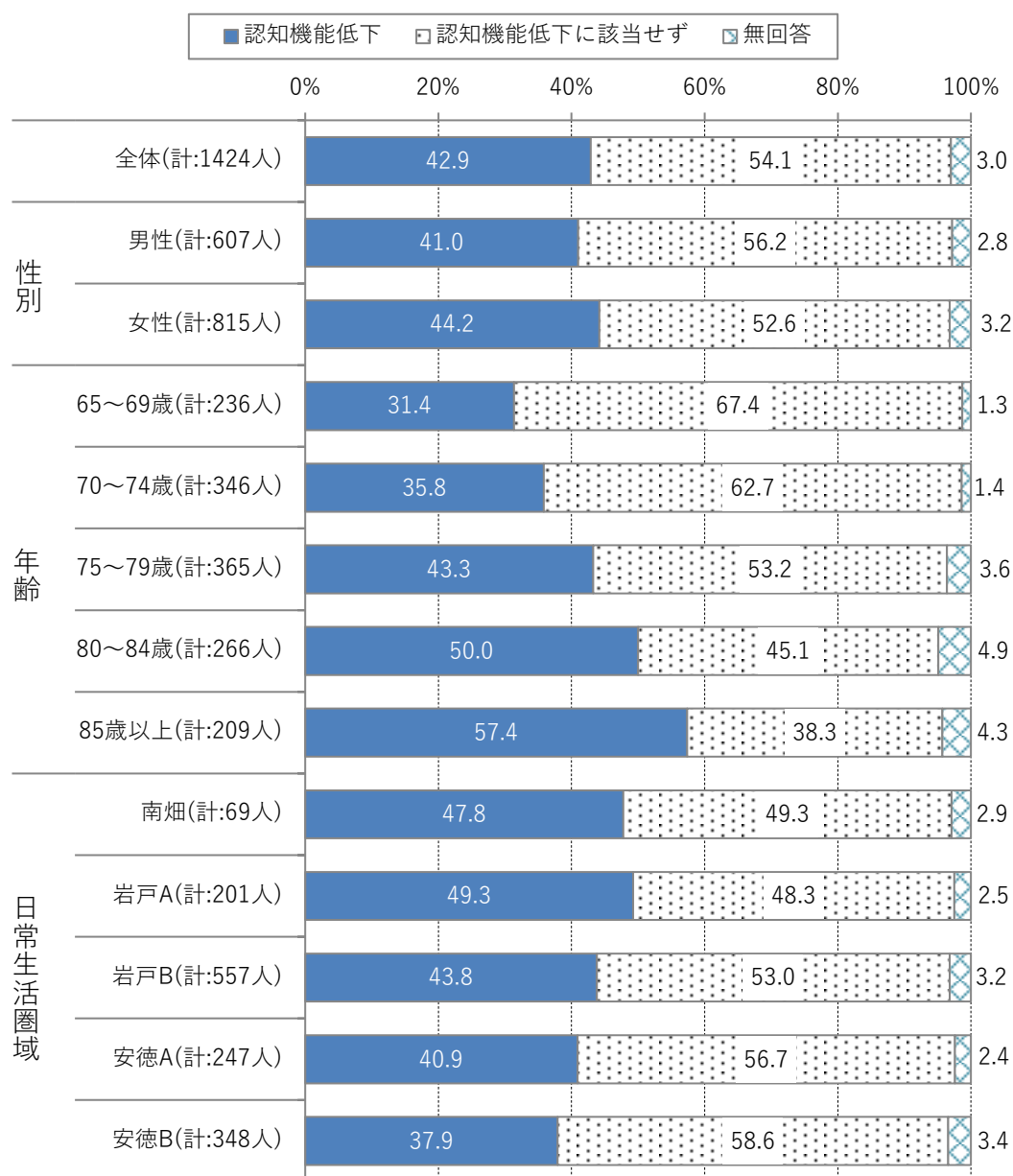
軽度認知障害を放置しておくとう将来的に症状が悪化する可能性が非常に高く、軽度認知障害と診断された高齢者のうち、約半分が認知症になると言われています。

認知機能低下者の出現率は女性（44.2%）の方が男性（41.0%）より高くなっています。年齢別にみると 65～69 歳では 31.4%であったのが、年齢階層が高くなるに従って認知機能低下者の割合が高くなり、80 歳以上では過半数、85 歳以上では 57.4%になっています。

一般に、認知症の高齢者は年齢階層が 5 歳上がるごとに約 2 倍になると言われていますが、その事実と比べると年齢による認知機能低下者の増加率が緩やかです。その要因として、認知機能低下者は要介護認定者になる確率が高く、認知症に移行している（本調査の対象外）ことが考えられます。

前回調査結果と比較すると、0.3 ポイント上昇しています（前回：42.6%）。

図表 6 認知機能の低下リスク者の状況



7. うつ傾向

(1) リスク判定方法

| No. | 設問内容 | 選択肢 |
|-----|---|-----------------|
| ⑬ | この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか | 1. はい 2. いいえ |
| ⑭ | この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか | 1. はい 2. いいえ |

⑬、⑭でいずれか1つでも「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、うつ傾向の高齢者と判定されます。

(2) うつ傾向に係る考察

「うつ」は、気分が落ち込んだり何事にも興味を持てなくなったりすることに強い苦痛を感じ、日常生活の支障をきたすまでになった状態です。高齢者は、身体的にも社会的にも喪失に関連した様々なストレスを感じる人が多いことから、うつ状態になりやすいと考えられます。うつ状態が強くなると身体の状態にも影響することから、高齢者のうつ対策は介護予防のためにも重要です。

大うつ病診断基準 DSM-IV によると、うつ病の診断基準は下記ようになります。

以下の症状のうち、少なくとも1つある。

- | | |
|----------|---------------|
| 1. 抑うつ気分 | 2. 興味または喜びの喪失 |
|----------|---------------|

さらに、以下の症状を併せて、合計で5つ以上が認められる。

- | |
|--|
| 3. 食欲の減退あるいは増加、体重の減少あるいは増加 4. 不眠あるいは睡眠過多 5. 精神運動性の焦燥または制止(沈滞) 6. 易疲労感または気力の減退 7. 無価値感または過剰(不適切)な罪責感 8. 思考力や集中力の減退または決断困難 9. 死についての反復思考、自殺念慮、自殺企図 |
|--|

これらの症状がほとんど1日中、ほとんど毎日あり2週間にわたっている症状のために著しい苦痛または社会的、職業的、または他の重要な領域における機能障害を引き起こしている。これらの症状は一般身体疾患や物質依存(薬物またはアルコールなど)では説明できない。

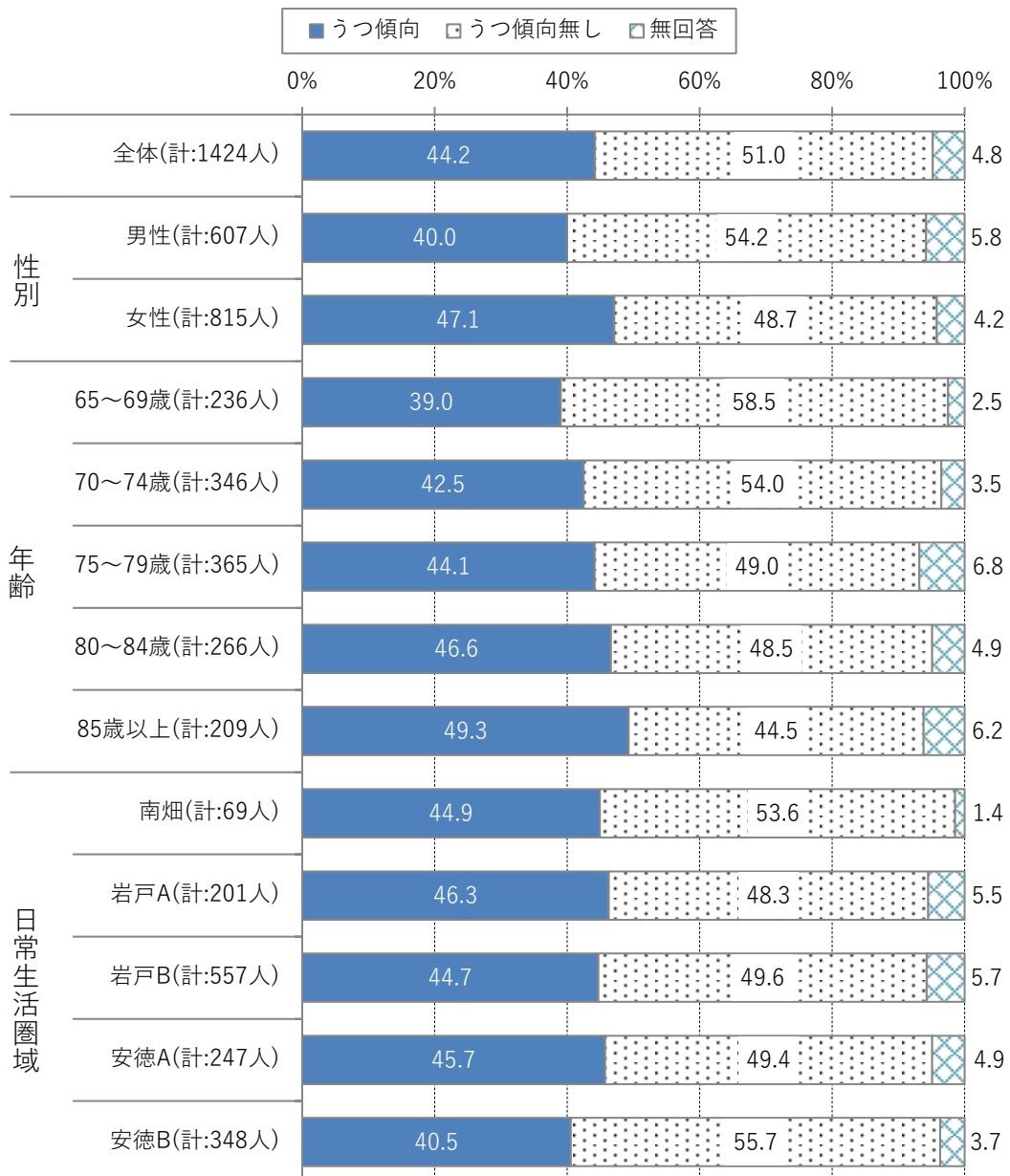
本調査において「うつ傾向」のリスク判定は、上に挙げた大うつ病診断基準 DSM-IVのうち、「1. 抑うつ気分」及び「2. 興味または喜びの喪失」に相当する質問の回答のみに基づいています。よって、本調査による判定結果と「うつ病」は同一視することができません。

うつ傾向がある人の割合は男性（40.0%）よりも女性（47.1%）の方が高くなっています。
 年齢階層別にみると、年齢階層が高くなるに従ってうつ傾向にある人の割合が高くなる傾向にあるものの、その伸びは比較的緩やかに推移しています。

日常生活圏域による差異も比較的小さいものの、「安徳B」はリスク者の割合が40.5%と他の圏域に比べて小さくなっています。

前回調査結果と比較すると、5.0ポイント上昇しています（前回：39.2%）。

図表 7 うつ傾向リスク者の状況



8. IADLの低下

(1) IADLの判定方法

| No. | 設問内容 | 選択肢 |
|-----|-------------------------------|--|
| ⑮ | バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可) | 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない |
| ⑯ | 自分で食品・日用品の買物をしていますか | 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない |
| ⑰ | 自分で食事の用意をしていますか | 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない |
| ⑱ | 自分で請求書の支払いをしていますか | 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない |
| ⑲ | 自分で預貯金の出し入れをしていますか | 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない |

上記設問で、「1. できるし、している」「2. できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点でIADLを評価します(5点を「1. 高い」、4点を「2. やや低い」、3点以下を「3. 低い」とします)。

※ IADLとは

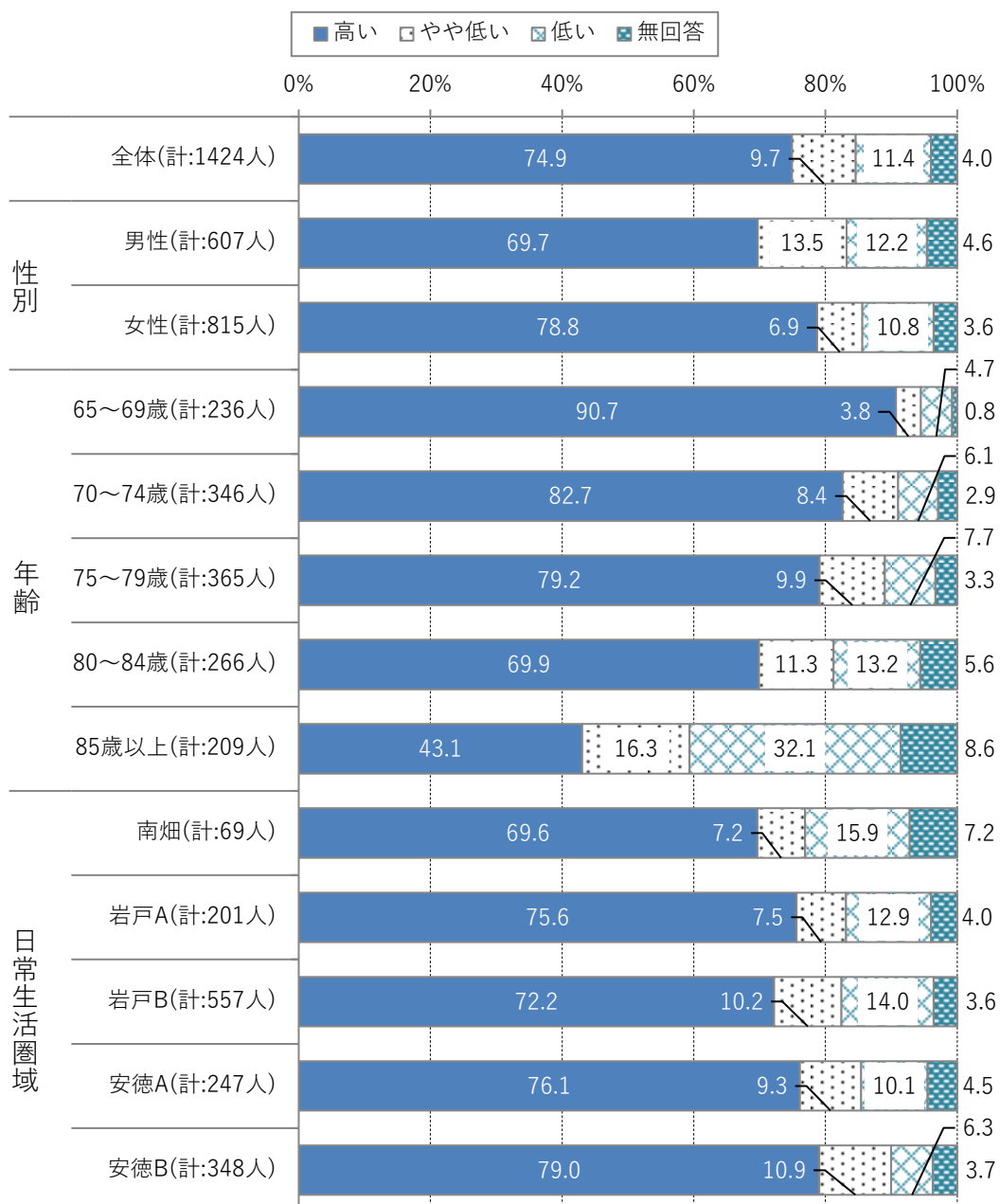
IADL (Instrumental Activities of Daily Living) とは、「手段的日常生活動作」とも言われ、電話の使い方、買い物、家事、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理など、日常生活動作ではとらえられない高次の生活機能の水準を測定するもの。

(2) IADLに係る考察

IADLが高い高齢者の割合は、男性が69.7%であるのに対して女性は78.8%であり、男性より女性の方が高い傾向にあります。

年齢階層が高くなるに従って、IADLが高い高齢者の割合は減少する傾向にありますが、80歳頃を境に急激に低下し、80～84歳では69.9%、85歳以上では43.1%となっています。なお、日常生活圏域による差異は比較的小さくなっています。

図表 8 IADLの状況



9. 日常生活圏域別分析

【南畑地区】

(1) 行政区

市ノ瀬、埋金、不入道、成竹、寺倉、南面里

(2) 地区の概要

令和4年12月1日時点の南畑地区の総人口は1,746人、そのうち65歳以上の人口は684人となっており、高齢化率は39.2%です。また、75歳以上の人口は、328人です。南畑地区の高齢化率は市内で1番目に高く、市全体の高齢化率を15.0ポイント上回っています。

| | 市全体 | | 南畑地区 | |
|---------|--------|-------|-------|-------|
| | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) |
| 総人口 | 50,007 | - | 1,746 | 3.5 |
| 高齢者 | 12,119 | 24.2 | 684 | 39.2 |
| 前期高齢者 | 6,284 | 12.6 | 356 | 20.4 |
| 後期高齢者 | 5,835 | 11.7 | 328 | 18.8 |
| 要介護等認定者 | 1,874 | 15.5 | 126 | 18.4 |

資料：住民基本台帳（令和4年12月1日現在）

(3) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

| | 運動器の機能低下 | 転倒 | 低栄養の傾向 | 口腔機能の低下 | 閉じこもり | 認知機能の低下 | うつ傾向 |
|-----|----------|-------|--------|---------|-------|---------|-------|
| 市全体 | 25.2% | 35.7% | 2.6% | 30.0% | 23.9% | 42.9% | 44.2% |
| 地区 | 29.0% | 36.2% | 1.4% | 27.5% | 26.1% | 47.8% | 44.9% |

(4) 地区の特徴

- 生活で不便だと感じていることについて、「近くにスーパーがない」という回答が他の圏域と比較して多くなっています。
- 地域での活動について、地域づくりの活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますかとたずねたところ、「既に参加している」という回答が他の圏域と比較して多くなっています。

【岩戸A地区】

(1) 行政区

西畑、別所、井尻、山田、西隈、後野

(2) 地区の概要

令和4年12月1日時点の岩戸A地区の総人口は4,461人、そのうち65歳以上の人口は1,665人となっており、高齢化率は37.3%です。また、75歳以上の人口は、880人です。岩戸A地区の高齢化率は市内で2番目に高く、市全体の高齢化率を13.1ポイント上回っています。

| | 市全体 | | 岩戸A地区 | |
|---------|--------|-------|-------|-------|
| | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) |
| 総人口 | 50,007 | - | 4,461 | 8.9 |
| 高齢者 | 12,119 | 24.2 | 1,665 | 37.3 |
| 前期高齢者 | 6,284 | 12.6 | 785 | 17.6 |
| 後期高齢者 | 5,835 | 11.7 | 880 | 19.7 |
| 要介護等認定者 | 1,874 | 15.5 | 289 | 17.4 |

資料：住民基本台帳（令和4年12月1日現在）

(3) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

| | 運動器の機能低下 | 転倒 | 低栄養の傾向 | 口腔機能の低下 | 閉じこもり | 認知機能の低下 | うつ傾向 |
|-----|----------|-------|--------|---------|-------|---------|-------|
| 市全体 | 25.2% | 35.7% | 2.6% | 30.0% | 23.9% | 42.9% | 44.2% |
| 地区 | 23.4% | 39.8% | 5.0% | 38.3% | 30.8% | 49.3% | 46.3% |

(4) 地区の特徴

- リスクの発生状況について、運動器の機能低下を除いた全てのリスクにおいて市の平均と比較して高くなっています。
- 生活で不便だと感じていることについて、「近くにスーパーがない」という回答が他の圏域と比較して多い傾向にあります。また、「路線バスの時間が合わない」という回答が他の圏域と比較して多くなっています。

【岩戸B地区】

(1) 行政区

道善、恵子、片縄谷口、片縄内田、片縄観音堂、下片縄、下片縄西、片縄今池、片縄新町、片縄緑、片縄浦ノ原、片縄丸ノ口、片縄ときわ台

(2) 地区の概要

令和4年12月1日時点の岩戸B地区の総人口は19,539人、そのうち65歳以上の人口は4,692人となっており、高齢化率は24.0%です。また、75歳以上の人口は、2,307人です。岩戸B地区の高齢化率は市内で2番目に低く、市全体の高齢化率を0.2ポイント下回っています。

| | 市全体 | | 岩戸B地区 | |
|---------|--------|-------|--------|-------|
| | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) |
| 総人口 | 50,007 | - | 19,539 | 39.1 |
| 高齢者 | 12,119 | 24.2 | 4,692 | 24.0 |
| 前期高齢者 | 6,284 | 12.6 | 2,385 | 12.2 |
| 後期高齢者 | 5,835 | 11.7 | 2,307 | 11.8 |
| 要介護等認定者 | 1,874 | 15.5 | 724 | 15.4 |

資料：住民基本台帳（令和4年12月1日現在）

(3) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

| | 運動器の機能低下 | 転倒 | 低栄養の傾向 | 口腔機能の低下 | 閉じこもり | 認知機能の低下 | うつ傾向 |
|-----|----------|-------|--------|---------|-------|---------|-------|
| 市全体 | 25.2% | 35.7% | 2.6% | 30.0% | 23.9% | 42.9% | 44.2% |
| 地区 | 29.3% | 38.1% | 1.8% | 32.5% | 23.7% | 43.8% | 44.7% |

(4) 地区の特徴

- リスクの発生状況について、低栄養の傾向と閉じこもりを除いた全てのリスクにおいて市の平均と比較して高くなっています。
- 生活で不便だと感じていることについて、「不便に感じることはない」という回答が他の圏域と比較して多い傾向にあります。

【安徳A地区】

(1) 行政区

上梶原、下梶原、安徳、東隈、仲、王塚台

(2) 地区の概要

令和4年12月1日時点の安徳A地区の総人口は6,769人、そのうち65歳以上の人口は2,004人となっており、高齢化率は29.6%です。また、75歳以上の人口は、952人です。安徳A地区の高齢化率は市内で3番目に高く、市全体の高齢化率を5.4ポイント上回っています。

| | 市全体 | | 安徳A地区 | |
|---------|--------|-------|-------|-------|
| | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) |
| 総人口 | 50,007 | - | 6,769 | 13.5 |
| 高齢者 | 12,119 | 24.2 | 2,004 | 29.6 |
| 前期高齢者 | 6,284 | 12.6 | 1,052 | 15.5 |
| 後期高齢者 | 5,835 | 11.7 | 952 | 14.1 |
| 要介護等認定者 | 1,874 | 15.5 | 300 | 15.0 |

資料：住民基本台帳（令和4年12月1日現在）

(3) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

| | 運動器の機能低下 | 転倒 | 低栄養の傾向 | 口腔機能の低下 | 閉じこもり | 認知機能の低下 | うつ傾向 |
|-----|----------|-------|--------|---------|-------|---------|-------|
| 市全体 | 25.2% | 35.7% | 2.6% | 30.0% | 23.9% | 42.9% | 44.2% |
| 地区 | 21.9% | 34.8% | 2.4% | 25.9% | 22.3% | 40.9% | 45.7% |

(4) 地区の特徴

- インターネットの利用について、自宅でパソコンやスマートフォン等を使ってインターネットを利用したことがありますかとたずねたところ、「はい」という回答が他の圏域と比較して多くなっています。
- 地域での活動について、健康づくり活動や趣味等の地域活動を行う際に、集まる場所がありますかとたずねたところ、「いいえ」という回答が他の圏域と比較して多い傾向にあります。

【安徳B地区】

(1) 行政区

五郎丸、松木、今光、中原、向原、松原

(2) 地区の概要

令和4年12月1日時点の安徳B地区の総人口は17,492人、そのうち65歳以上の人口は3,074人となっており、高齢化率は17.6%です。また、75歳以上の人口は、1,368人です。安徳B地区の高齢化率は市内で1番目に低く、市全体の高齢化率を6.6ポイント下回っています。

| | 市全体 | | 安徳B地区 | |
|---------|--------|-------|--------|-------|
| | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) |
| 総人口 | 50,007 | - | 17,492 | 35.0 |
| 高齢者 | 12,119 | 24.2 | 3,074 | 17.6 |
| 前期高齢者 | 6,284 | 12.6 | 1,706 | 9.8 |
| 後期高齢者 | 5,835 | 11.7 | 1,368 | 7.8 |
| 要介護等認定者 | 1,874 | 15.5 | 435 | 14.2 |

資料：住民基本台帳（令和4年12月1日現在）

(3) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

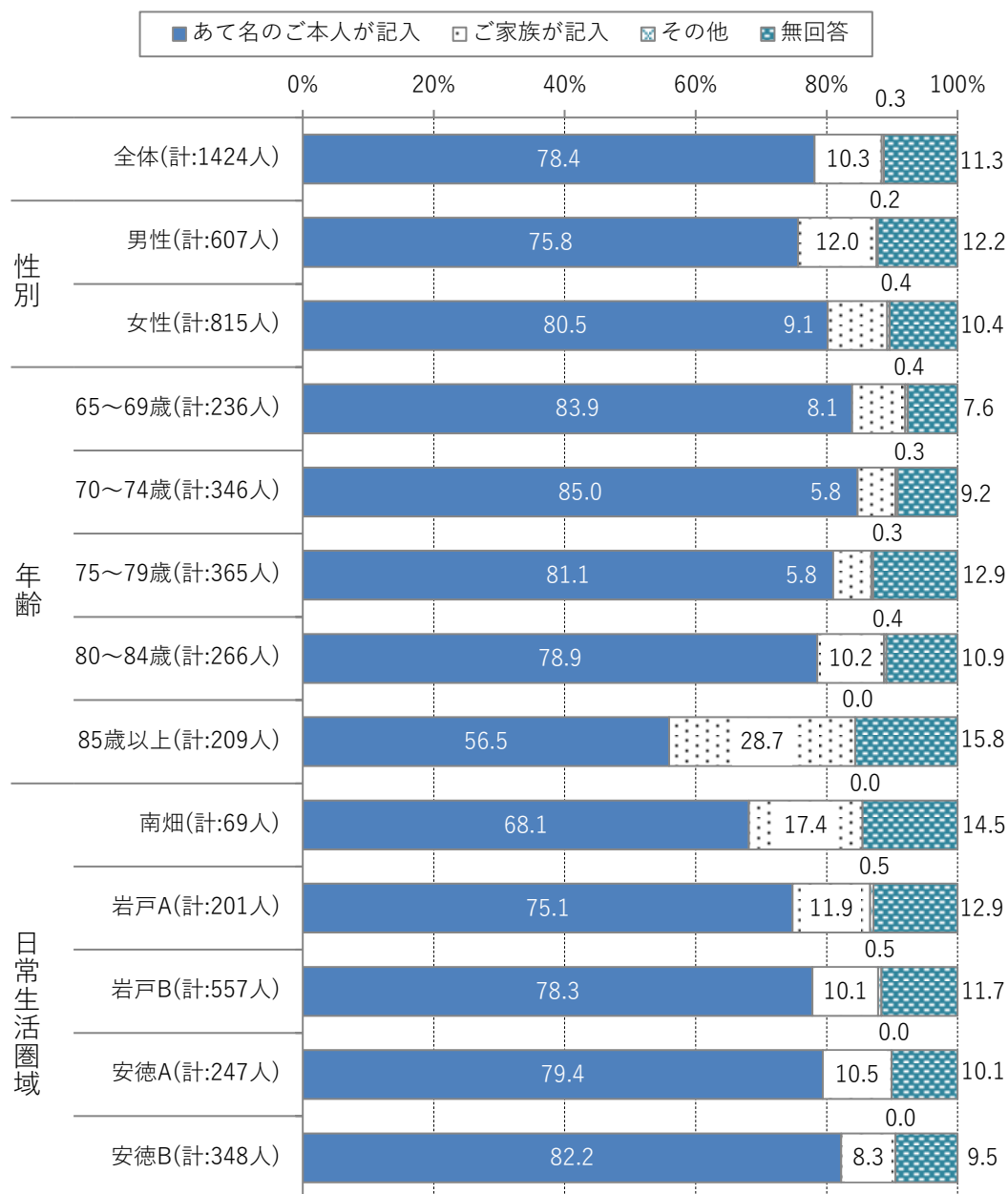
| | 運動器の機能低下 | 転倒 | 低栄養の傾向 | 口腔機能の低下 | 閉じこもり | 認知機能の低下 | うつ傾向 |
|-----|----------|-------|--------|---------|-------|---------|-------|
| 市全体 | 25.2% | 35.7% | 2.6% | 30.0% | 23.9% | 42.9% | 44.2% |
| 地区 | 21.3% | 29.9% | 2.9% | 24.7% | 20.7% | 37.9% | 40.5% |

(4) 地区の特徴

- 生活で不便だと感じていることについて、「不便に感じることはない」という回答が他の圏域と比較して多くなっています。
- 地域での活動について、健康づくり活動や趣味等の地域活動を行う際に、集まる場所がありますかとたずねたところ、「いいえ」という回答が他の圏域と比較して多くなっています。

第3章 設問ごとの分析

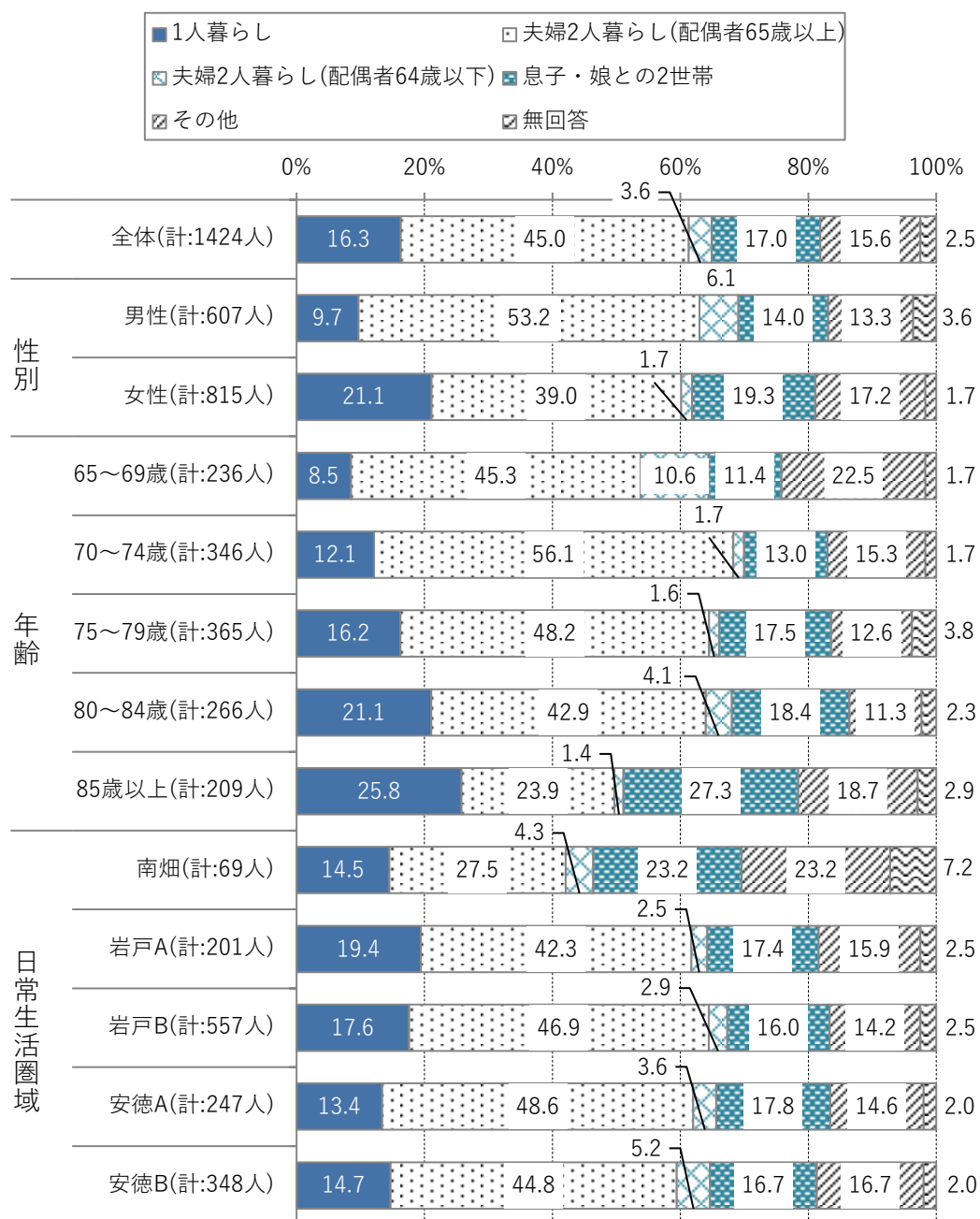
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。



●調査票を記入されたのはどなたですかとたずねたところ、「あて名のご本人が記入」と回答した人が最も多く、78.4%となっています。次いで、「ご家族が記入」(10.3%)、「その他」(0.3%)と続いています。

問 1 あなたの家族や生活状況について

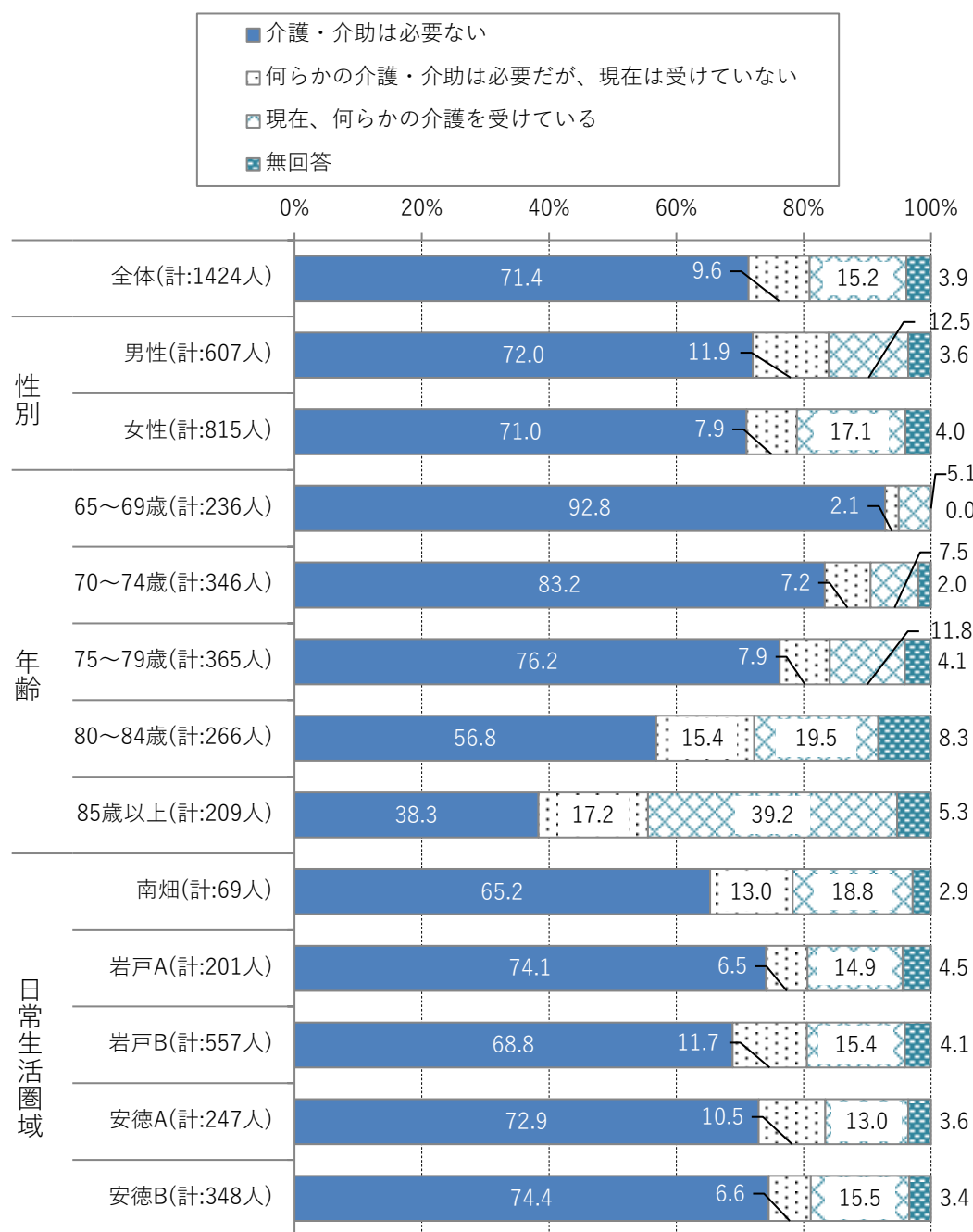
問 1 (1) 家族構成をお教えてください



●家族構成をたずねたところ、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」と回答した人の割合が最も高く、45.0%となっています。次いで、「息子・娘との2世帯」(17.0%)、「1人暮らし」(16.3%)と続いています。

●年齢階層別にみると、加齢に伴って「1人暮らし」と回答した人の割合が増加する傾向にあり、65~69歳では8.5%であったのが、85歳以上では25.8%になっています。

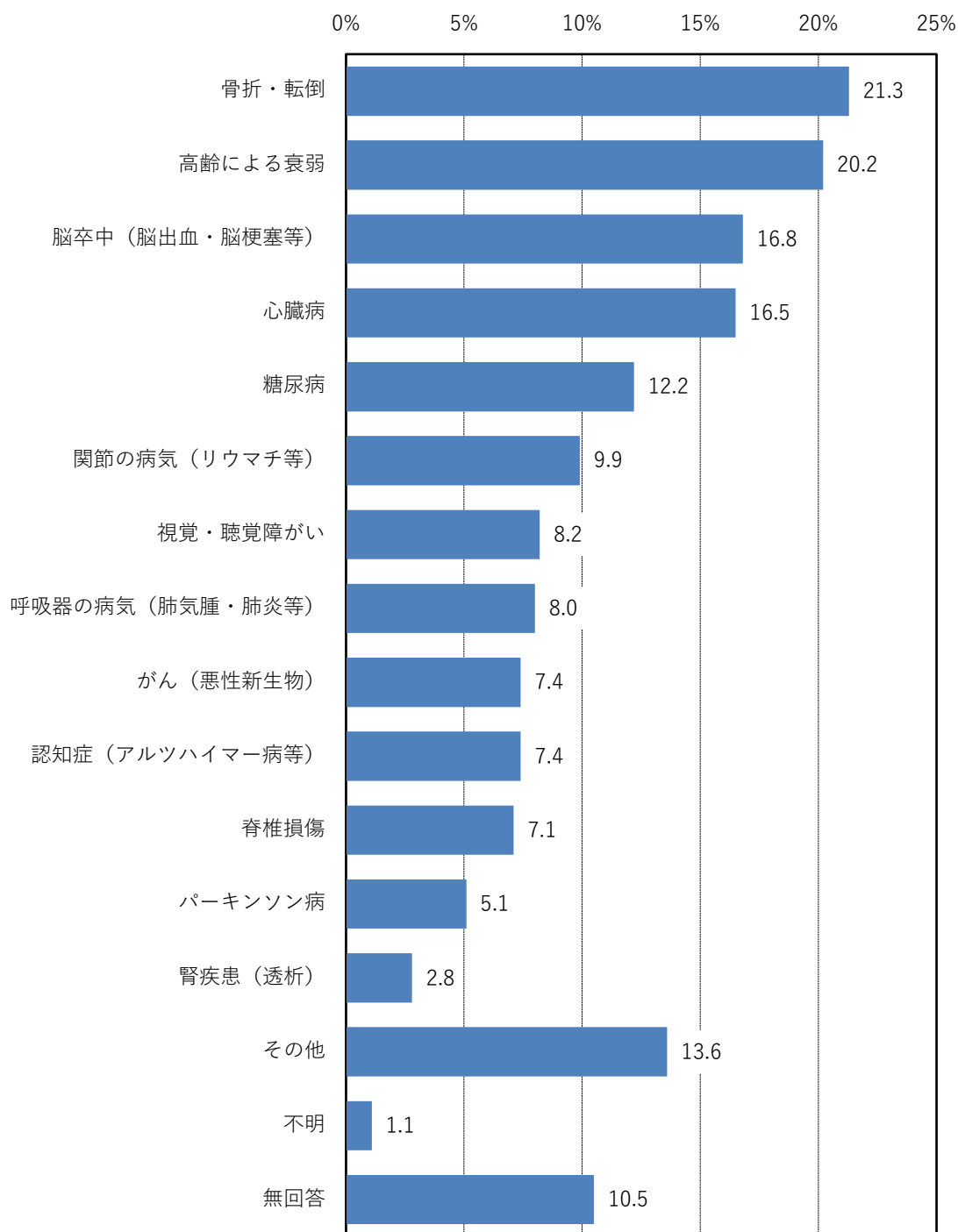
問1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか



- あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですかとたずねたところ、「介護・介助は必要ない」と回答した人の割合が最も高く、71.4%となっています。次いで、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」（15.2%）、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」（9.6%）と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「介護・介助は必要ない」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65～69歳では92.8%であったのが、85歳以上では38.3%になっています。

【(2) において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

問1 (2) ①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか

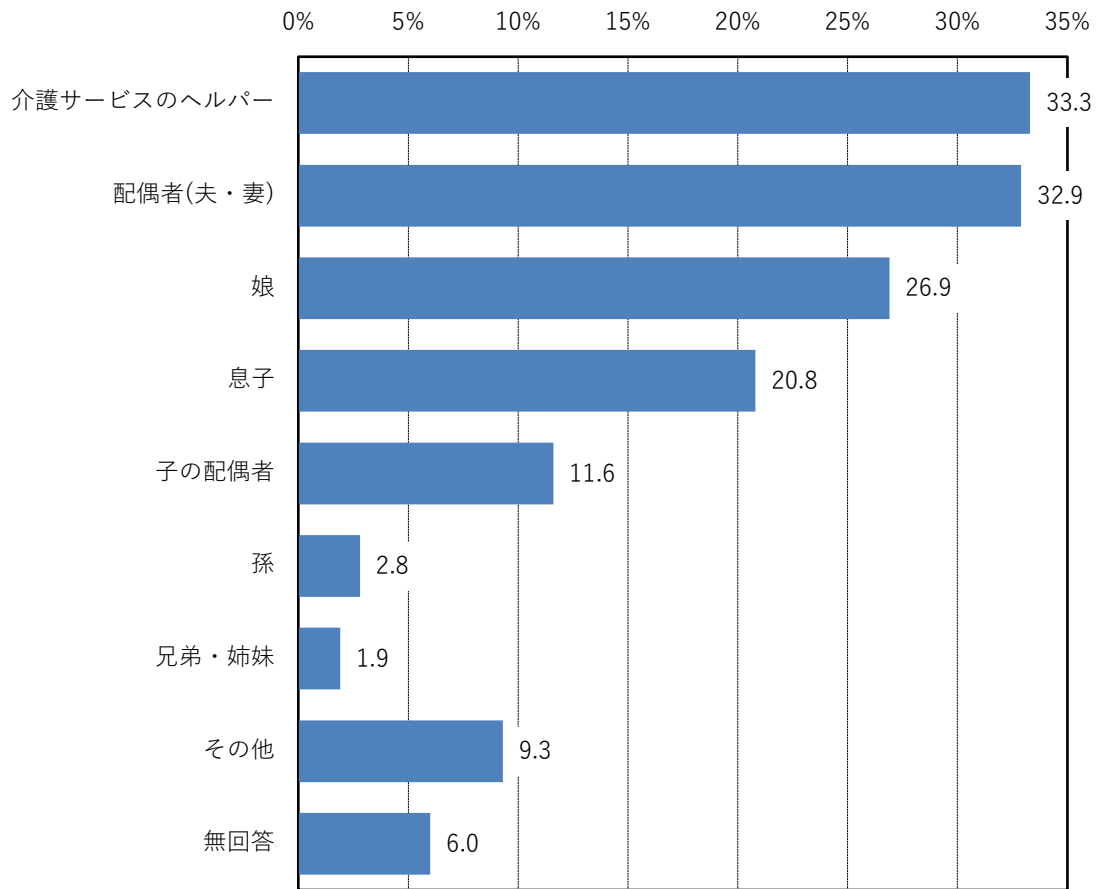


計：352人

●普段の生活でどなたかの「介護・介助が必要ない」と回答した以外の人に、介護・介助が必要になった主な原因をたずねたところ、「骨折・転倒」と回答した人が最も多く、21.3%となっています。次いで、「高齢による衰弱」(20.2%)、「脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)」(16.8%)と続いています。

【(2) において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

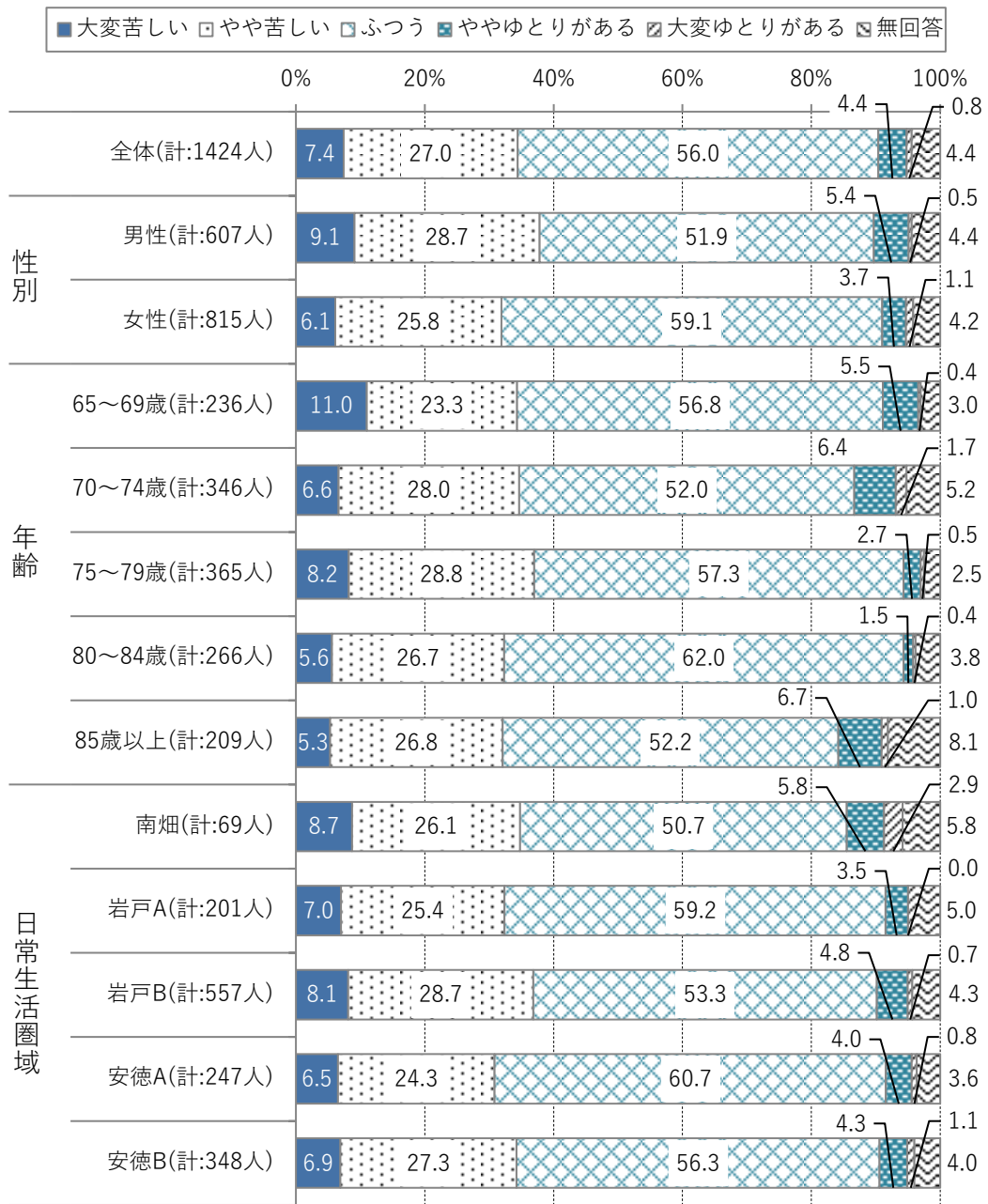
問1 (2) ②主にどなたの介護、介助を受けていますか



計：216人

● 普段の生活でどなたかの「介護を受けている」と回答した人に主にどなたの介護、介助を受けているかとたずねたところ、「介護サービスのヘルパー」と回答した人が最も多く、33.3%となっています。次いで、「配偶者(夫・妻)」(32.9%)、「娘」(26.9%)と続いています。

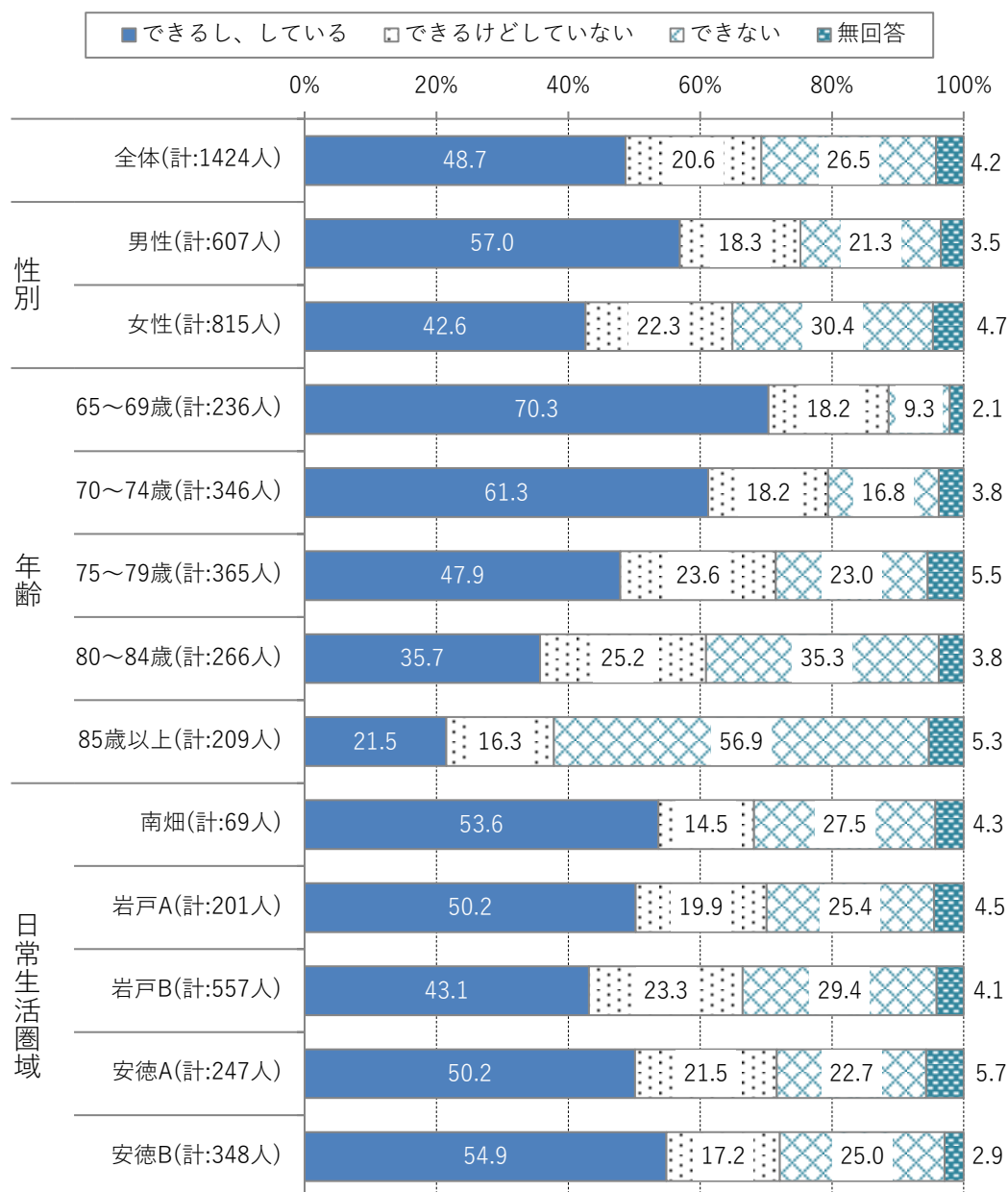
問1 (3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか



●現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますかとたずねたところ、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、56.0%となっています。次いで、「やや苦しい」(27.0%)、「大変苦しい」(7.4%)と続いています。

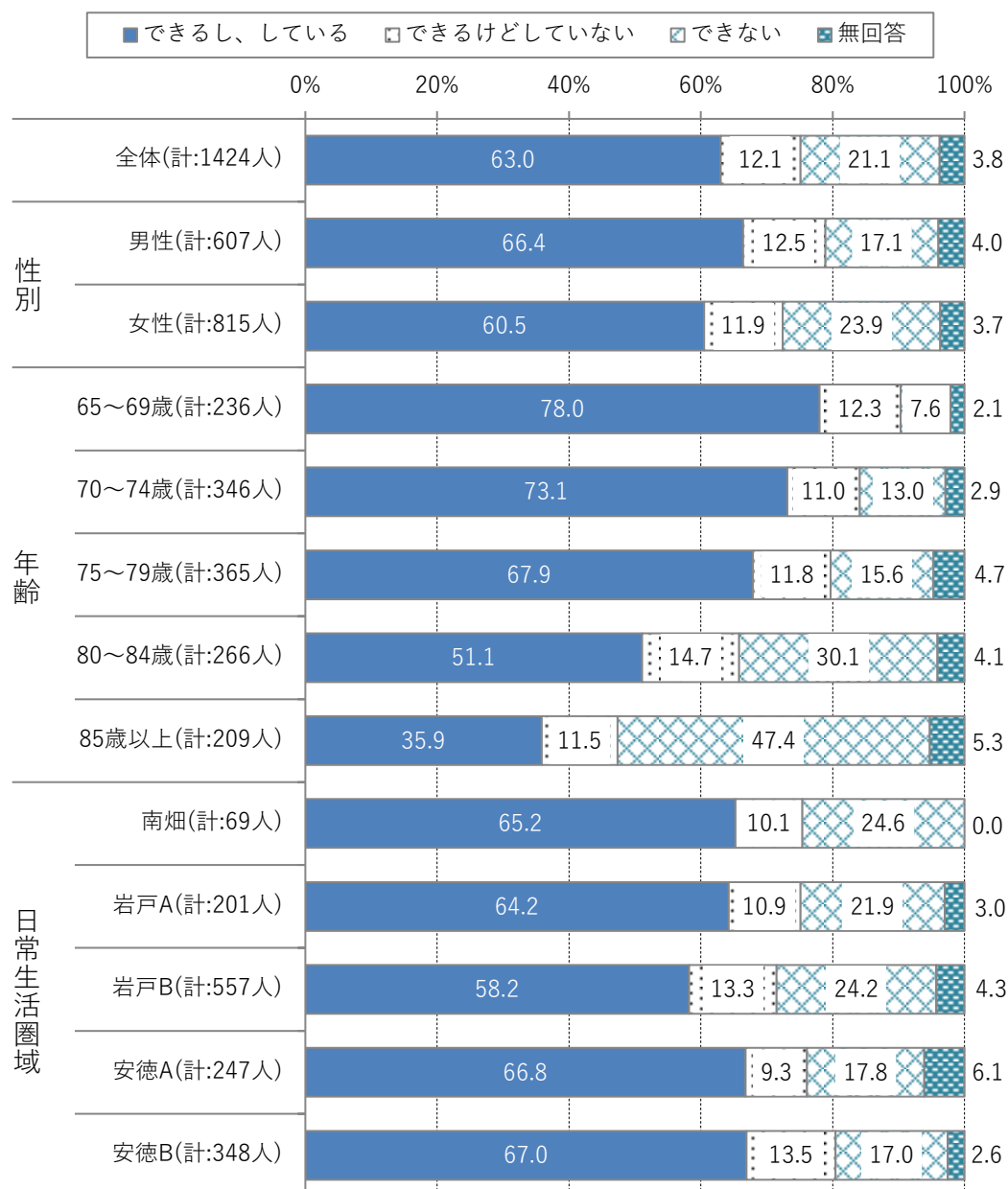
問2 からだを動かすことについて

問2（1）階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか



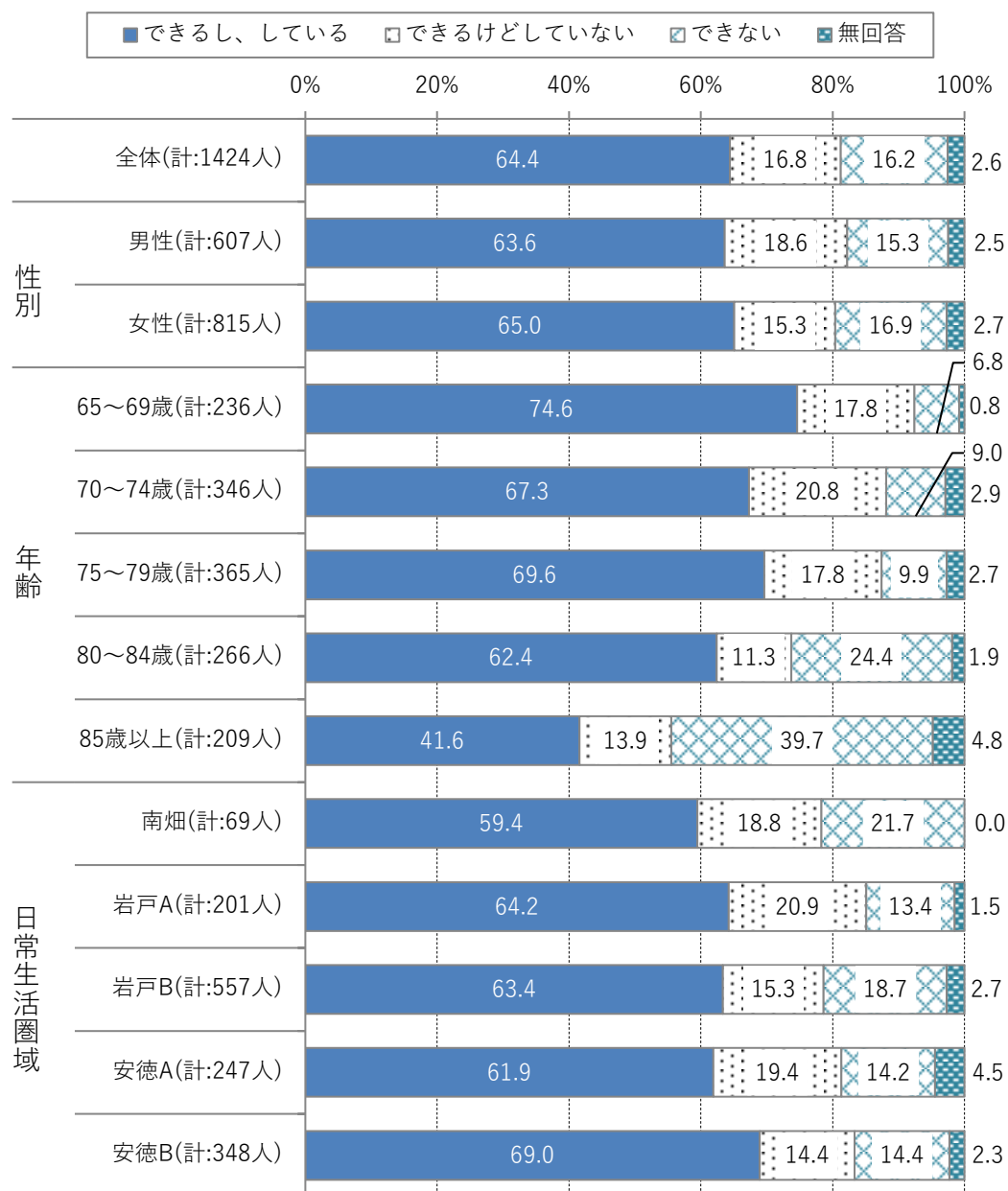
- 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、48.7%となっています。次いで、「できない」(26.5%)、「できるけどしていない」(20.6%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「できるし、している」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65～69歳では70.3%であったのが、85歳以上では21.5%になっています。

問2（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか



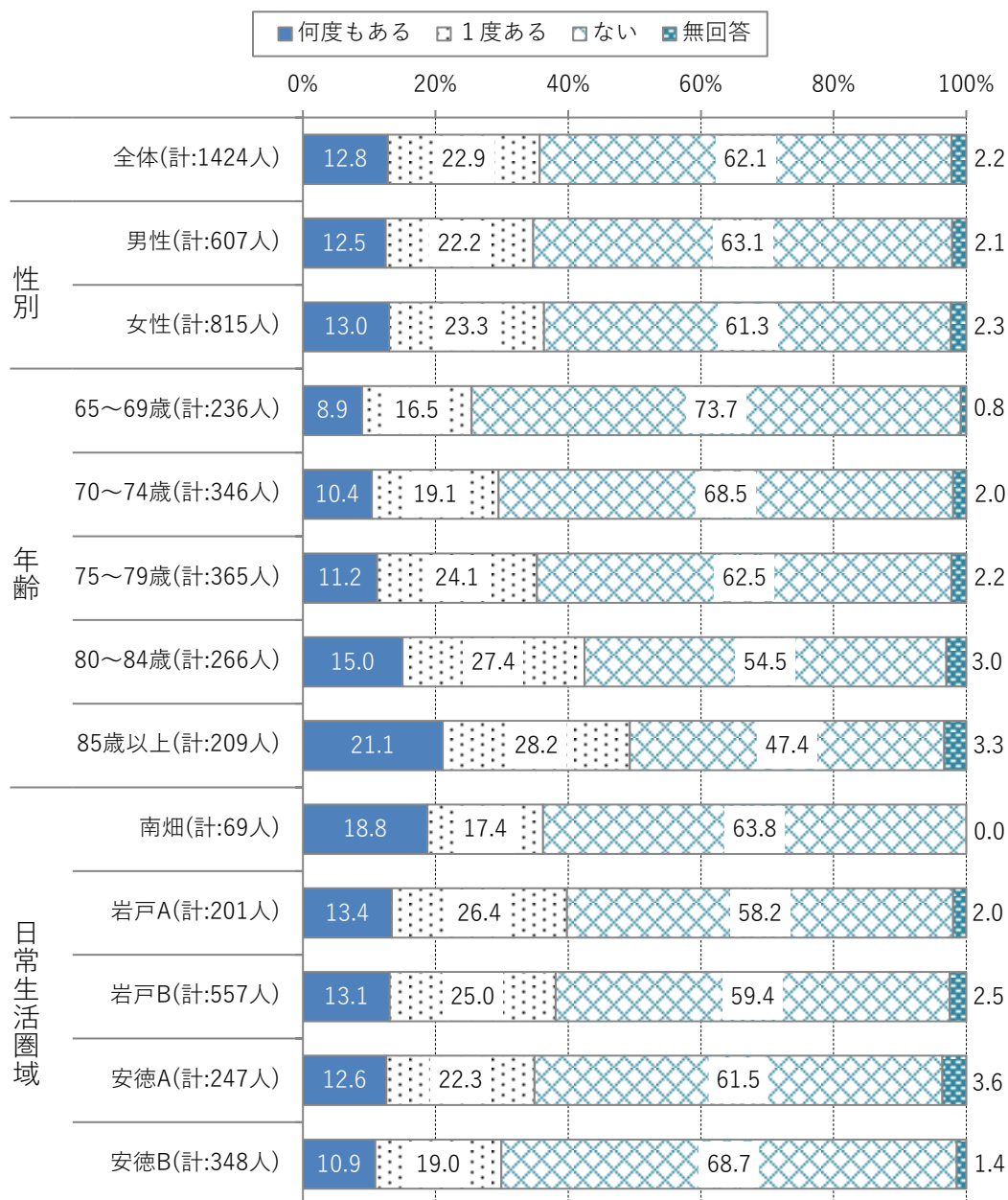
- 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、63.0%となっています。次いで、「できない」(21.1%)、「できるけどしていない」(12.1%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「できるし、している」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65～69歳では78.0%であったのが、85歳以上では35.9%になっています。

問2（3）15分位続けて歩いていますか



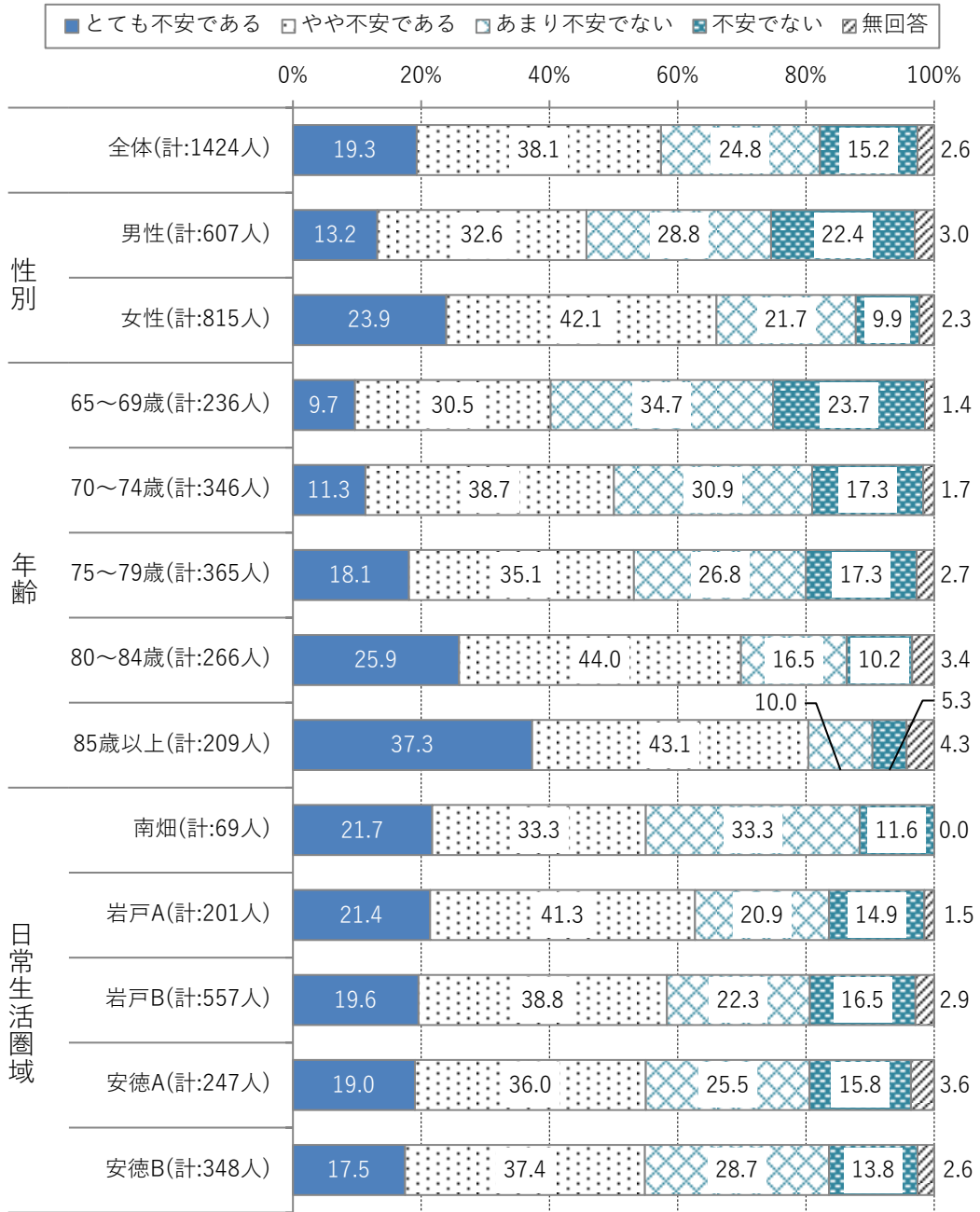
- 15分位続けて歩いていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、64.4%となっています。次いで、「できるけどしていない」（16.8%）、「できない」（16.2%）と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「できるし、している」と回答した人の割合が概ね減少する傾向にあり、65～69歳では74.6%であったのが、85歳以上では41.6%になっています。

問2（4）過去1年間に転んだ経験がありますか



- 過去1年間に転んだ経験がありますかとたずねたところ、「ない」と回答した人の割合が最も高く、62.1%となっています。次いで、「1度ある」(22.9%)、「何でもある」(12.8%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「何でもある」と回答した人の割合が増加する傾向にあり、65～69歳では8.9%であったのが、85歳以上では21.1%になっています。

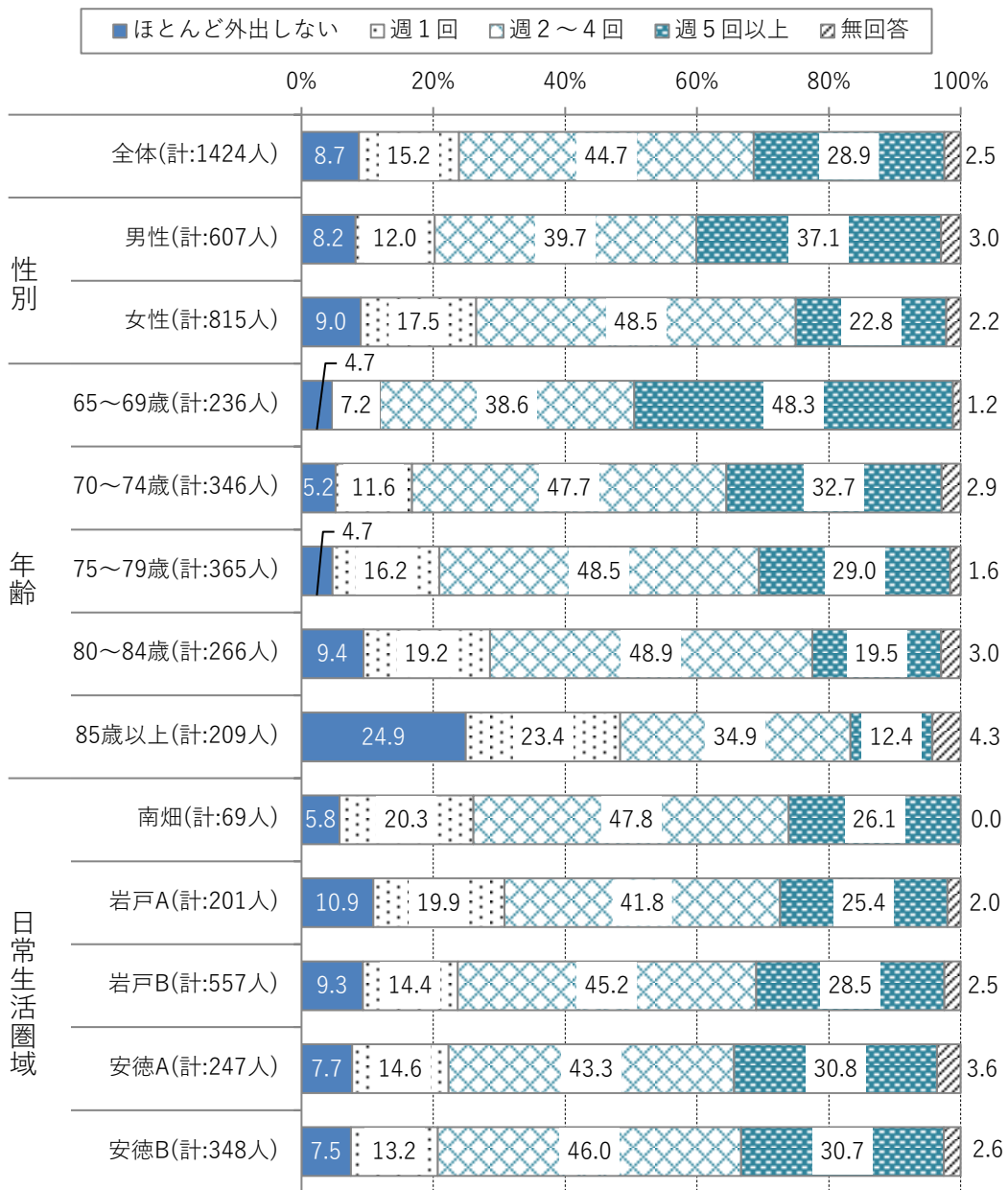
問2 (5) 転倒に対する不安は大きいですか



●転倒に対する不安は大きいですかとたずねたところ、「やや不安である」と回答した人の割合が最も高く、38.1%となっています。次いで、「あまり不安でない」(24.8%)、「とても不安である」(19.3%)と続いています。

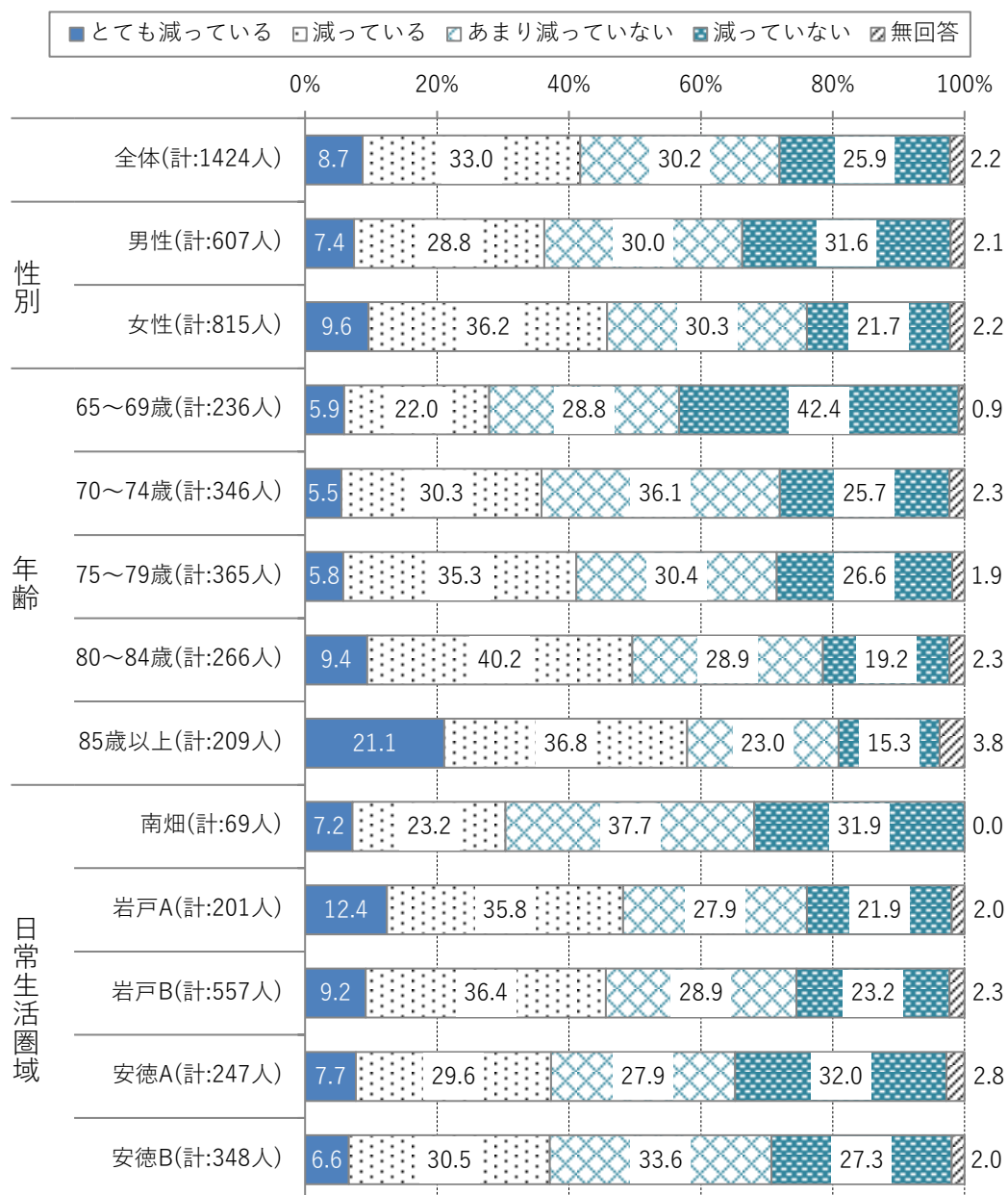
●年齢階層別にみると、加齢に伴って「とても不安である」と回答した人の割合が増加する傾向にあり、65～69歳では9.7%であったのが、85歳以上では37.3%になっています。

問2（6）週に1回以上は外出していますか



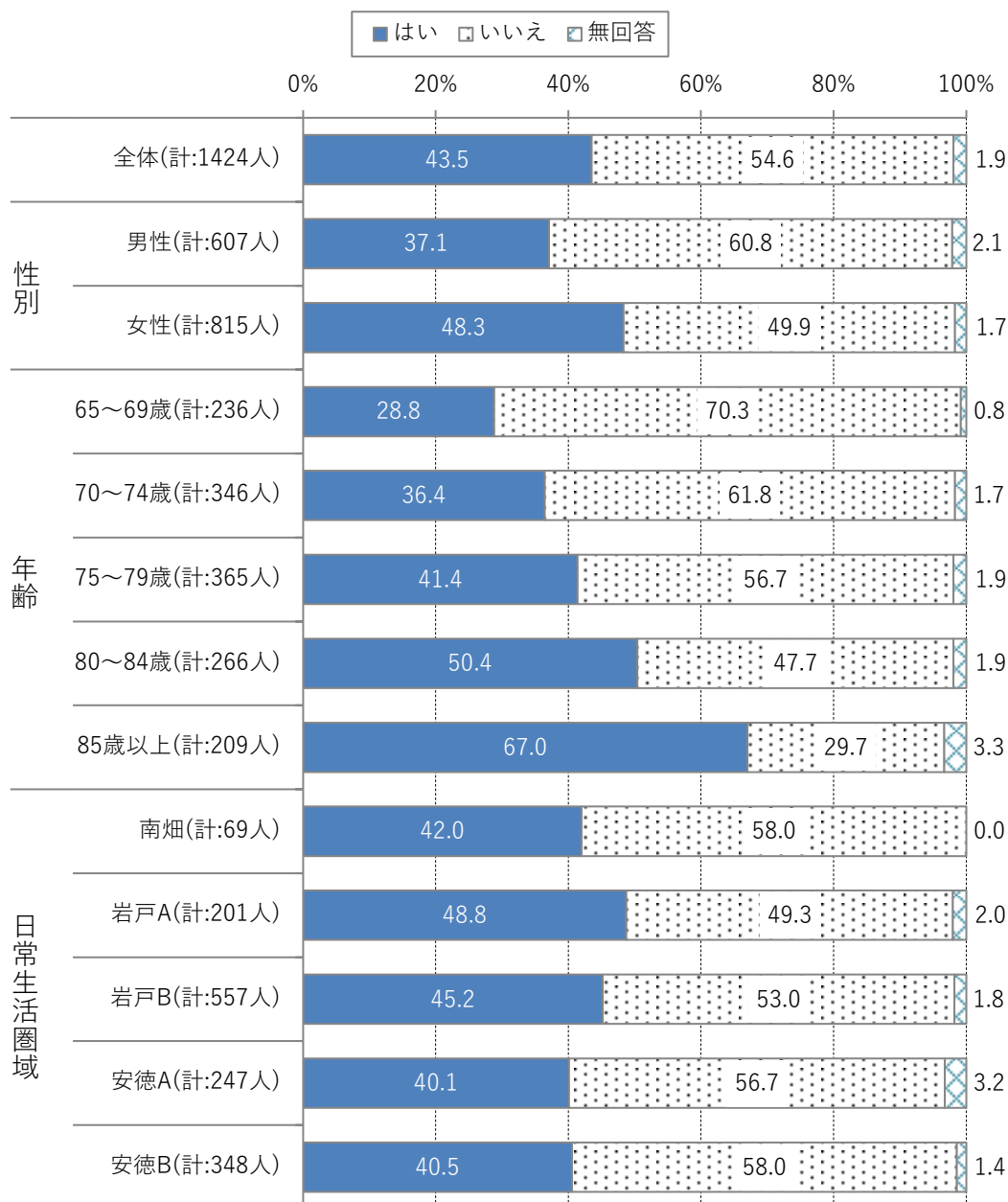
- 週に1回以上は外出していますかとたずねたところ、「週2～4回」と回答した人の割合が最も高く、44.7%となっています。次いで、「週5回以上」(28.9%)、「週1回」(15.2%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「ほとんど外出しない」と回答した人の割合が概ね増加する傾向にあり、65～69歳では4.7%であったのが、85歳以上では24.9%になっています。

問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか



- 昨年と比べて外出の回数が減っていますかとたずねたところ、「減っている」と回答した人の割合が最も高く、33.0%となっています。次いで、「あまり減っていない」(30.2%)、「減っていない」(25.9%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「とても減っている」と回答した人の割合が概ね増加する傾向にあり、65～69歳では5.9%であったのが、85歳以上では21.1%になっています。

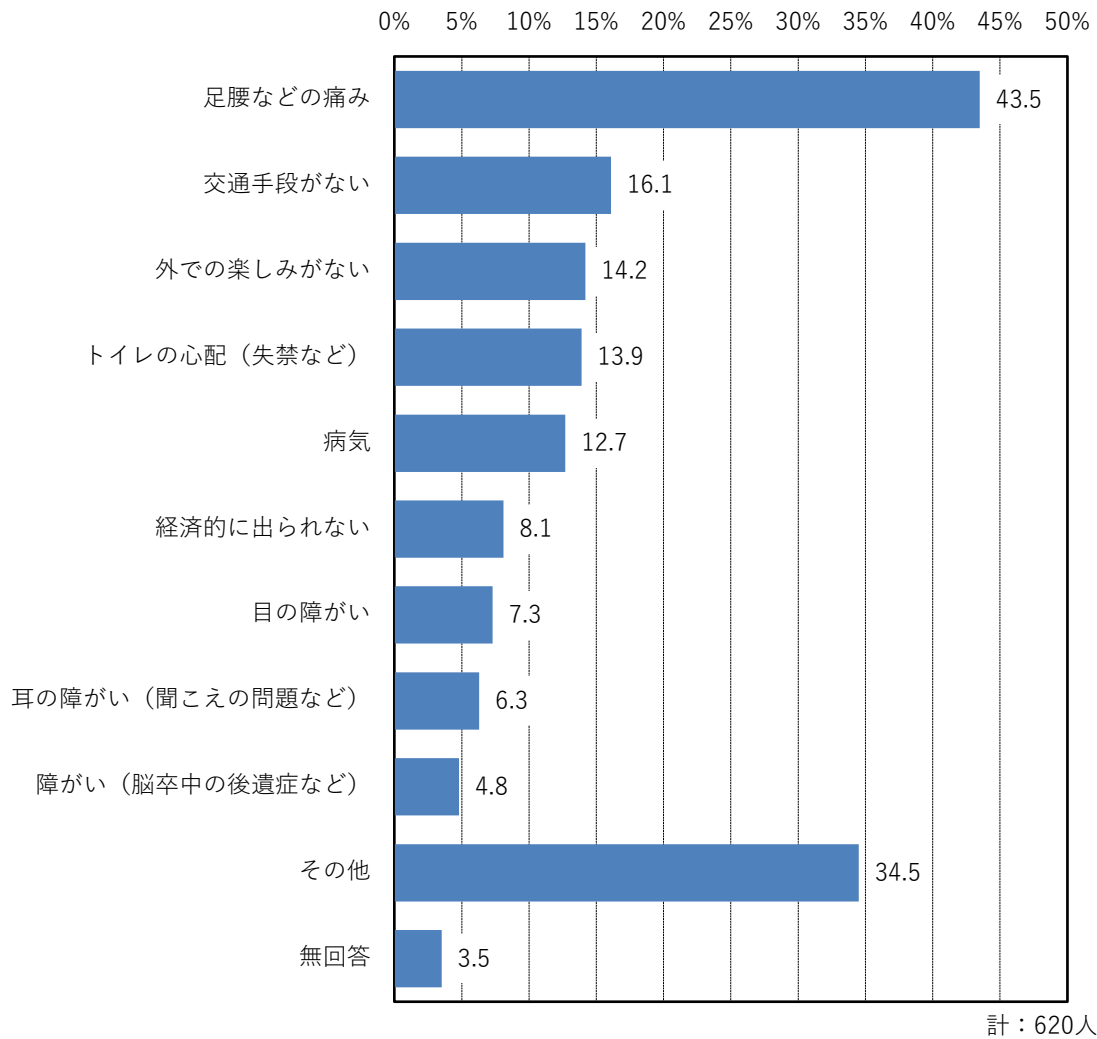
問2（8）外出を控えていますか



- 外出を控えていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は 43.5%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は 54.6%となっています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「はい」と回答した人の割合が増加する傾向にあり、65～69歳では 28.8%であったのが、85歳以上では 67.0%になっています。

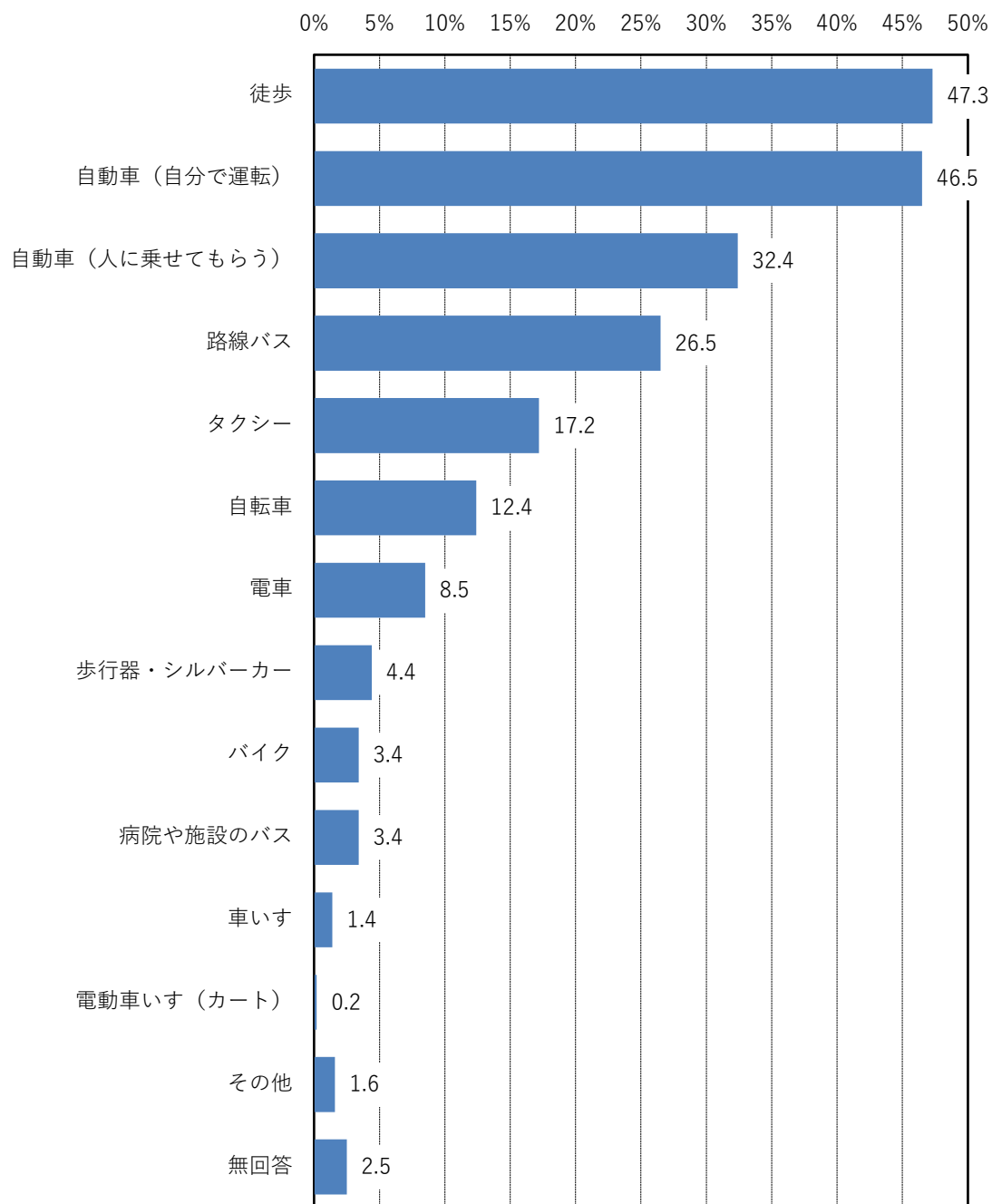
【(8) において「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

問2 (8) ①外出を控えている理由は、次のどれですか



- 外出を控えていると回答した人に、外出を控えている理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」と回答した人が最も多く、43.5%となっています。次いで、「交通手段がない」(16.1%)、「外での楽しみがない」(14.2%)と続いています。
- 前回の調査結果と比較すると、その他(34.5%)と回答した人の割合が大幅に増えています(前回：12.1%)。
- その他の理由をたずねたところ、意見の大半が新型コロナウイルス感染症に関するものでした。

問2（9）外出する際の移動手段は何ですか



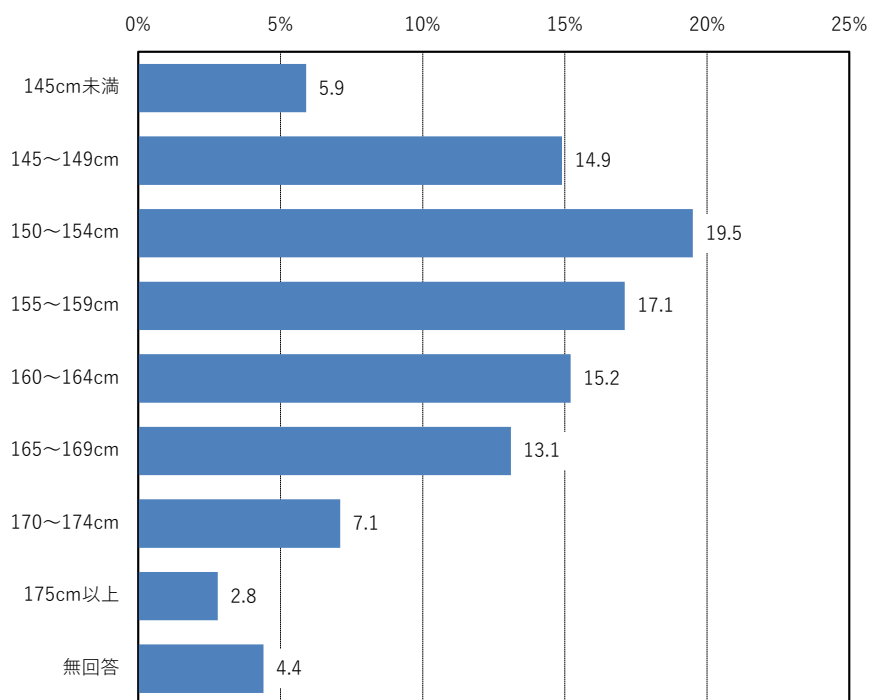
計：1424人

- 外出する際の移動手段をたずねたところ、「徒歩」と回答した人が最も多く、47.3%となっています。次いで、「自動車（自分で運転）」(46.5%)、「自動車（人に乗せてもらう）」(32.4%)と続いています。
- 前回の調査結果と比較すると、「路線バス」（前回：40.6%）や「電車」（前回：14.3%）と回答した人の割合が減少しています。
- 「路線バス」や「電車」等の公共交通機関について回答割合が減少した理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられます。

問3 食べることについて

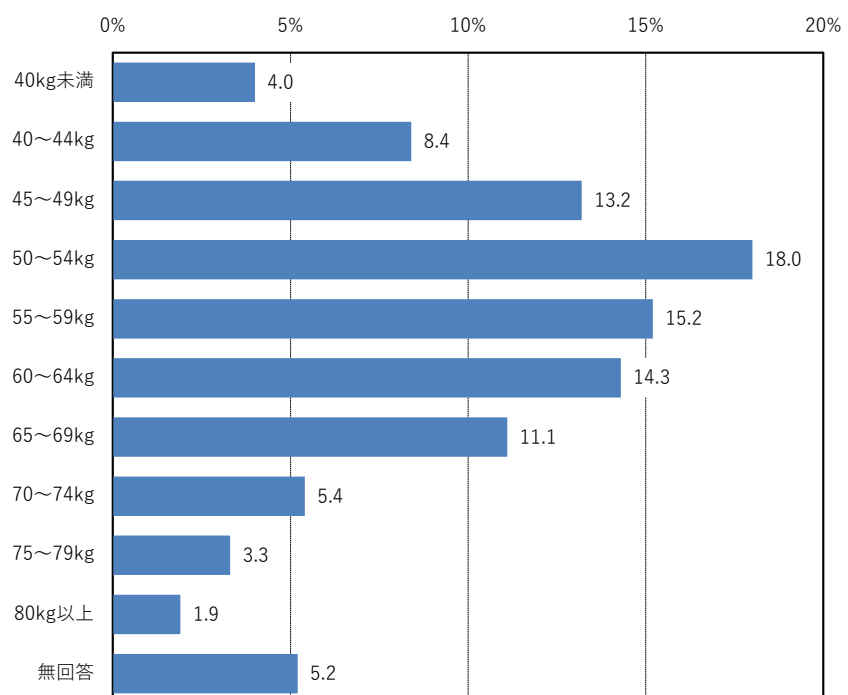
問3 (1)

身長



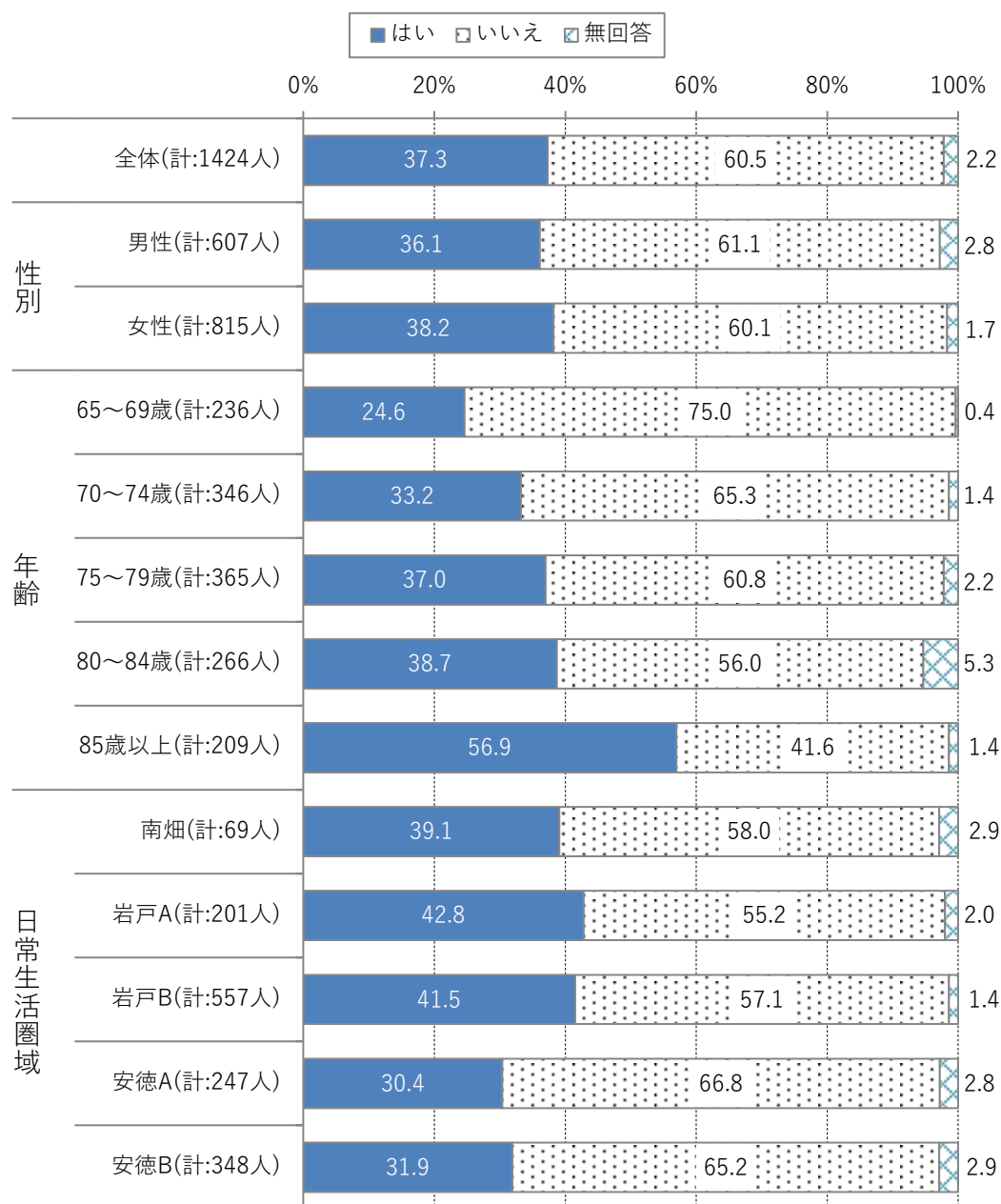
計：1424人

体重



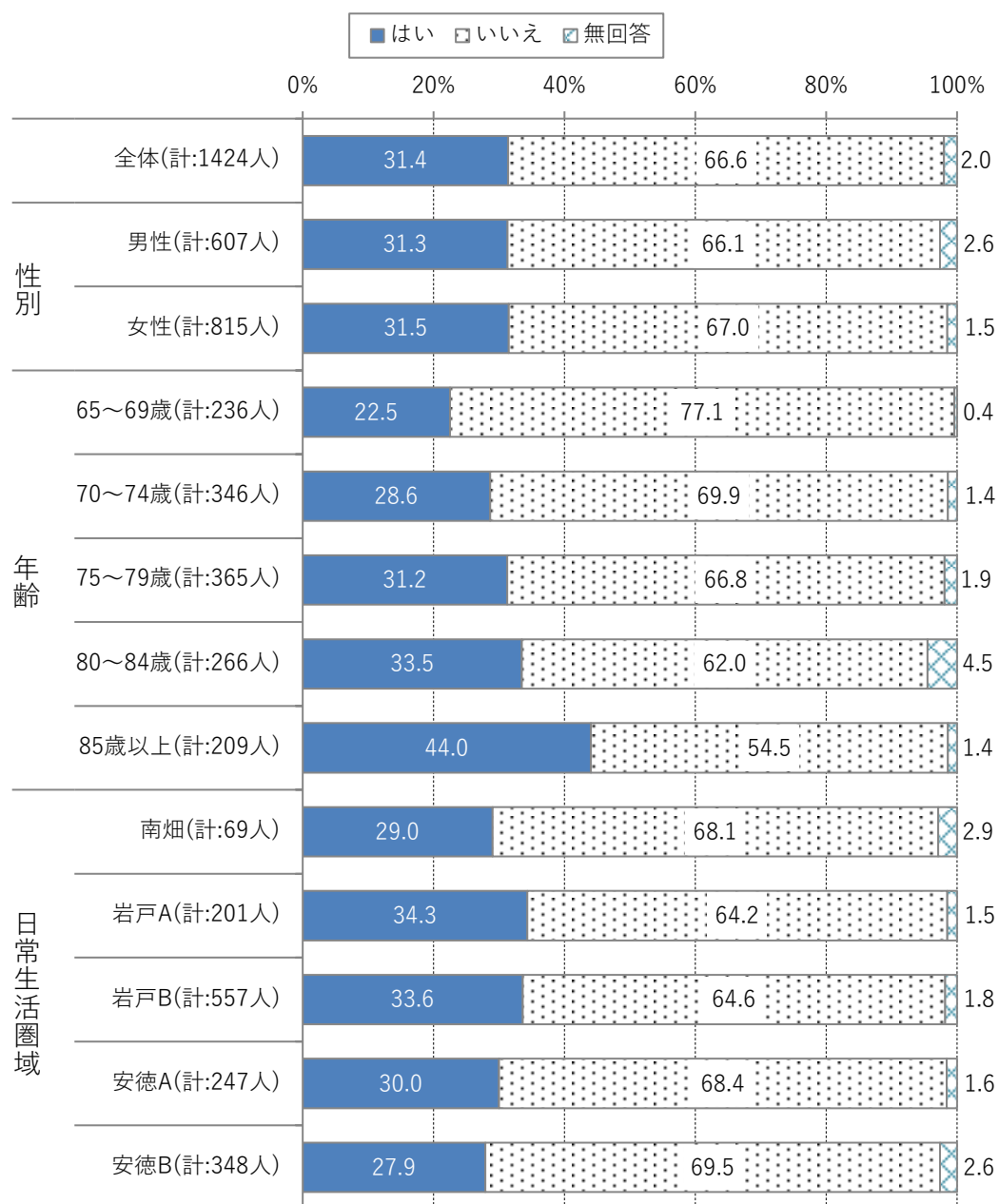
計：1424人

問3（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか



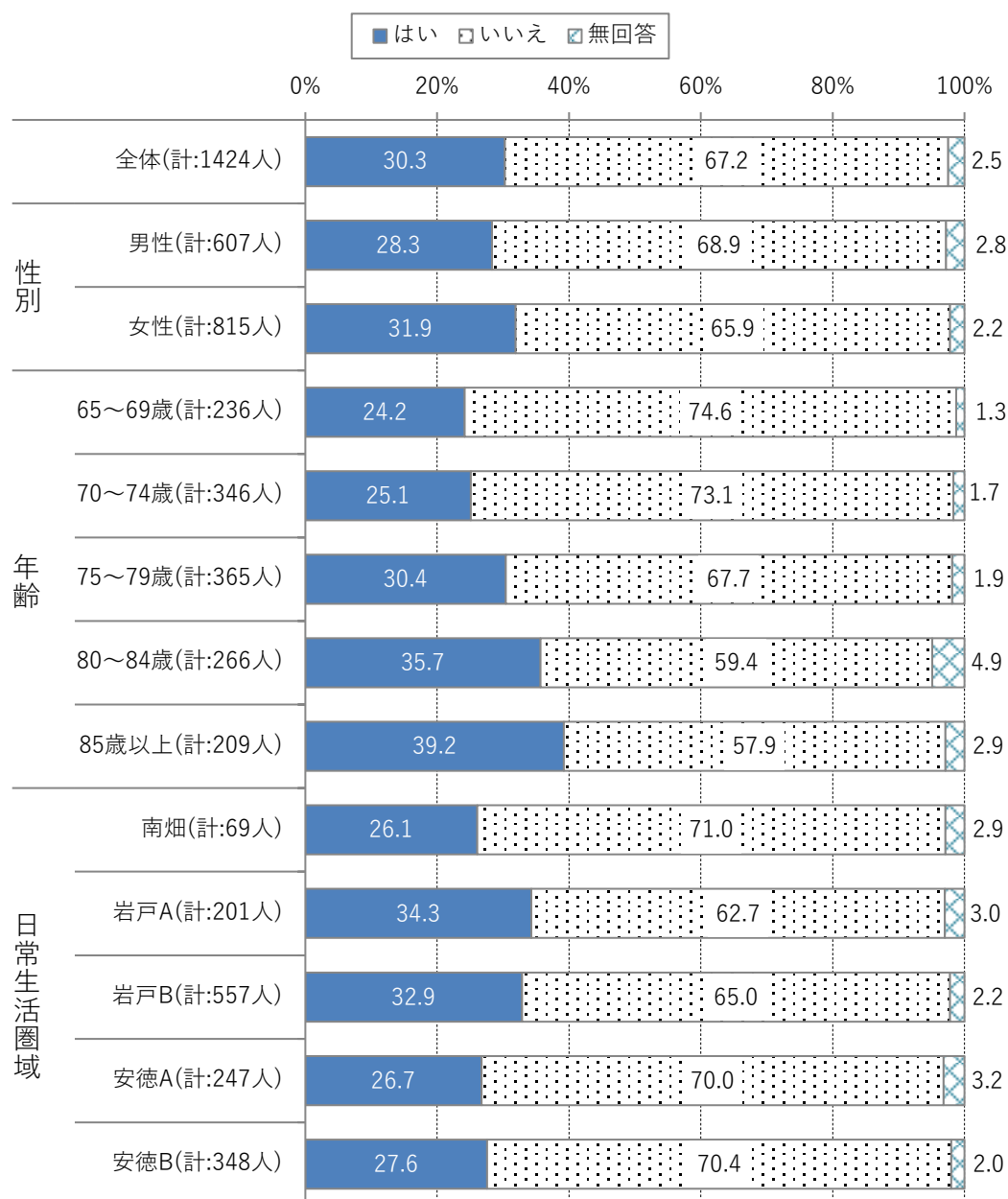
- 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は37.3%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は60.5%となっています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「はい」と回答した人の割合が増加する傾向にあり、65～69歳では24.6%であったのが、85歳以上では56.9%になっています。

問3 (3) お茶や汁物等でむせることがありますか



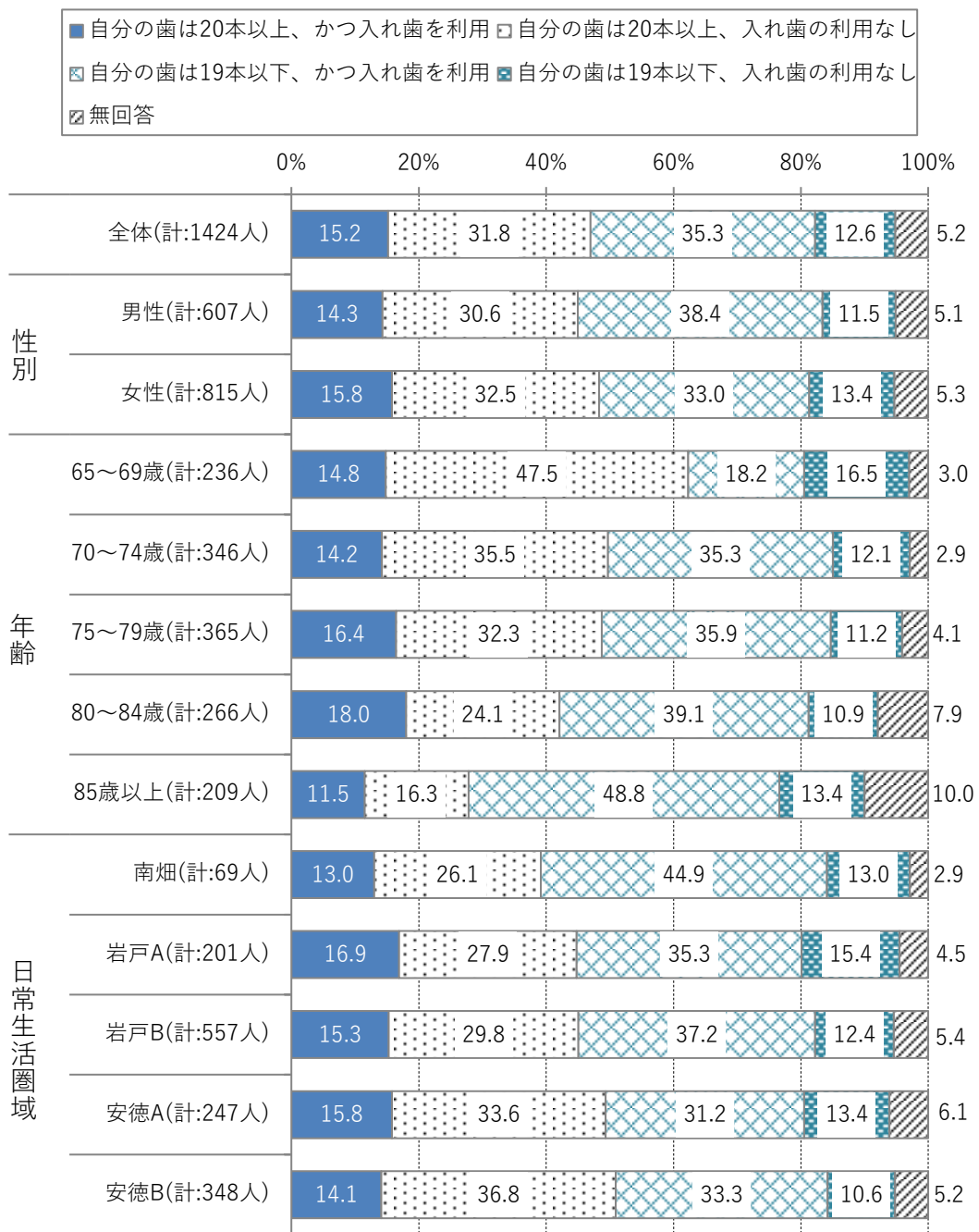
- お茶や汁物等でむせることがありますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は31.4%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は66.6%となっています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「はい」と回答した人の割合が増加する傾向にあり、65～69歳では22.5%であったのが、85歳以上では44.0%になっています。

問3 (4) 口の渇きが気になりますか



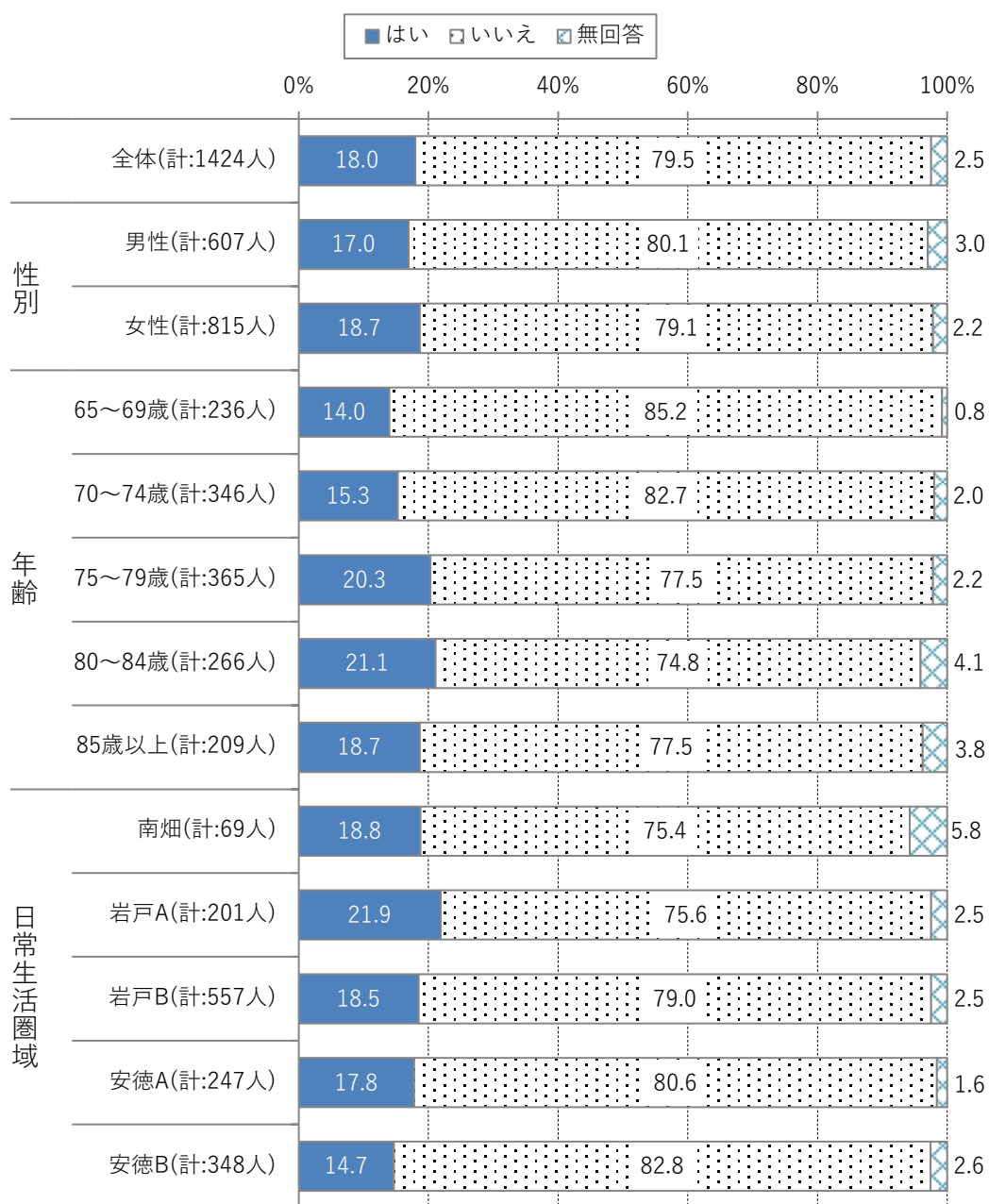
●口の渇きが気になりますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は30.3%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は67.2%となっています。

問3 (5) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください



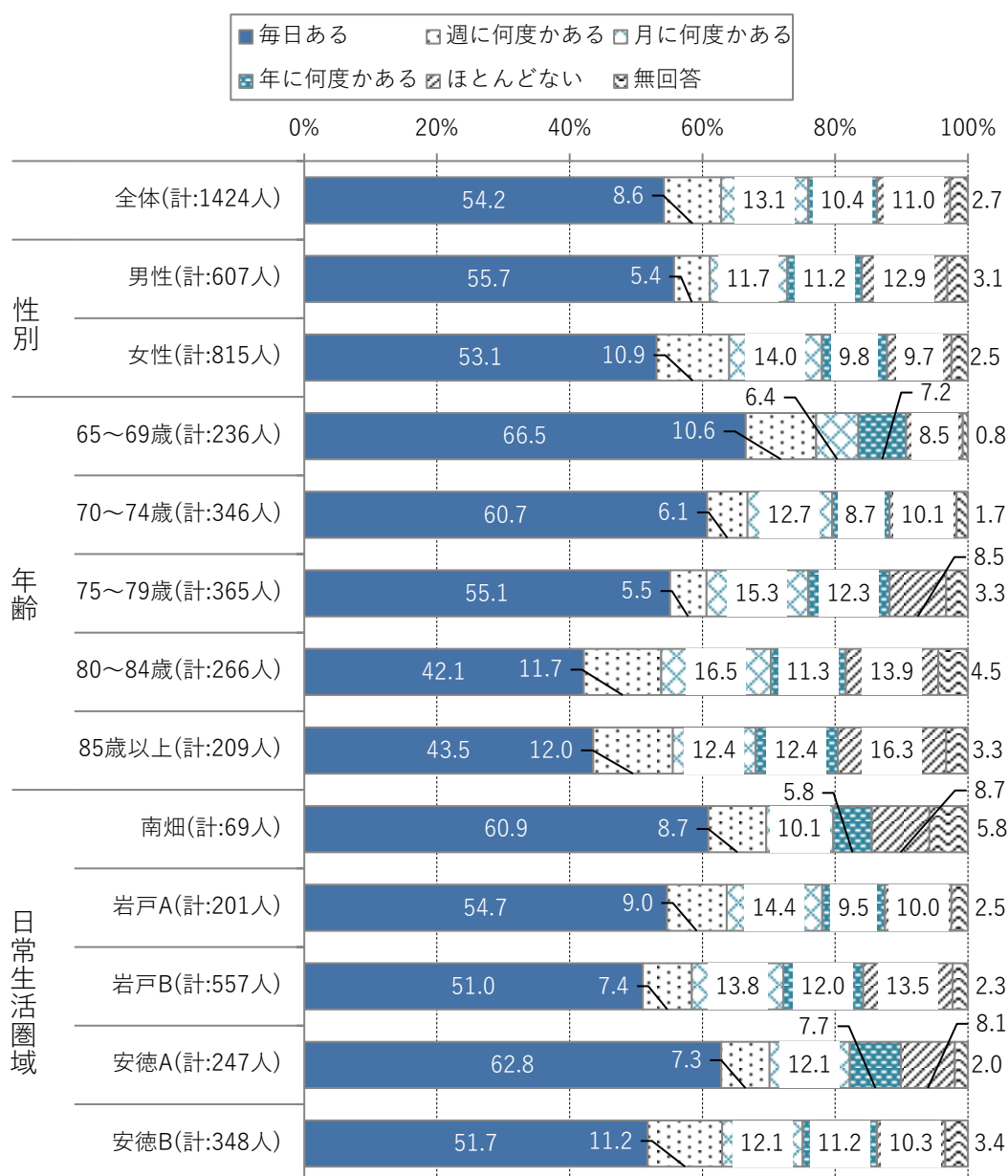
●歯の数と入れ歯の利用状況をたずねたところ、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した人の割合が最も高く、35.3%となっています。次いで、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」(31.8%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(15.2%)と続いています。

問3 (6) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか



● 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は18.0%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は79.5%となっています。

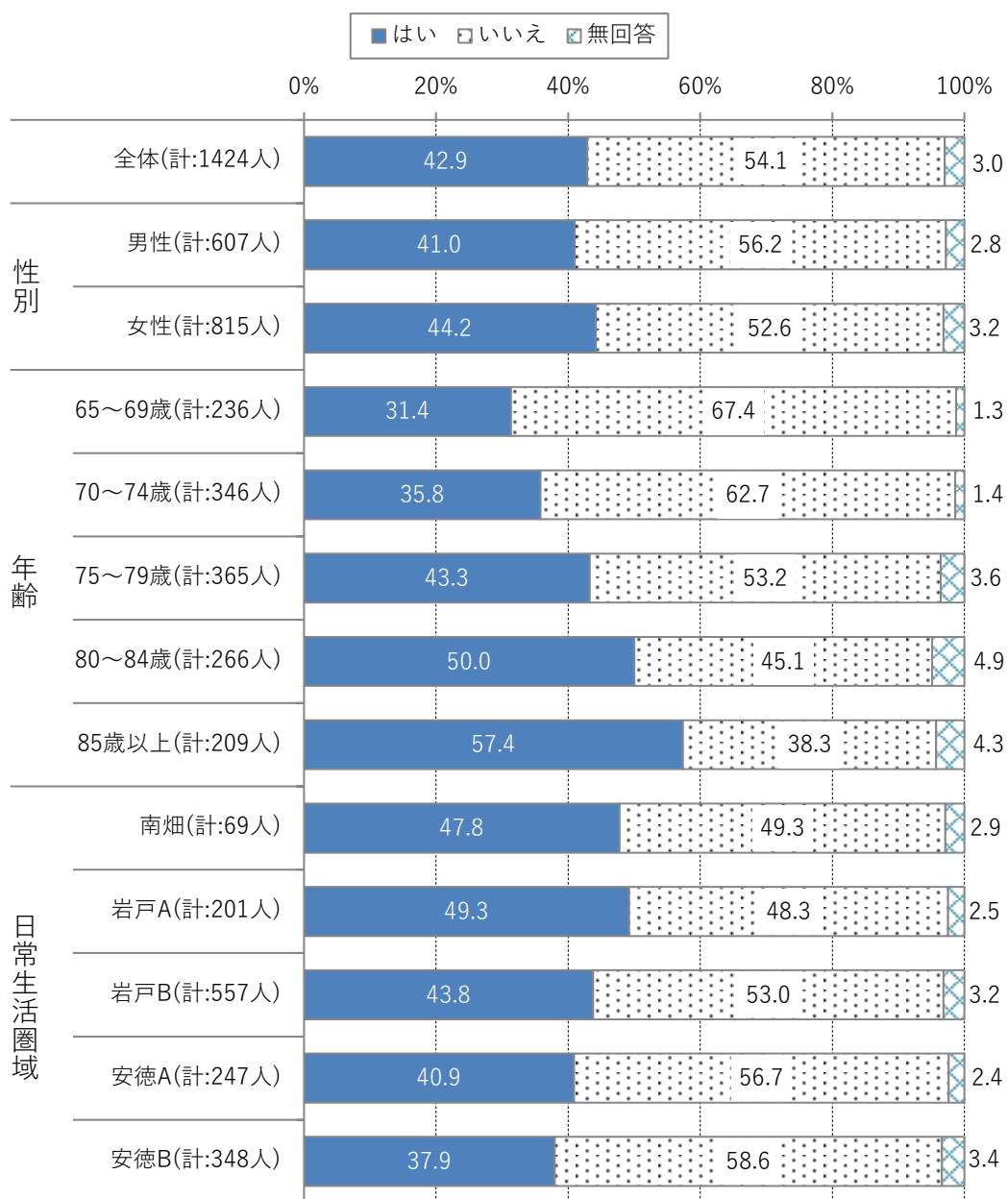
問3（7）どなたかと食事をとる機会がありますか



- どなたかと食事をとる機会がありますかとたずねたところ、「毎日ある」と回答した人の割合が最も高く、54.2%となっています。次いで、「月に何度かある」(13.1%)、「ほとんどない」(11.0%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「毎日ある」と回答した人の割合が概ね減少する傾向にあり、65～69歳では66.5%であったのが、85歳以上では43.5%になっています。

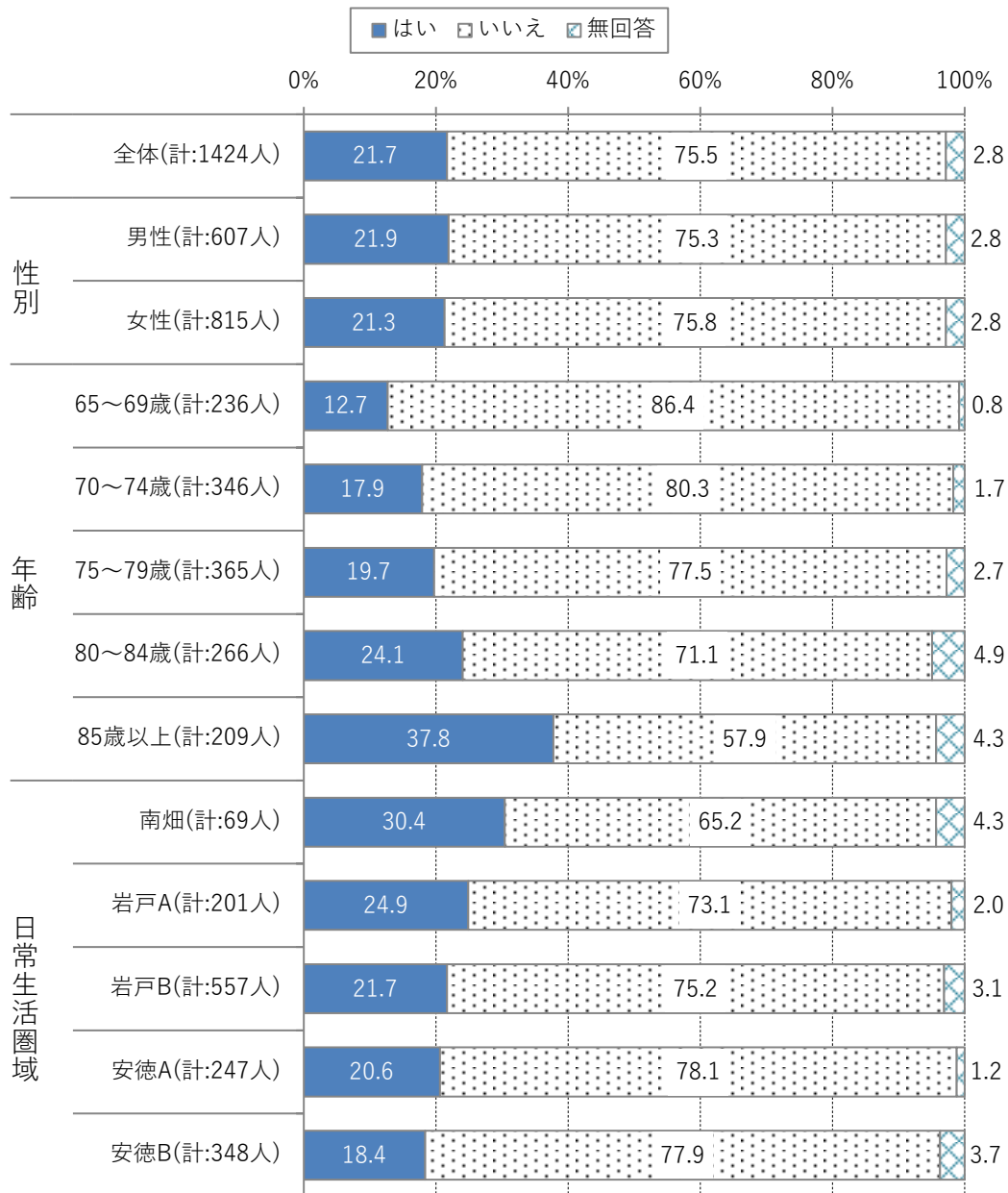
問4 毎日の生活について

問4 (1) 物忘れが多いと感じますか



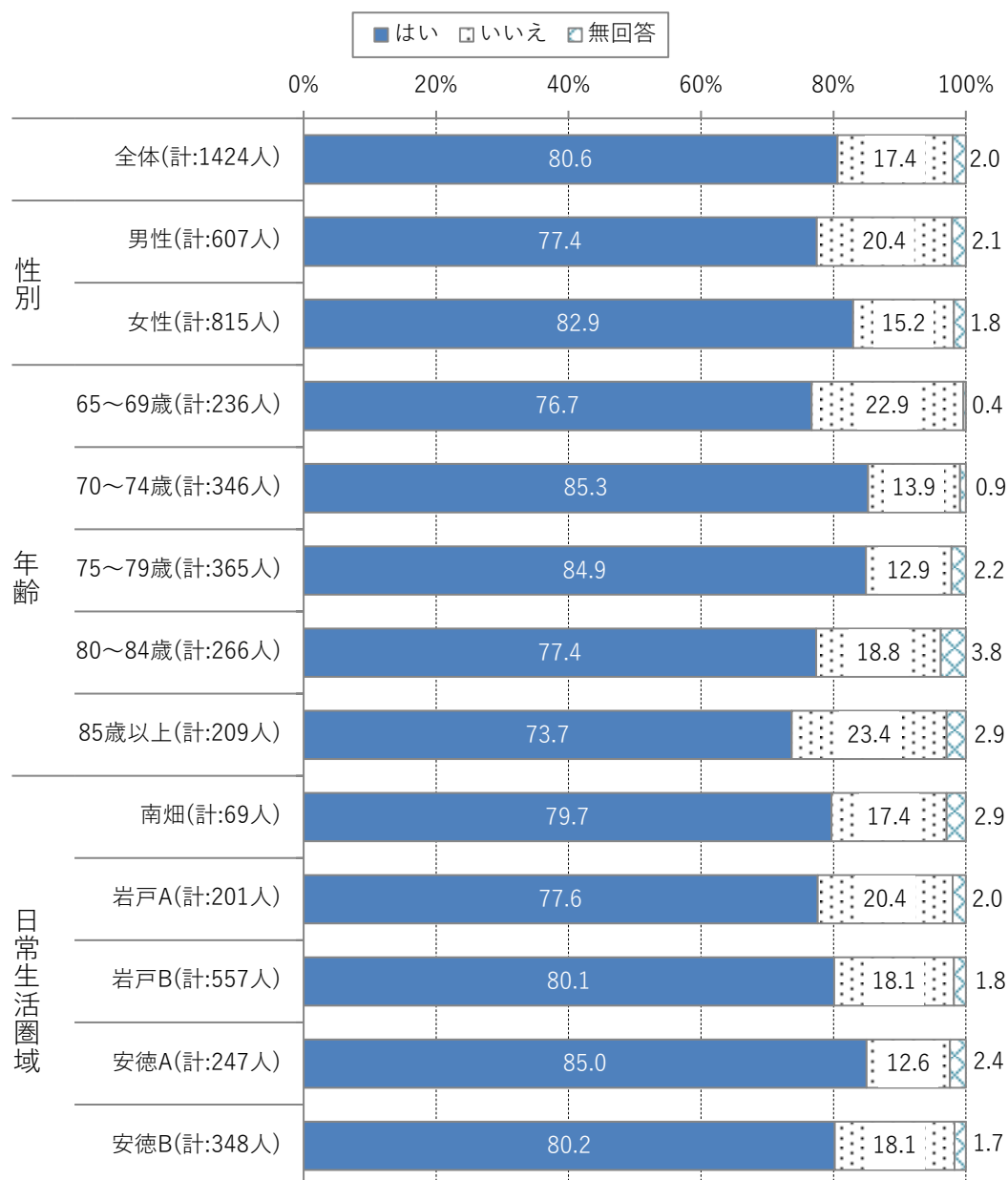
●物忘れが多いと感じますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は42.9%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は54.1%となっています。

問4（2）周りの人から物忘れがあると指摘されることがよくありますか



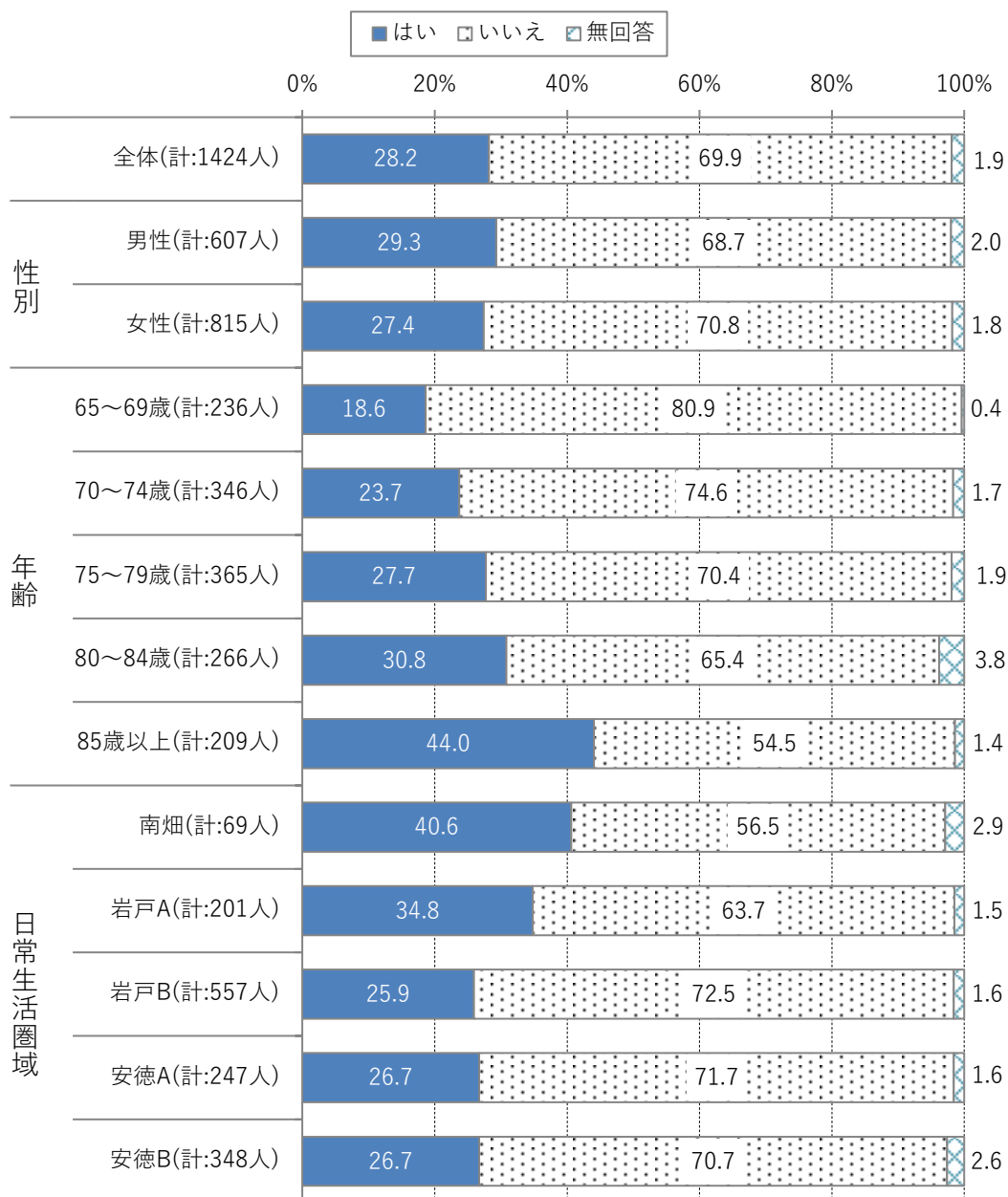
- 周りの人から物忘れがあると指摘されることがよくありますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は21.7%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は75.5%となっています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「はい」と回答した人の割合が増加する傾向にあり、65～69歳では12.7%であったのが、85歳以上では37.8%になっています。

問4（3）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか



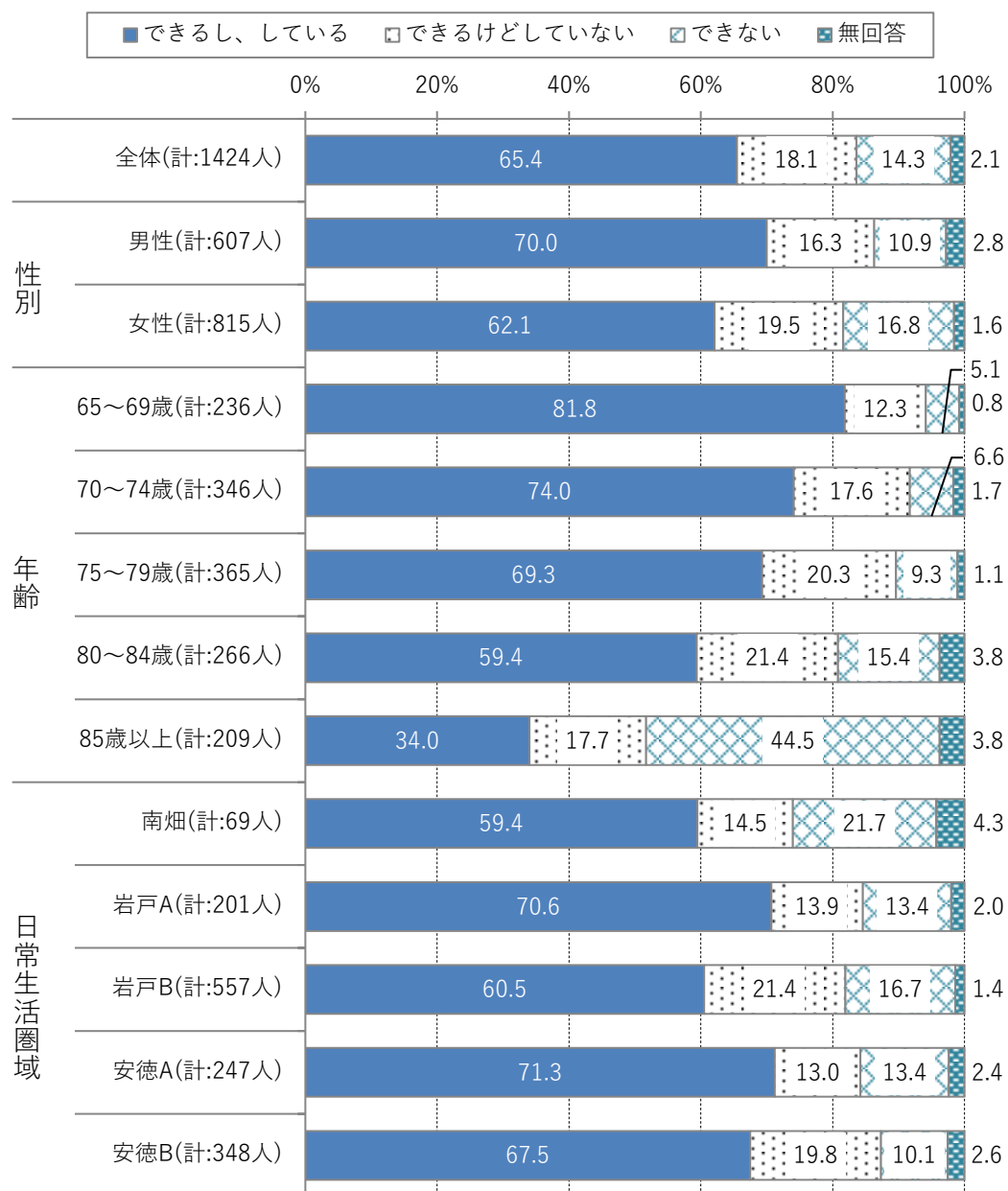
●自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は80.6%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は17.4%となっています。

問4（4）今日が何月何日かわからない時がありますか



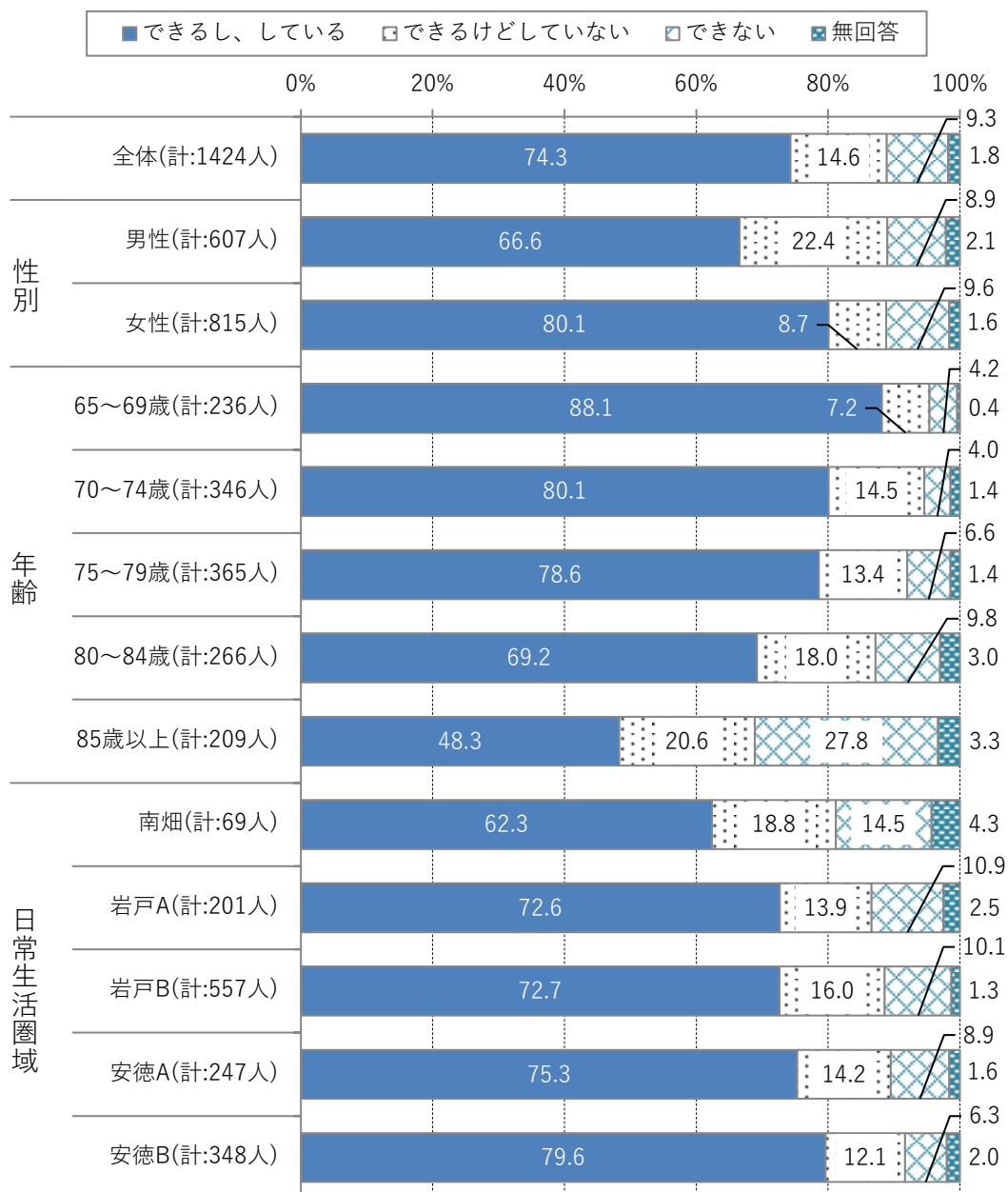
●今日が何月何日かわからない時がありますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は28.2%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は69.9%となっています。

問4 (5) バスや電車で1人で外出していますか(自家用車でも可)



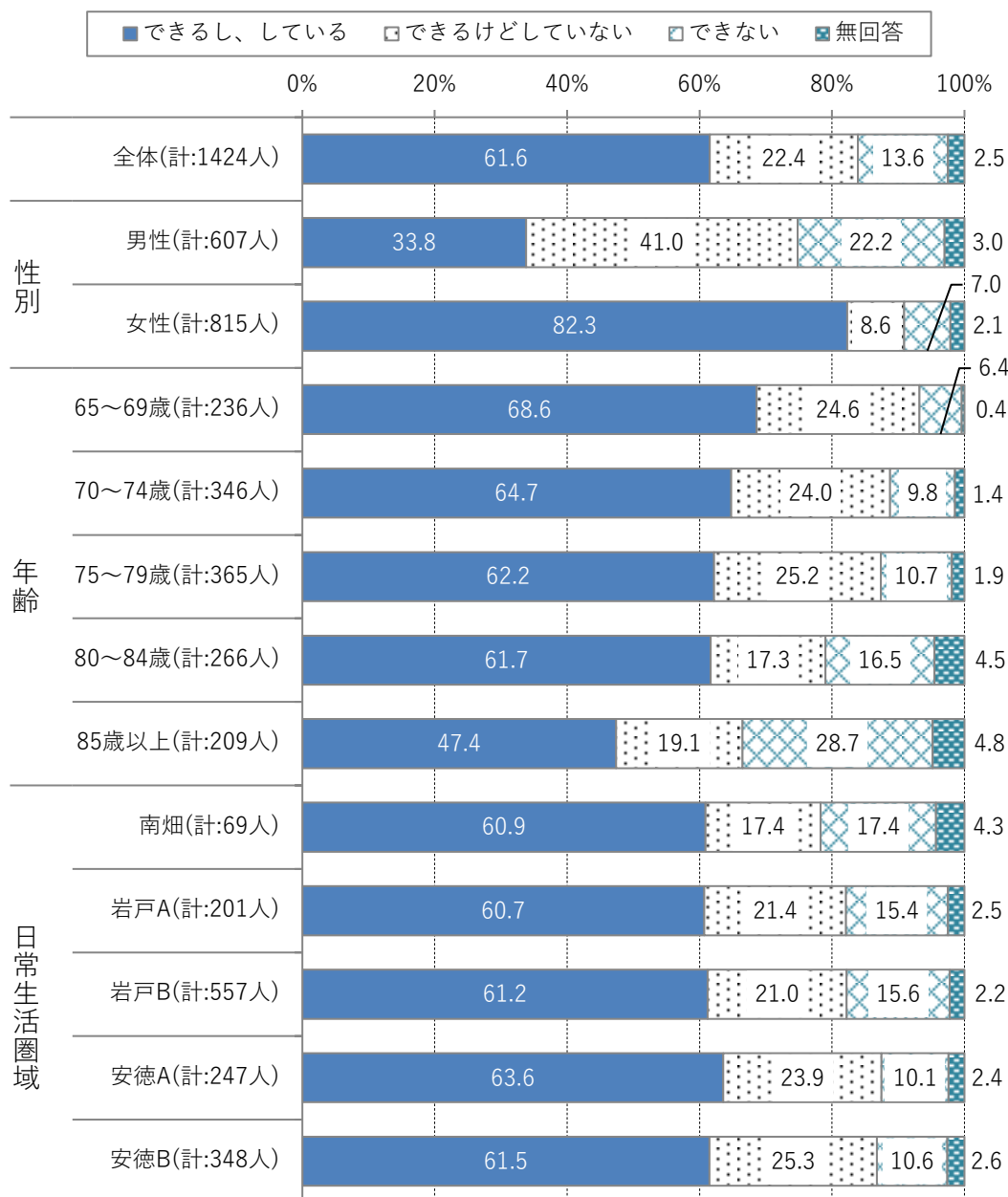
- バスや電車で1人で外出していますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、65.4%となっています。次いで、「できるけどしていない」(18.1%)、「できない」(14.3%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「できるし、している」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65~69歳では81.8%であったのが、85歳以上では34.0%になっています。

問4（6）自分で食品・日用品の買物をしていますか



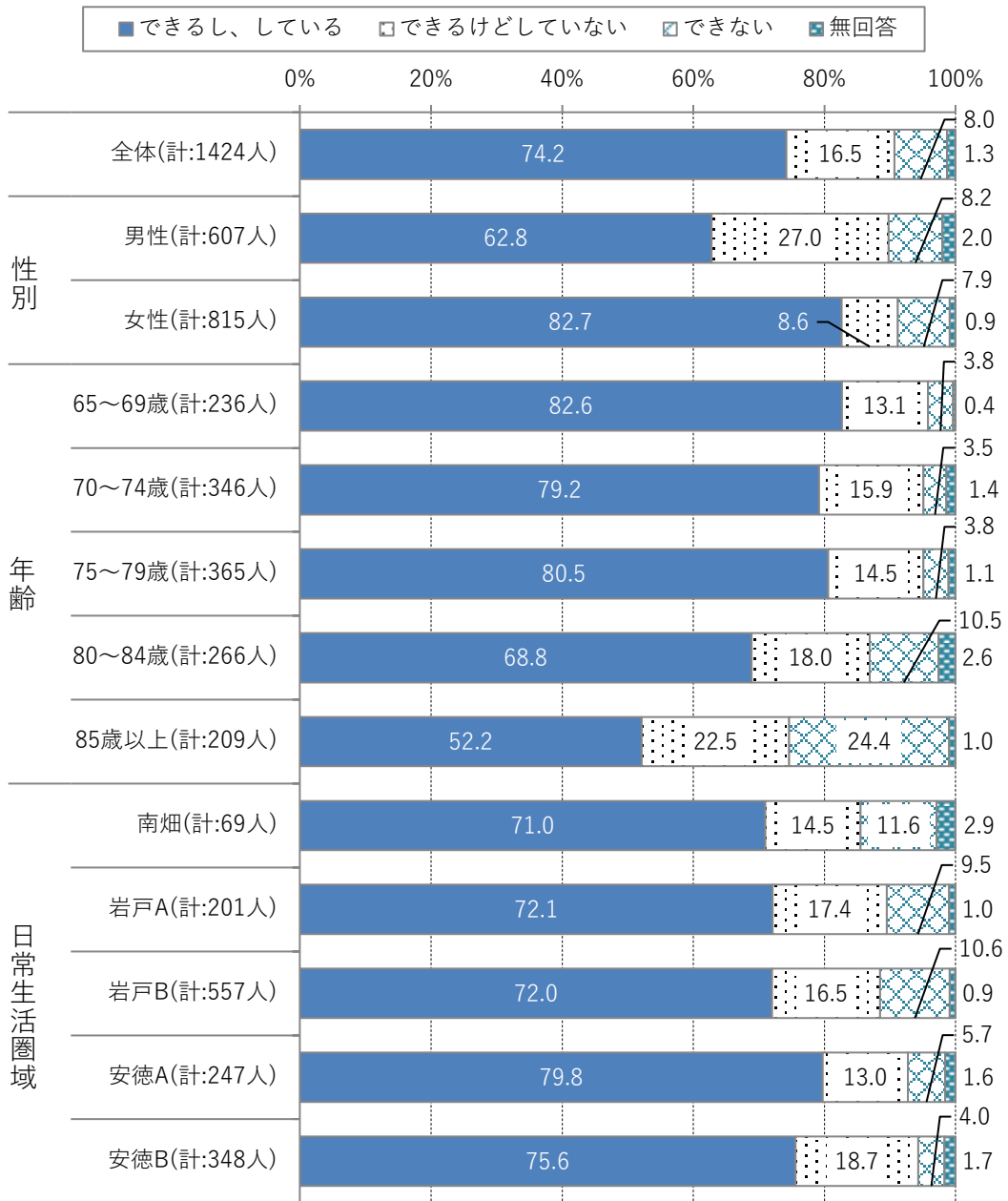
- 自分で食品・日用品の買物をしていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、74.3%となっています。次いで、「できるけどしていない」(14.6%)、「できない」(9.3%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「できるし、している」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65~69歳では88.1%であったのが、85歳以上では48.3%になっています。

問4（7）自分で食事の用意をしていますか



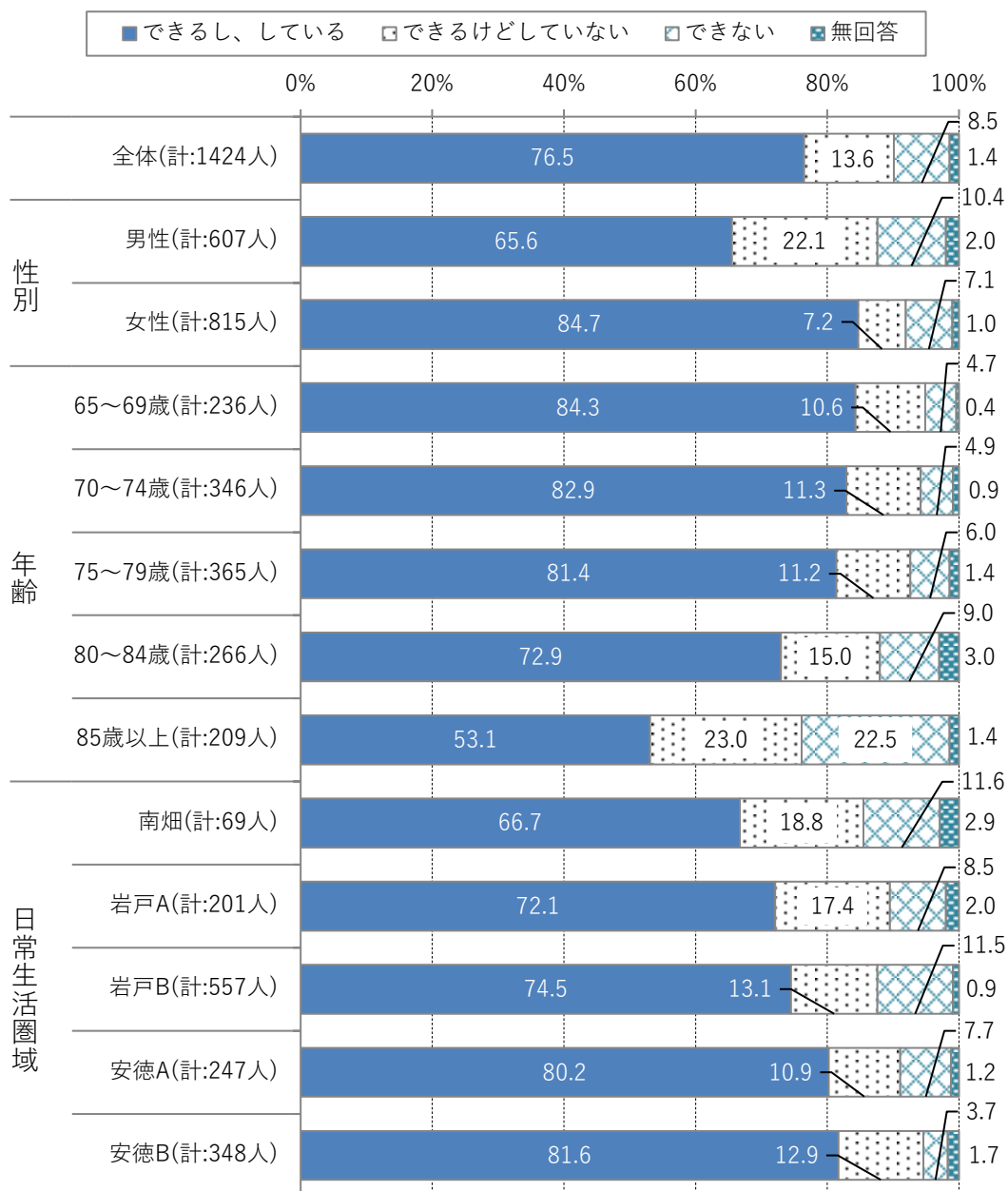
- 自分で食事の用意をしていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、61.6%となっています。次いで、「できるけどしていない」(22.4%)、「できない」(13.6%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「できるし、している」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65～69歳では68.6%であったのが、85歳以上では47.4%になっています。

問4（8）自分で請求書の支払いをしていますか



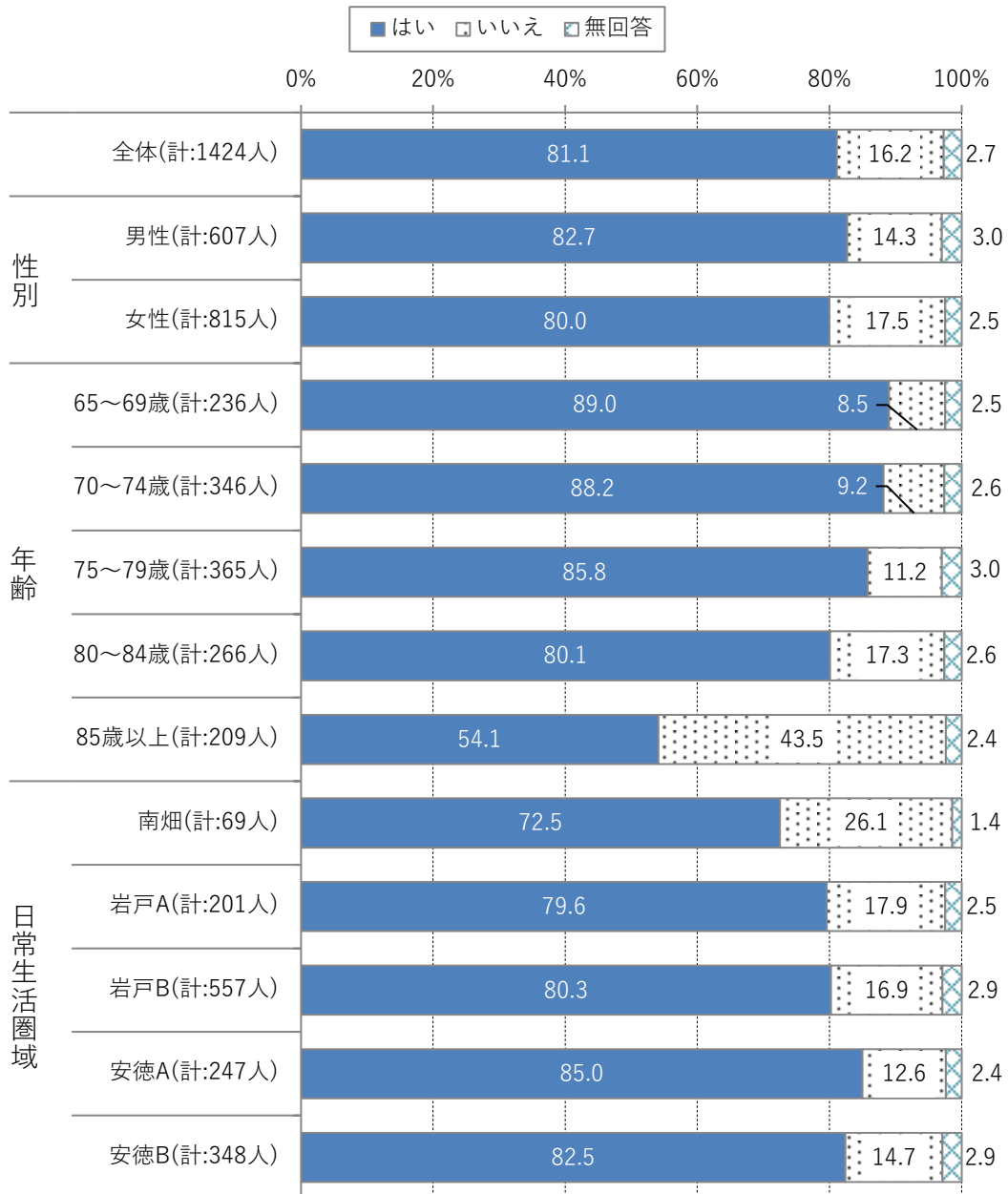
- 自分で請求書の支払いをしていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、74.2%となっています。次いで、「できるけどしていない」(16.5%)、「できない」(8.0%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「できるし、している」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65～69歳では82.6%であったのが、85歳以上では52.2%になっています。

問4（9）自分で預貯金の出し入れをしていますか



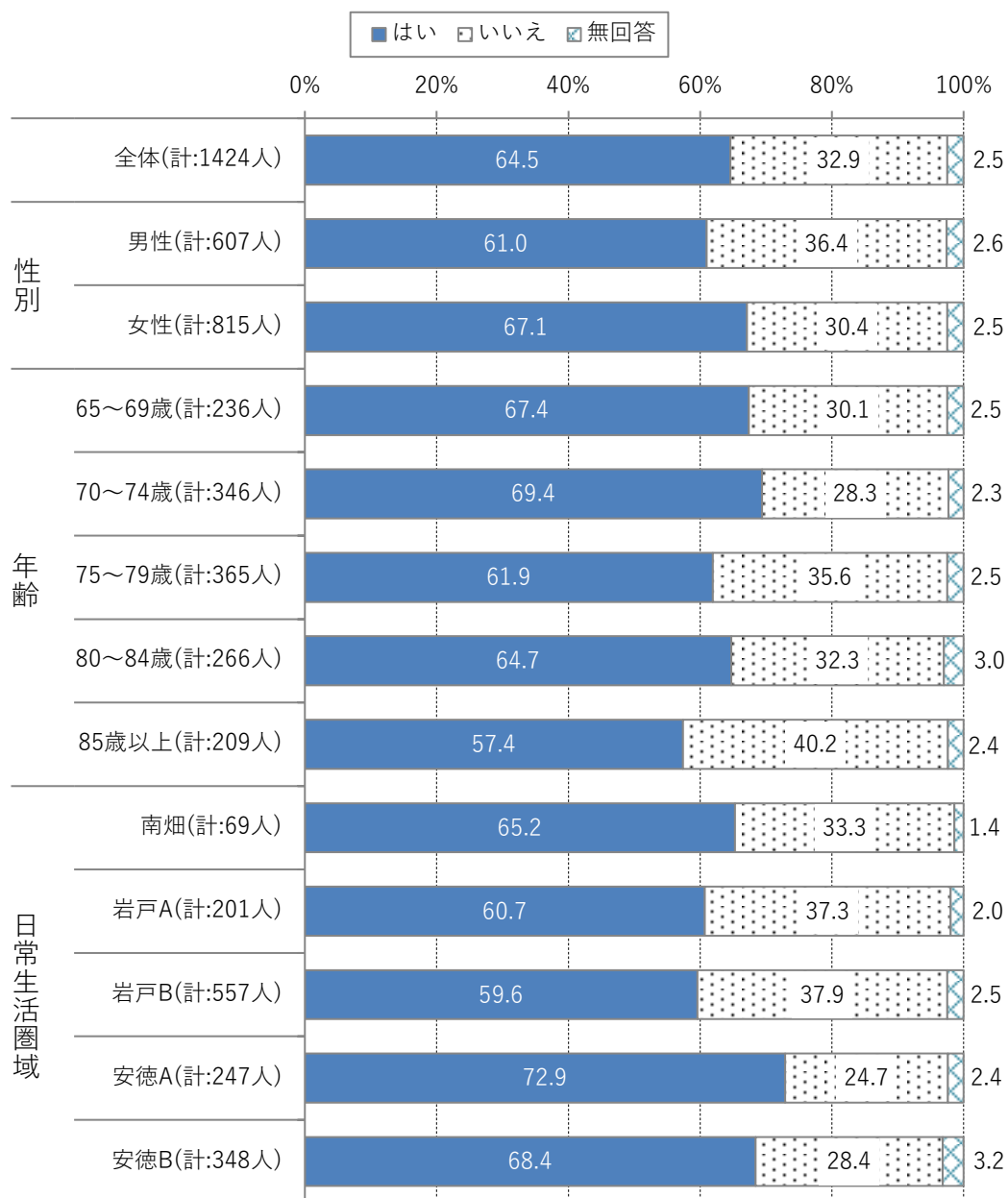
- 自分で預貯金の出し入れをしていますかとたずねたところ、「できるし、している」と回答した人の割合が最も高く、76.5%となっています。次いで、「できるけどしていない」(13.6%)、「できない」(8.5%)と続いています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「できるし、している」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65～69歳では84.3%であったのが、85歳以上では53.1%になっています。

問4（10）年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか



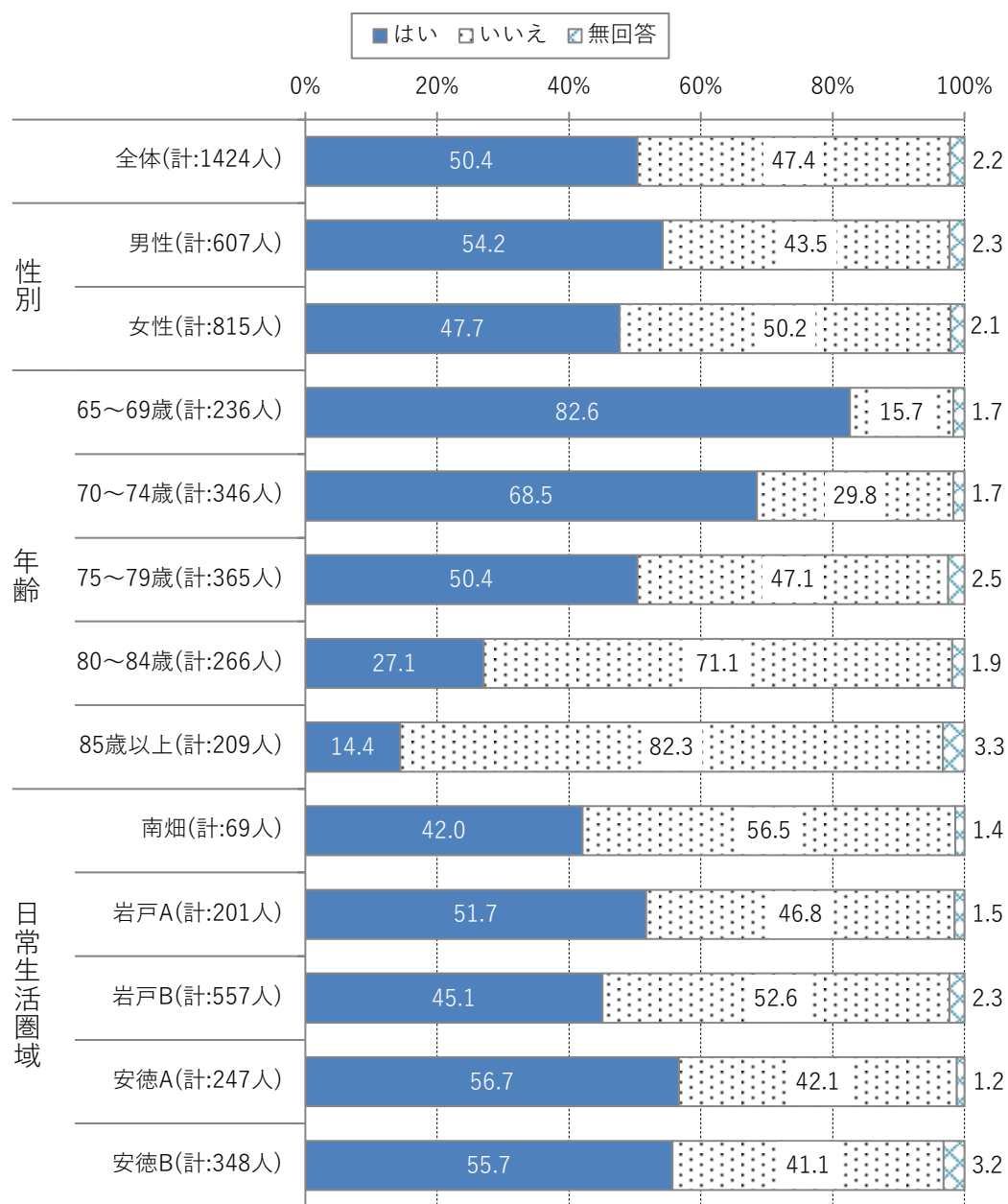
- 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は81.1%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は16.2%となっています。
- 年齢階層別にみると、加齢に伴って「はい」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65～69歳では89.0%であったのが、85歳以上では54.1%になっています。

問4（11）本や雑誌を読んでいますか



●本や雑誌を読んでいますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は64.5%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は32.9%となっています。

問4（12）自宅で、パソコンやスマートフォン等を使ってインターネットを利用したことがありますか

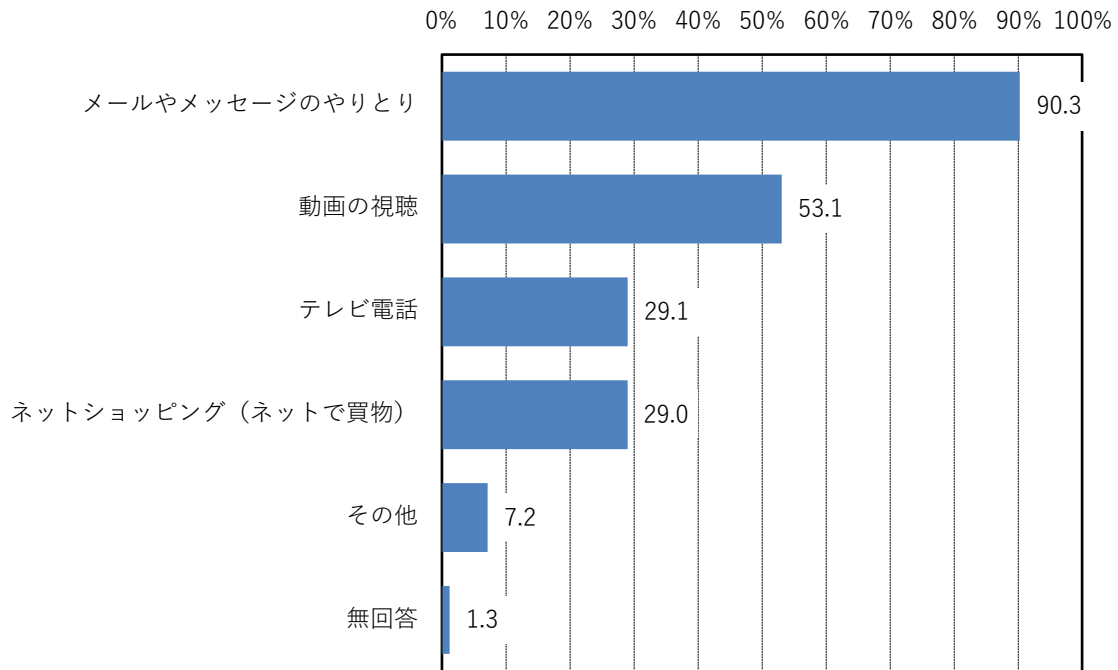


●自宅で、パソコンやスマートフォン等を使ってインターネットを利用したことがありますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は50.4%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は47.4%となっています。

●年齢階層別にみると、加齢に伴って「はい」と回答した人の割合が減少する傾向にあり、65～69歳では82.6%であったのが、85歳以上では14.4%になっています。

【(12) において「1. はい」と回答した方のみ】

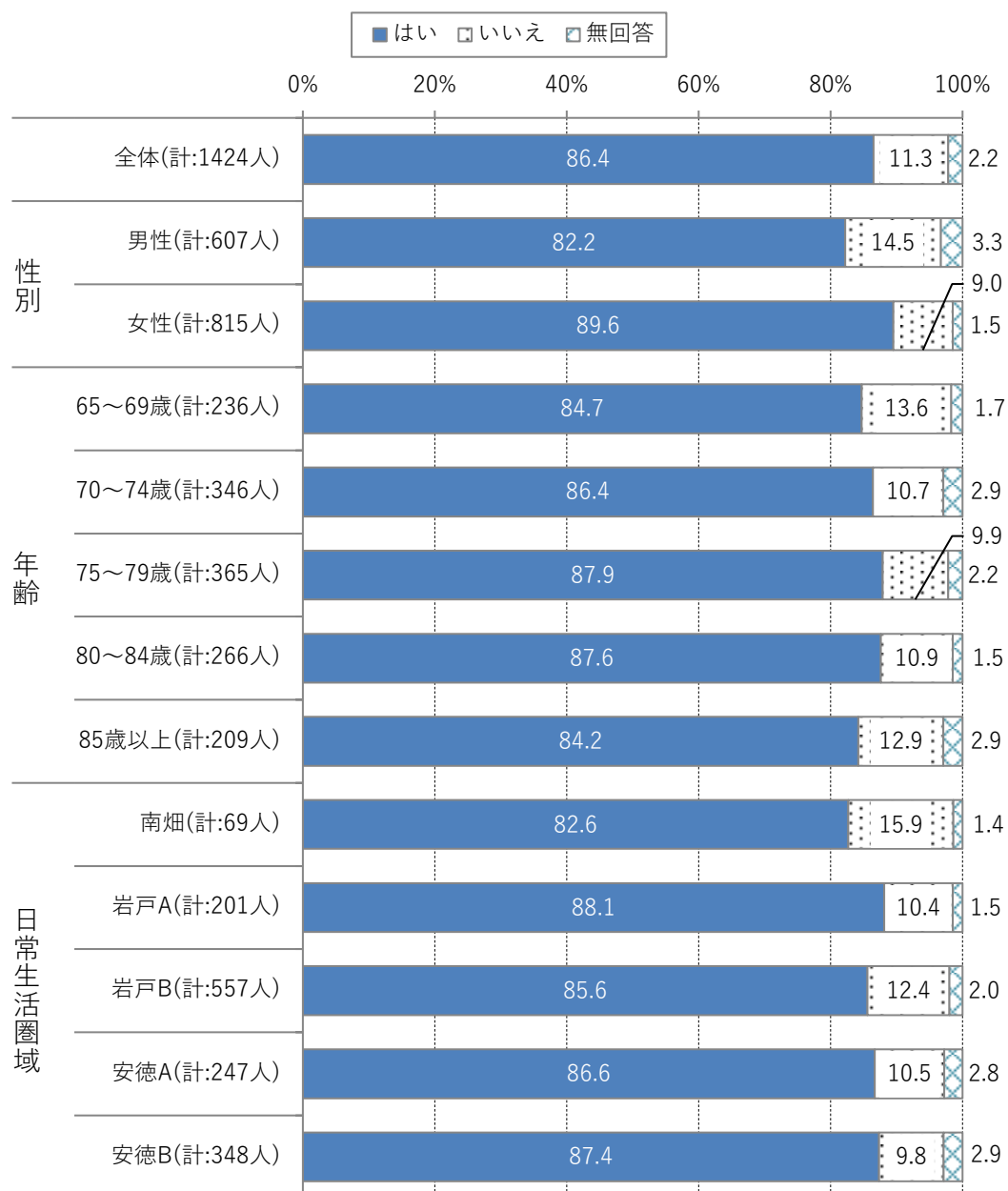
問4 (12) ①以下のものを、使ったことがありますか



計：718人

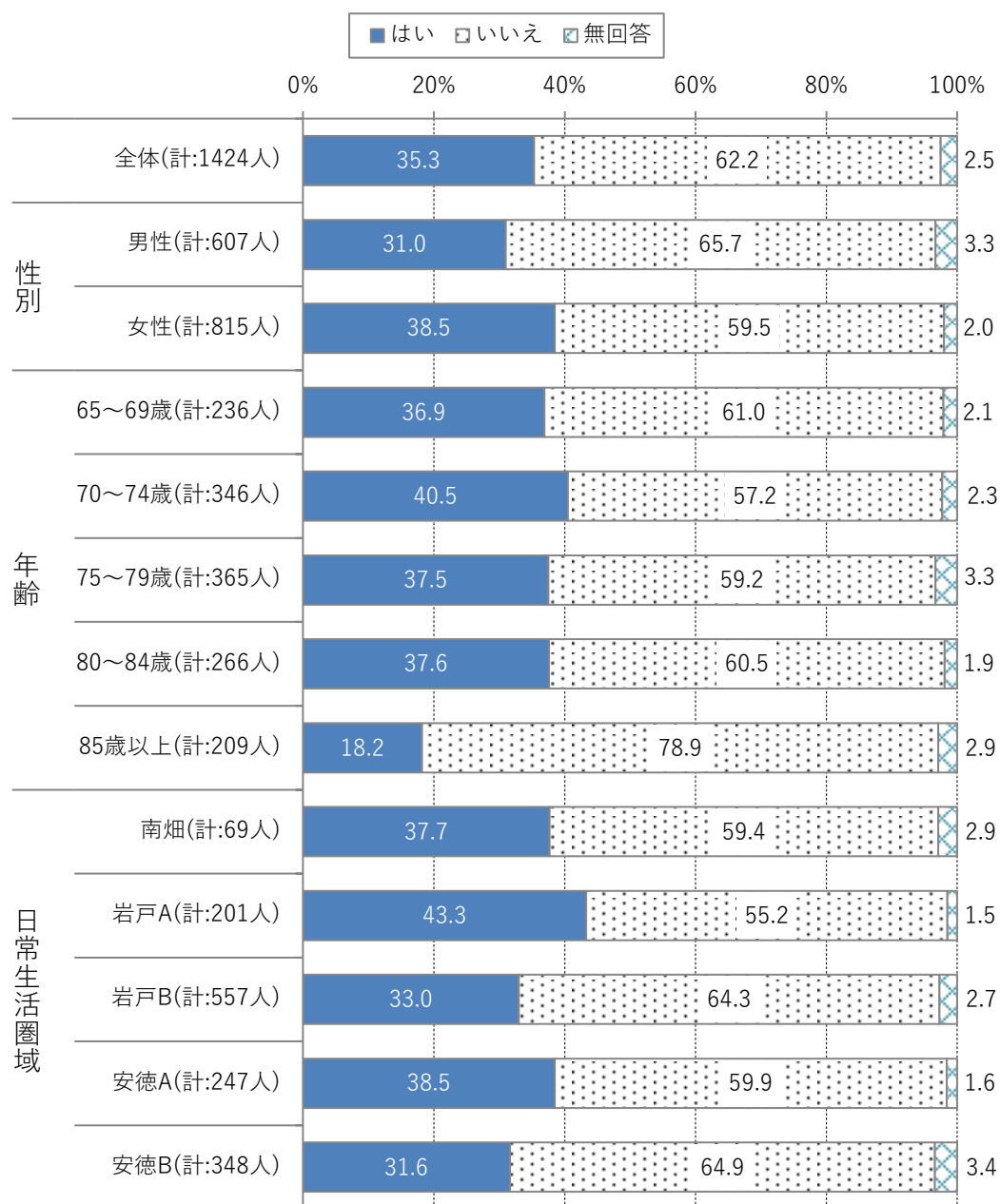
- 自宅で、パソコンやスマートフォン等を使ってインターネットを利用したことがあると回答した人に、利用状況をたずねたところ、「メールやメッセージのやりとり」と回答した人が最も多く、90.3%となっています。次いで、「動画の視聴」(53.1%)、「テレビ電話」(29.1%)と続いています。

問4 (13) 健康についての記事や番組に関心がありますか



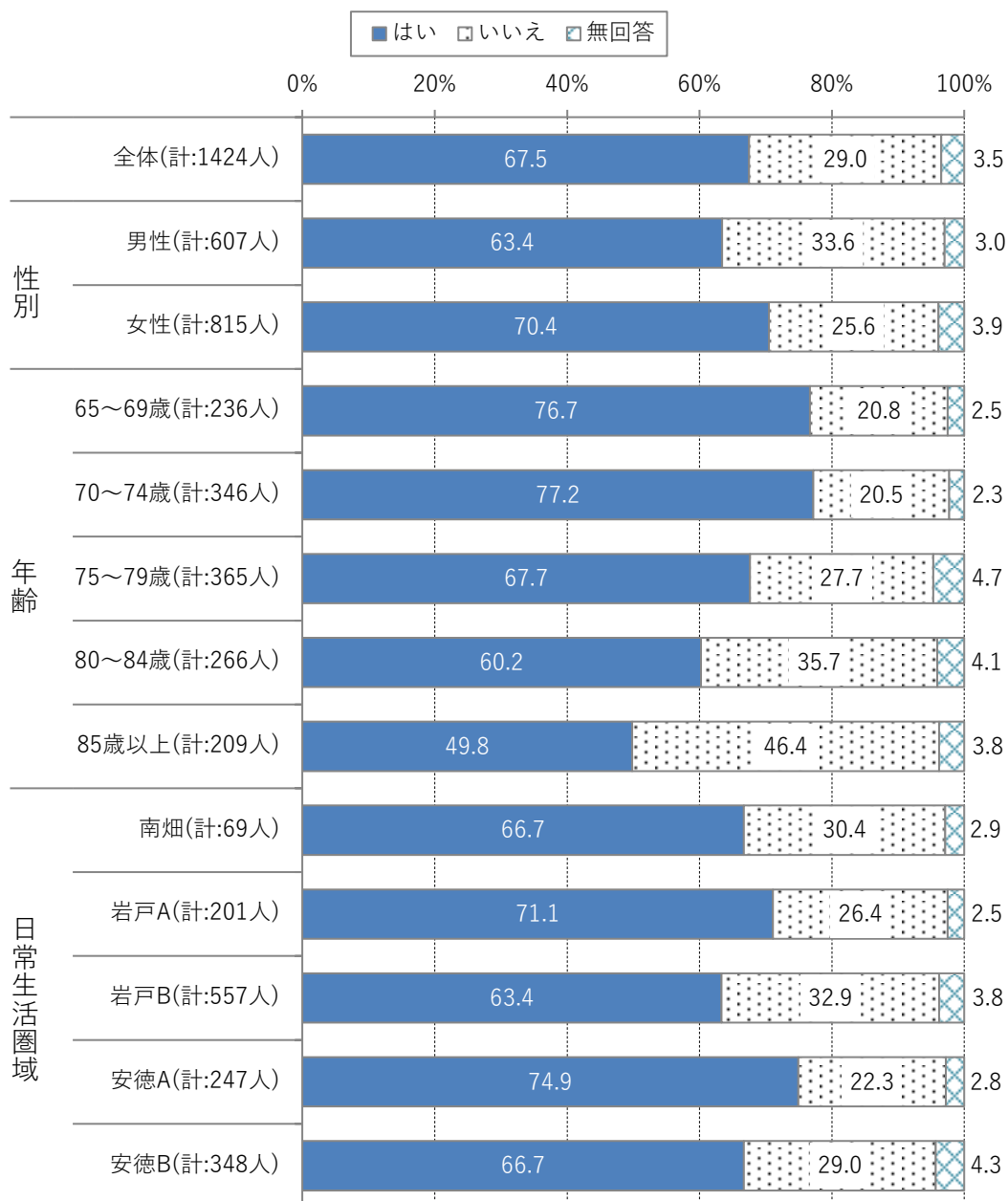
●健康についての記事や番組に関心がありますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は86.4%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は11.3%となっています。

問4（14）友人の家を訪ねていますか



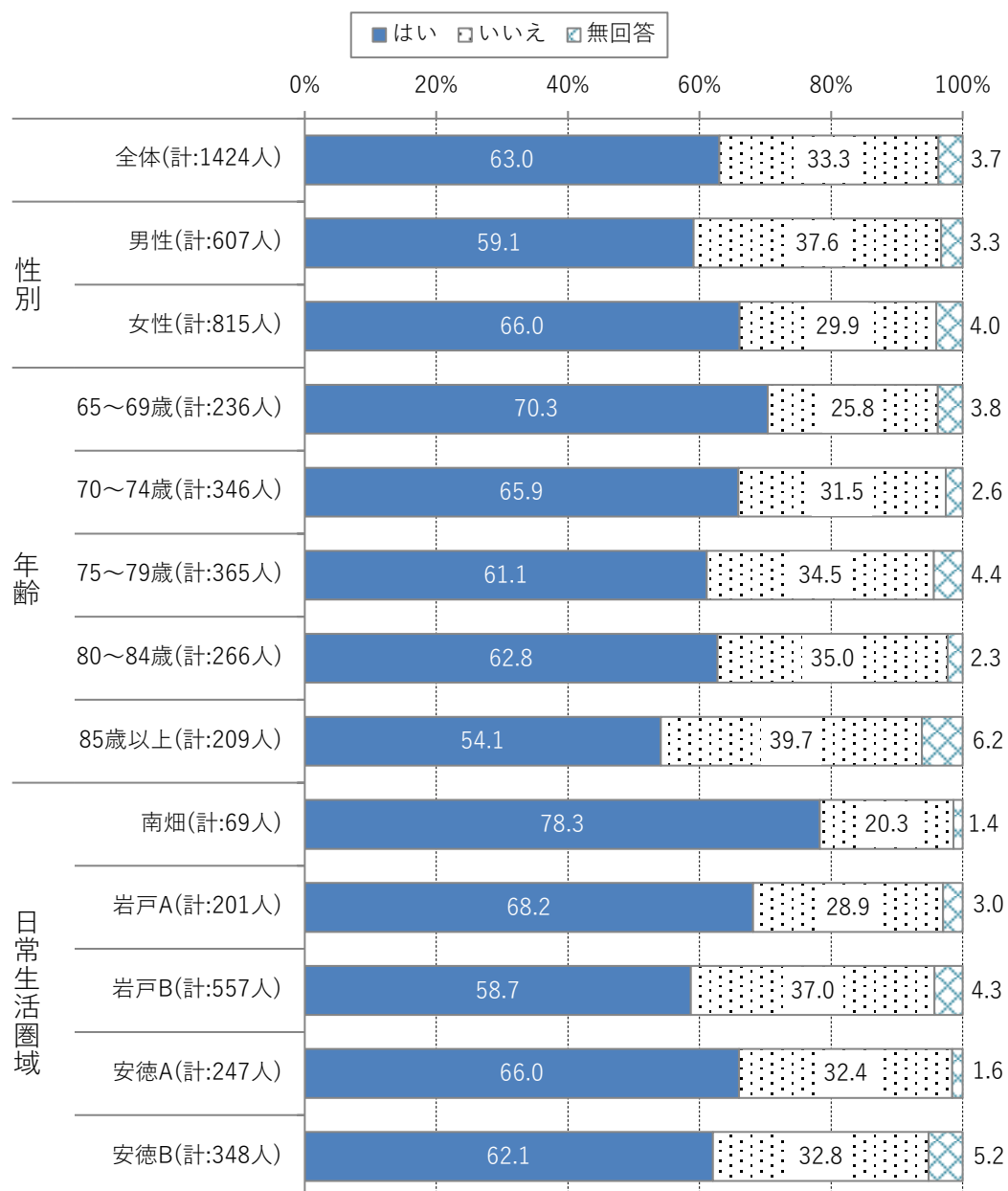
●友人の家を訪ねていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は35.3%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は62.2%となっています。

問4（15）家族や友人の相談にのっていますか



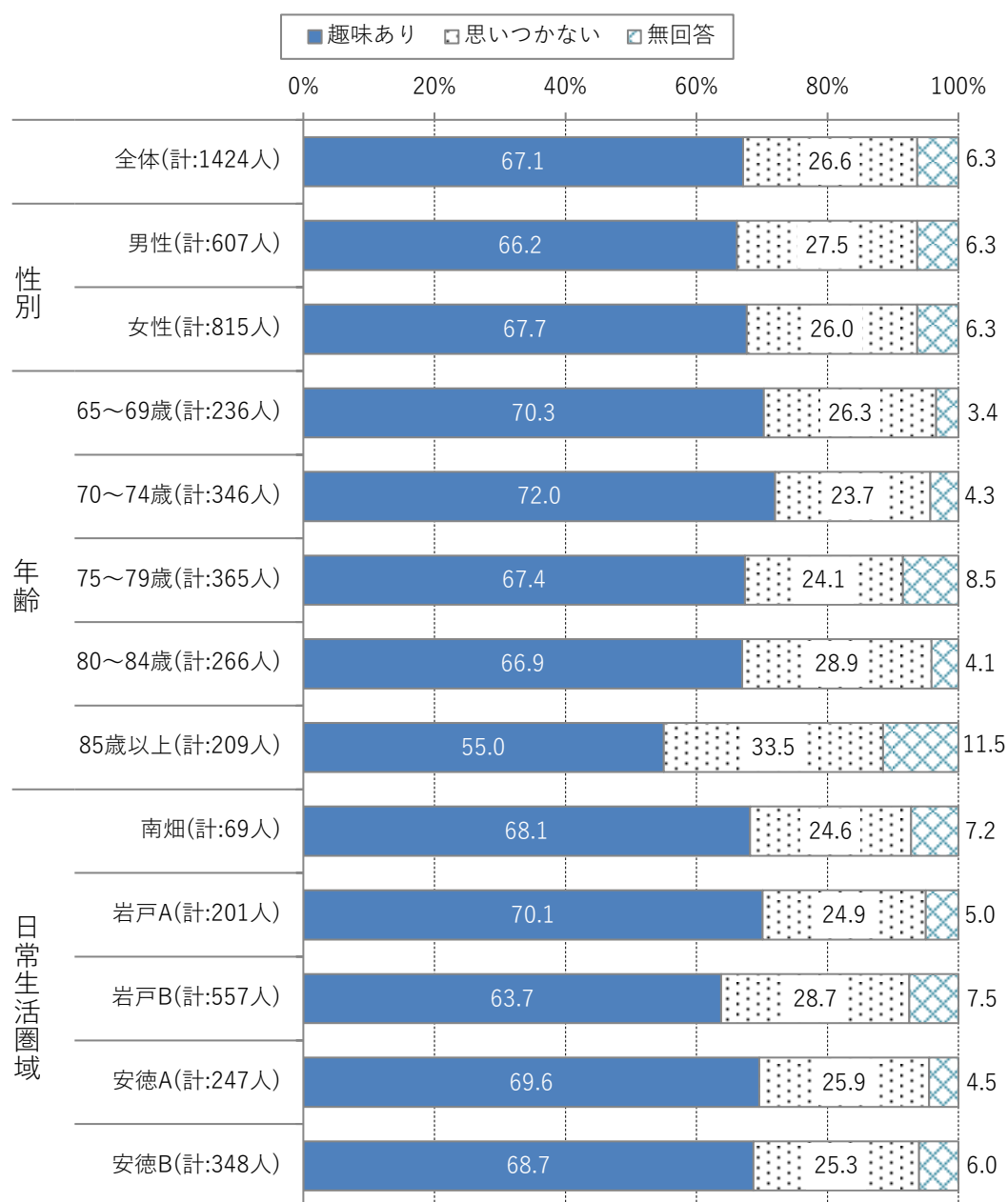
●家族や友人の相談にのっていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は67.5%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は29.0%となっています。

問4（16）若い人に自分から話しかけることがありますか



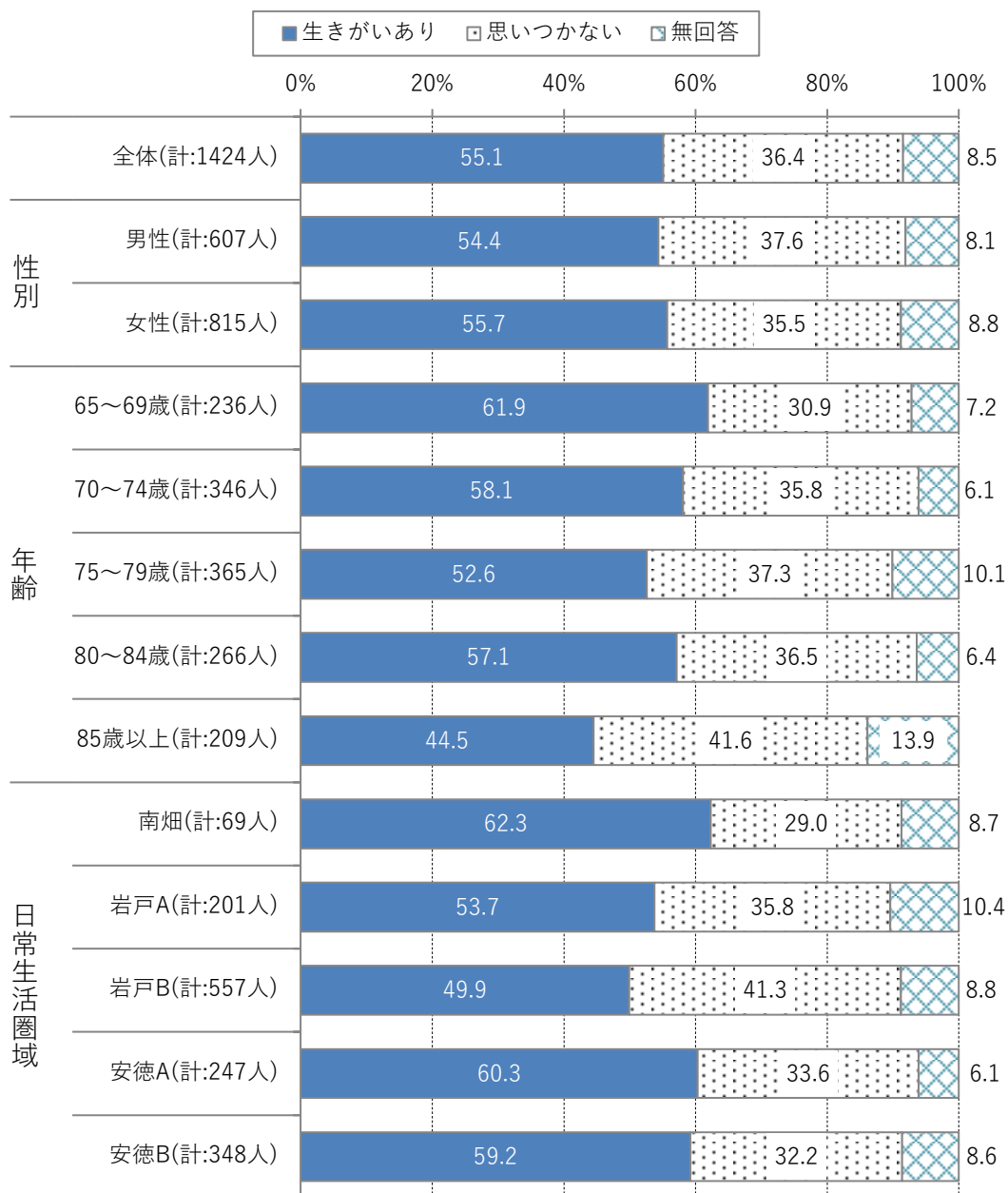
●若い人に自分から話しかけることがありますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は63.0%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は33.3%となっています。

問4（17）趣味はありますか



●趣味はありますかとたずねたところ、「趣味あり」と回答した人の割合は 67.1%となっています。一方、「思いつかない」と回答した人の割合は 26.6%となっています。

問4（18）生きがいがありますか

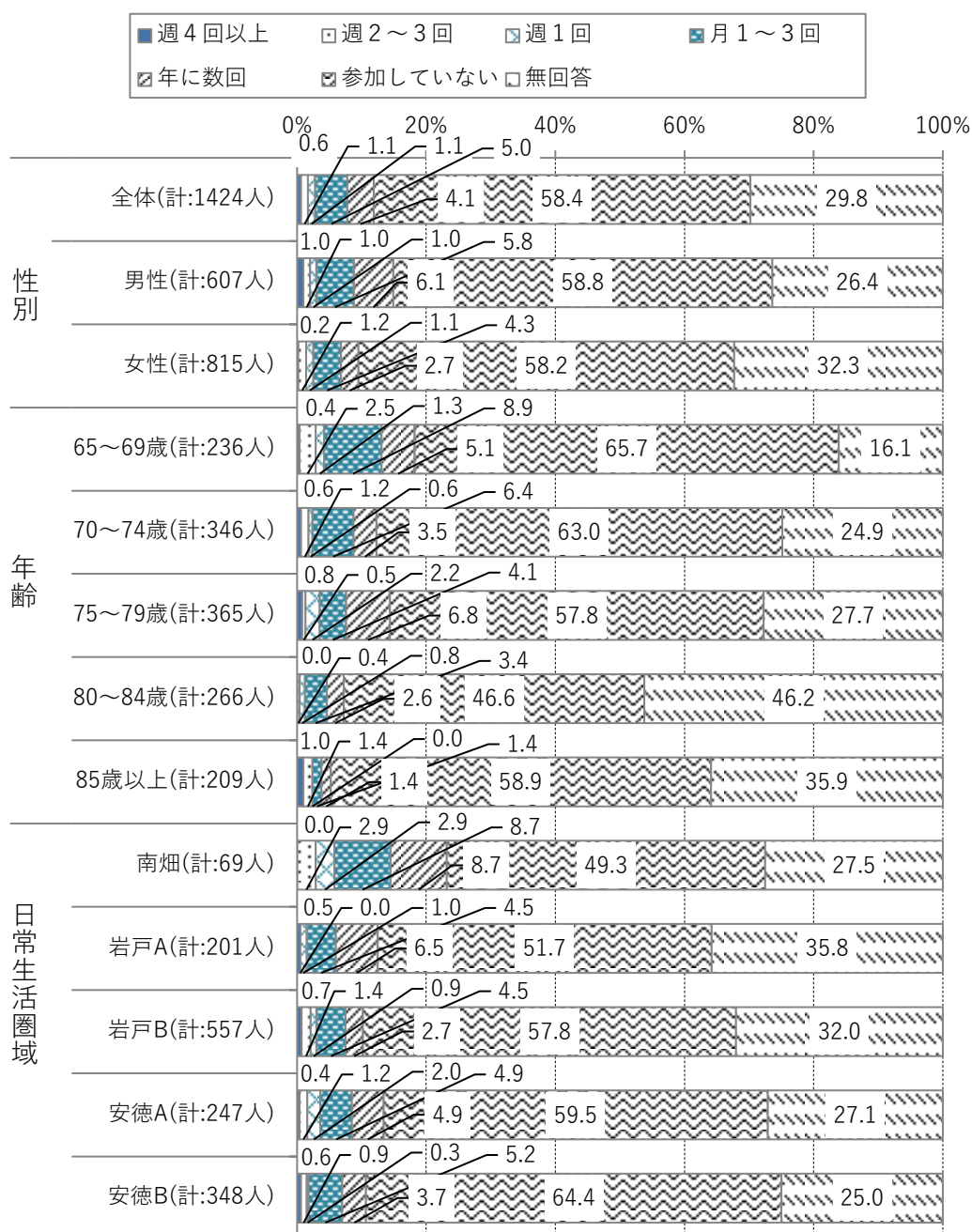


●生きがいがありますかとたずねたところ、「生きがいあり」と回答した人の割合は55.1%となっています。一方、「思いつかない」と回答した人の割合は36.4%となっています。

問5 地域での活動について

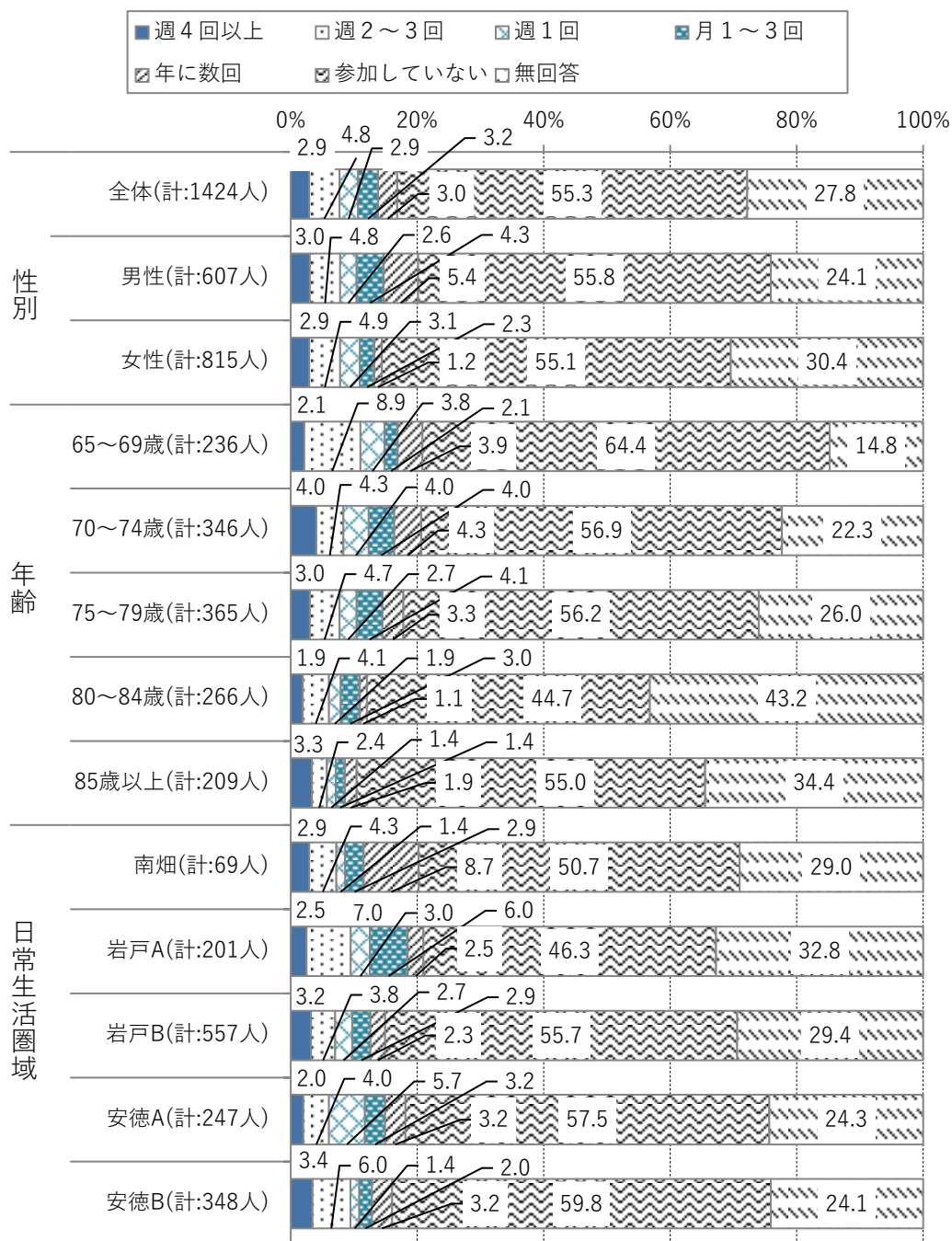
問5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

①ボランティアのグループ



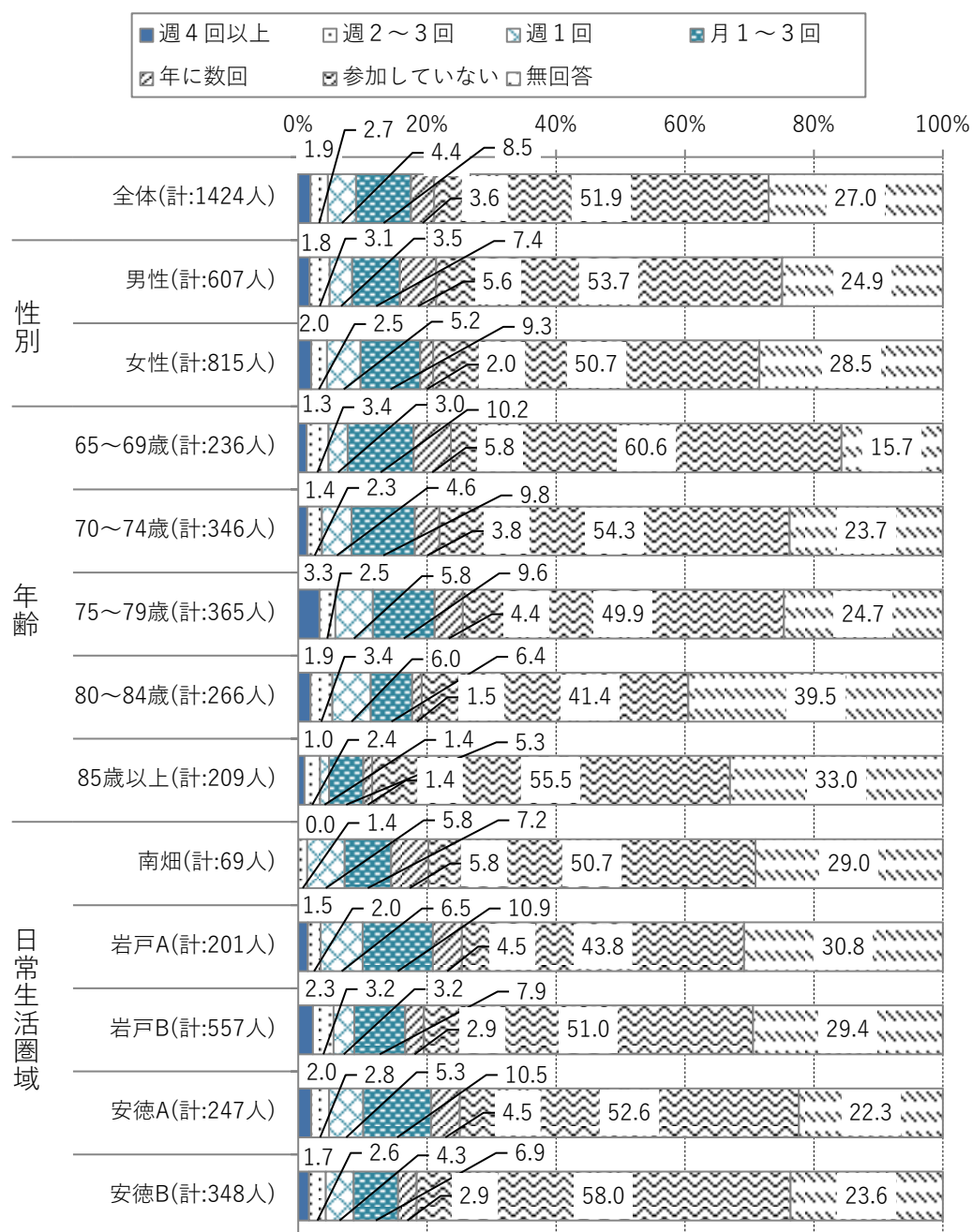
●ボランティアのグループにどのくらいの頻度で参加していますかとたずねたところ、「参加していない」と回答した人の割合が最も高く、58.4%となっています。次いで、「月1~3回」(5.0%)、「年に数回」(4.1%)と続いています。

②スポーツ関係のグループやクラブ



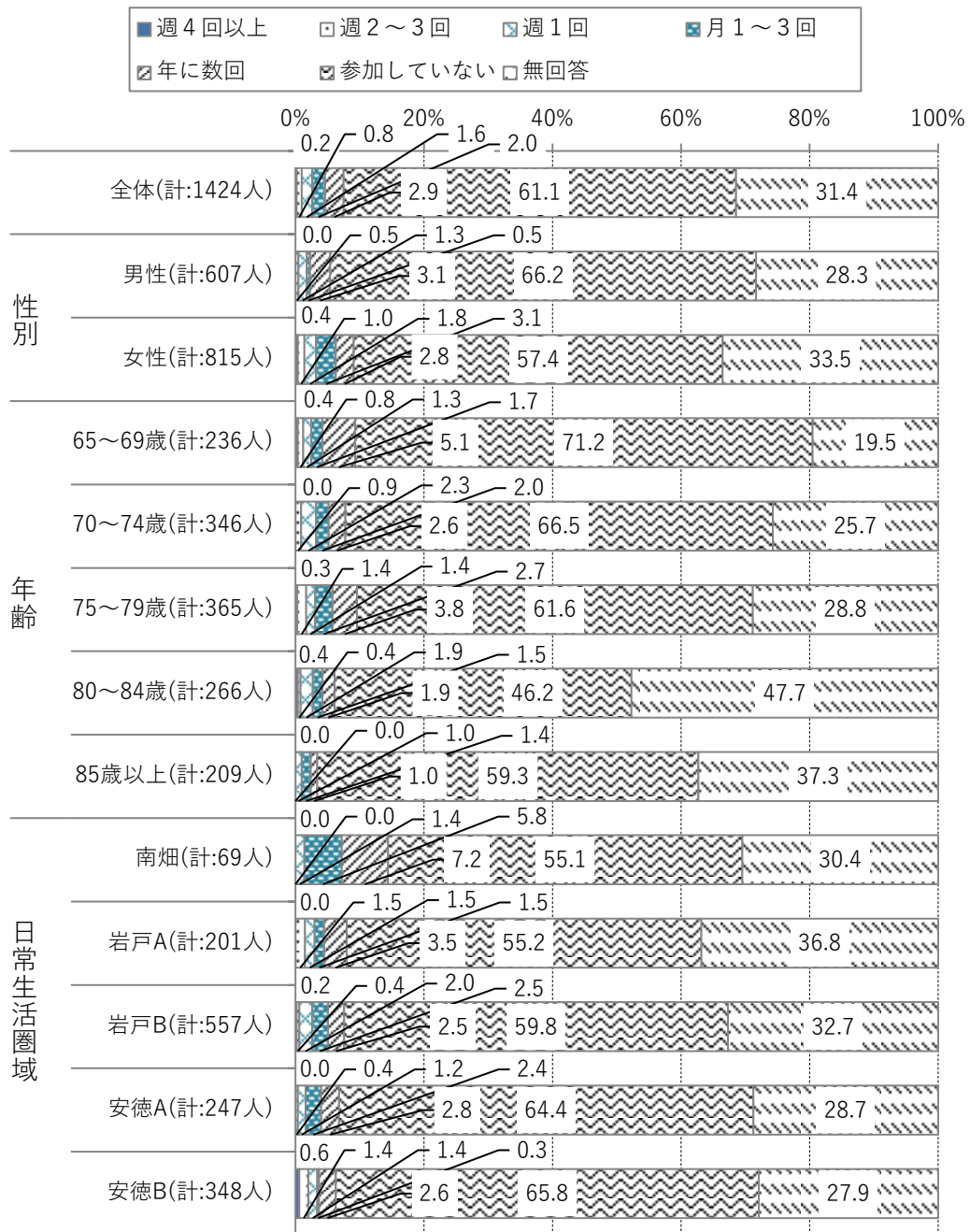
- スポーツ関係のグループやクラブにどのくらいの頻度で参加していますかとたずねたところ、「参加していない」と回答した人の割合が最も高く、55.3%となっています。次いで、「週2~3回」(4.8%)、「月1~3回」(3.2%)と続いています。

③趣味関係のグループ



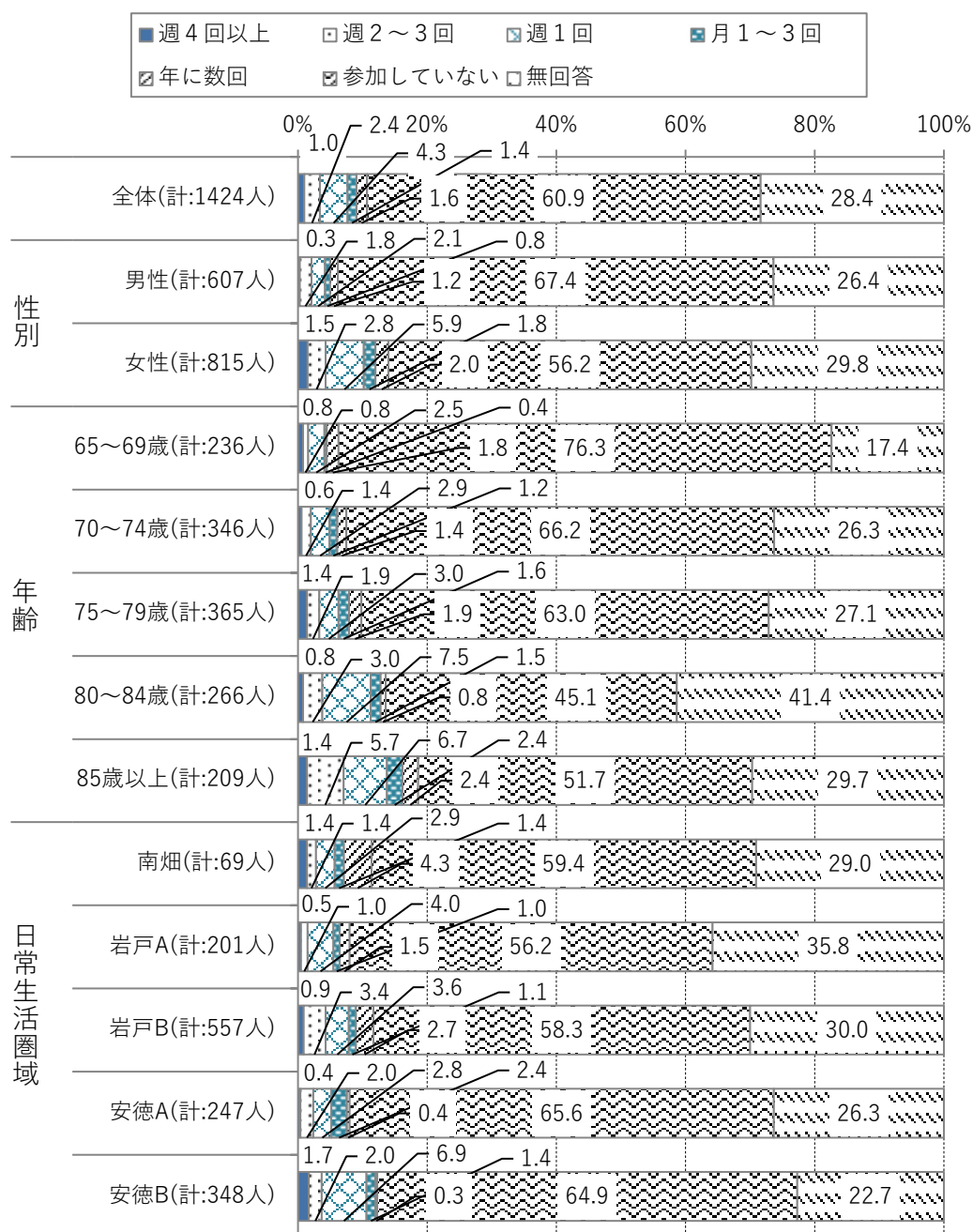
●趣味関係のグループにどのくらいの頻度で参加していますかとたずねたところ、「参加していない」と回答した人の割合が最も高く、51.9%となっています。次いで、「月1~3回」(8.5%)、「週1回」(4.4%)と続いています。

④学習・教養サークル



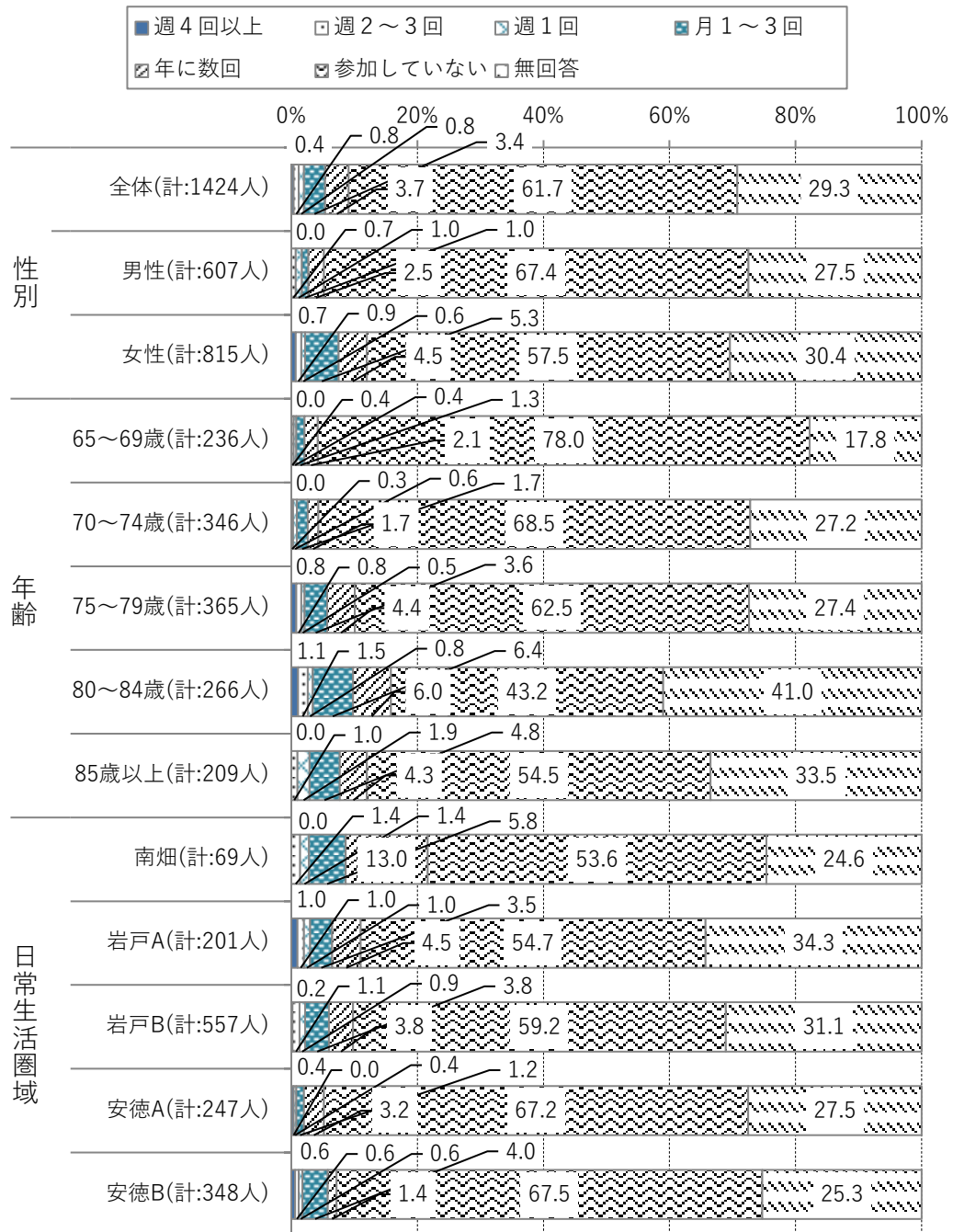
●学習・教養サークルにどのくらいの頻度で参加していますかとたずねたところ、「参加していない」と回答した人の割合が最も高く、61.1%となっています。次いで、「年に数回」(2.9%)、「月1~3回」(2.0%)と続いています。

⑤ (ステップ運動教室、いきいきリフレッシュ教室など) 介護予防のための通いの場



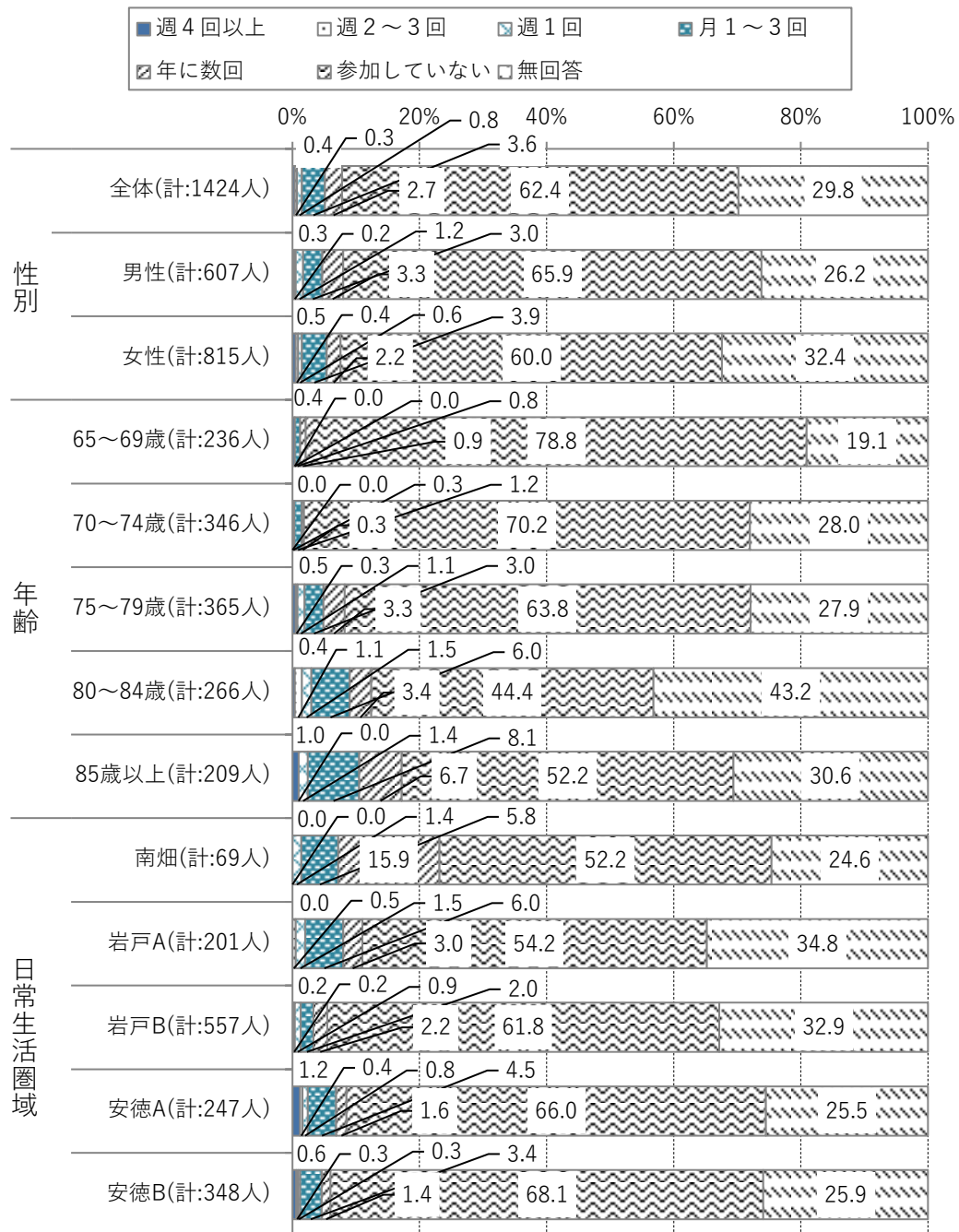
- (ステップ運動教室、いきいきリフレッシュ教室など) 介護予防のための通いの場にどのくらいの頻度で参加していますかとたずねたところ、「参加していない」と回答した人の割合が最も高く、60.9%となっています。次いで、「週1回」(4.3%)、「週2~3回」(2.4%)と続いています。

⑥ふれあいサロン



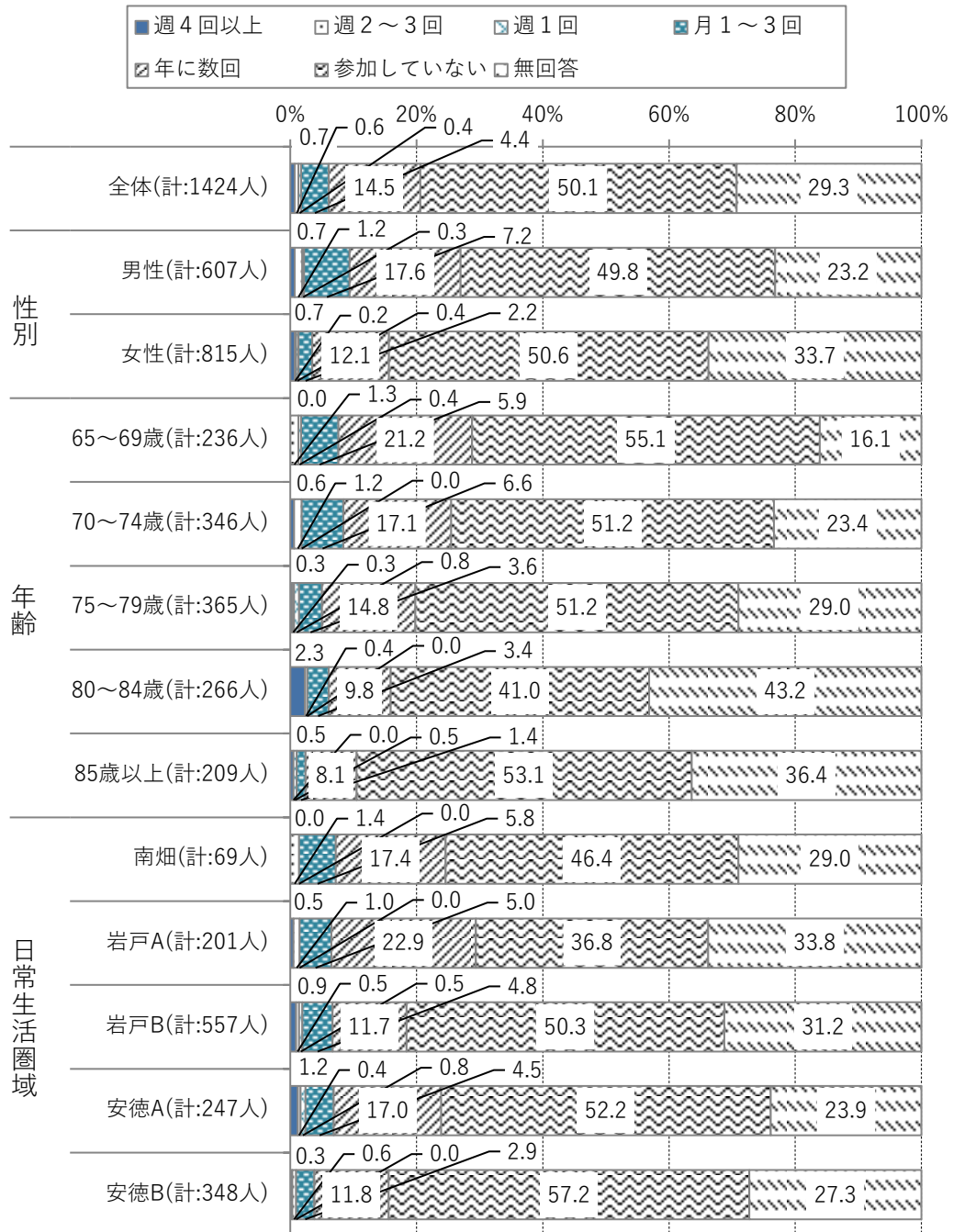
- ふれあいサロンにどのくらいの頻度で参加していますかとたずねたところ、「参加していない」と回答した人の割合が最も高く、61.7%となっています。次いで、「年に数回」(3.7%)、「月1~3回」(3.4%)と続いています。

⑦老人クラブ



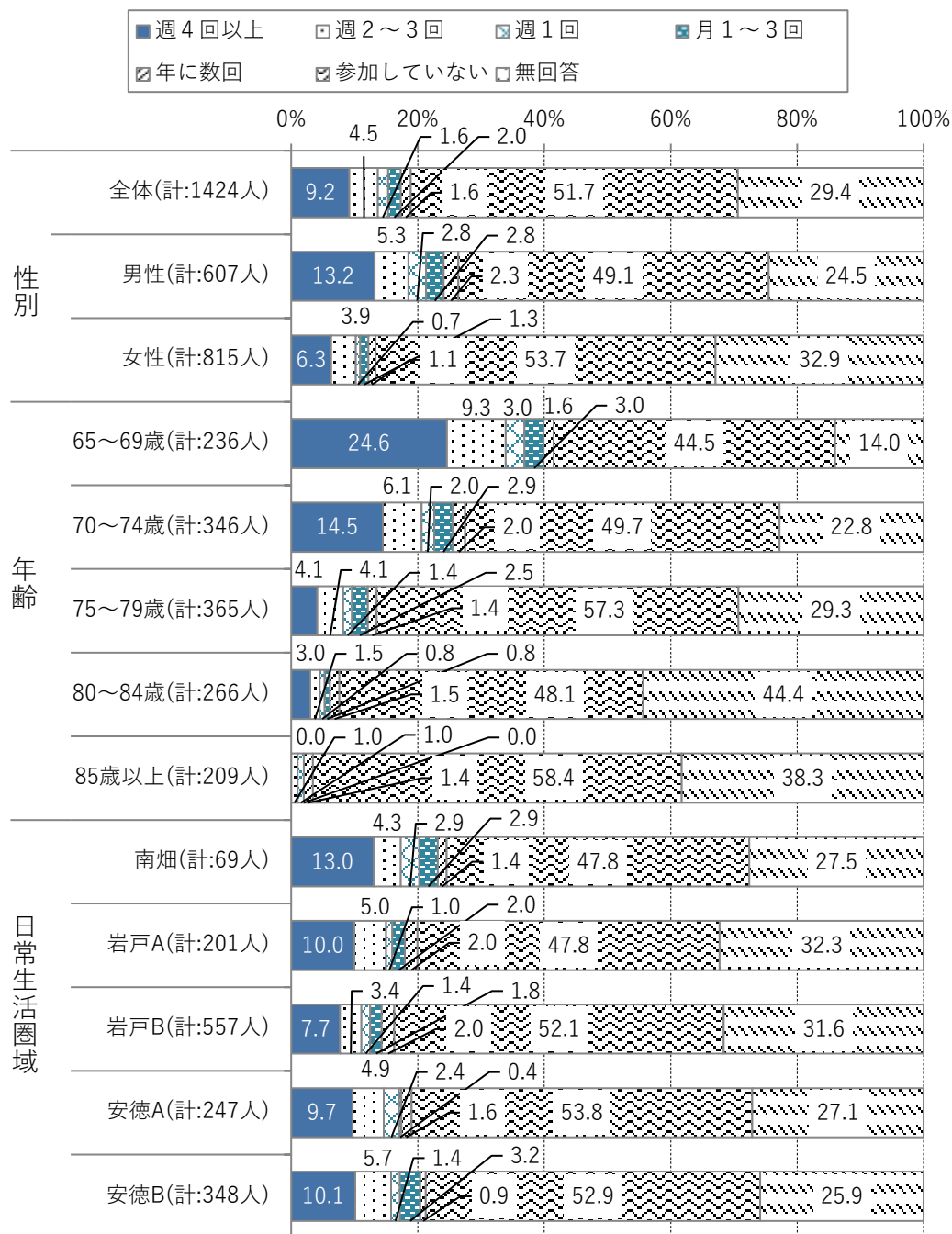
●老人クラブにどのくらいの頻度で参加していますかとたずねたところ、「参加していない」と回答した人の割合が最も高く、62.4%となっています。次いで、「月1~3回」(3.6%)、「年に数回」(2.7%)と続いています。

⑧町内会・自治会



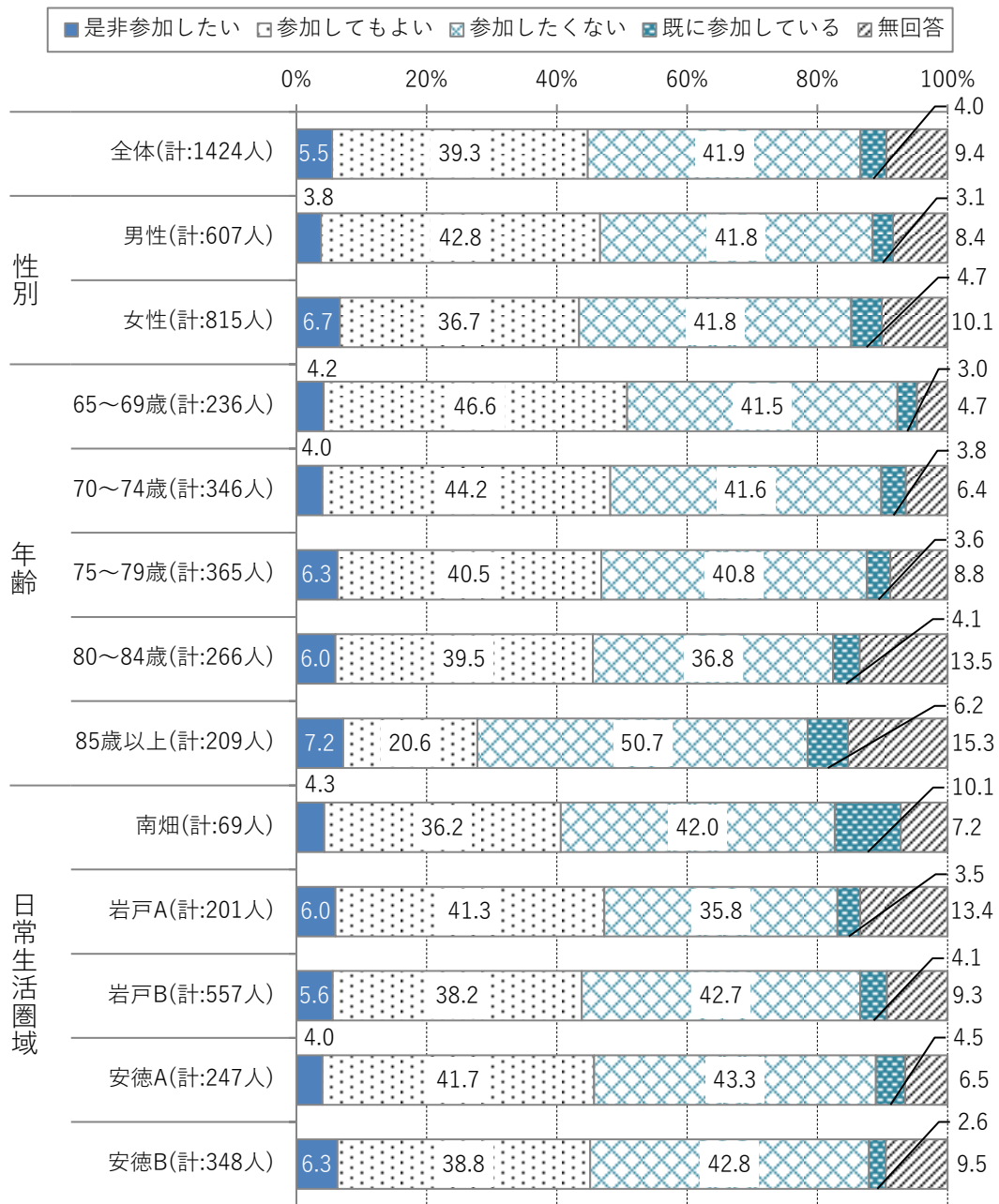
●町内会・自治会にどのくらいの頻度で参加していますかとたずねたところ、「参加していない」と回答した人の割合が最も高く、50.1%となっています。次いで、「年に数回」(14.5%)、「月1~3回」(4.4%)と続いています。

⑨収入のある仕事



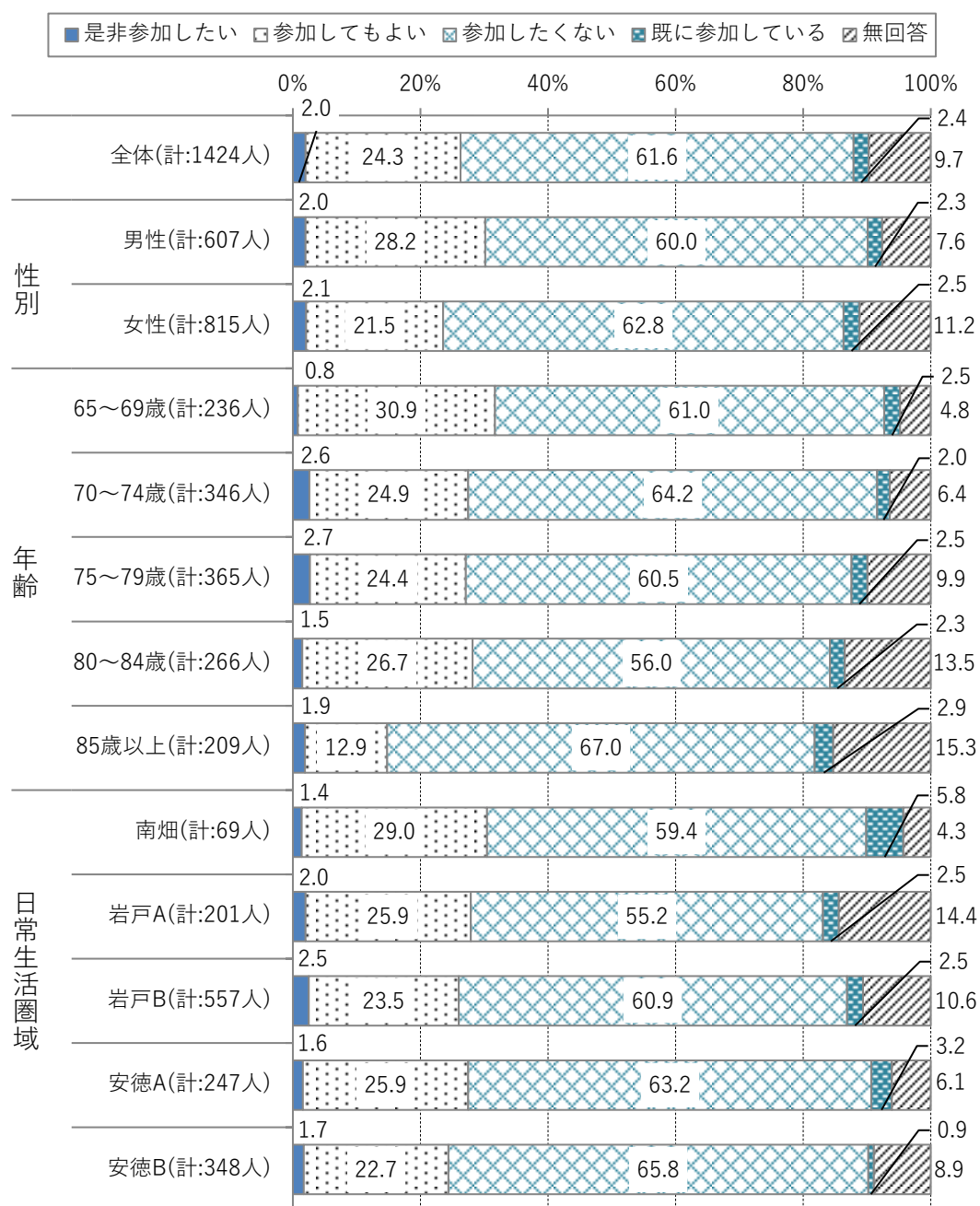
●収入のある仕事にどのくらいの頻度で参加していますかとたずねたところ、「参加していない」と回答した人の割合が最も高く、51.7%となっています。次いで、「週4回以上」(9.2%)、「週2~3回」(4.5%)と続いています。

問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか



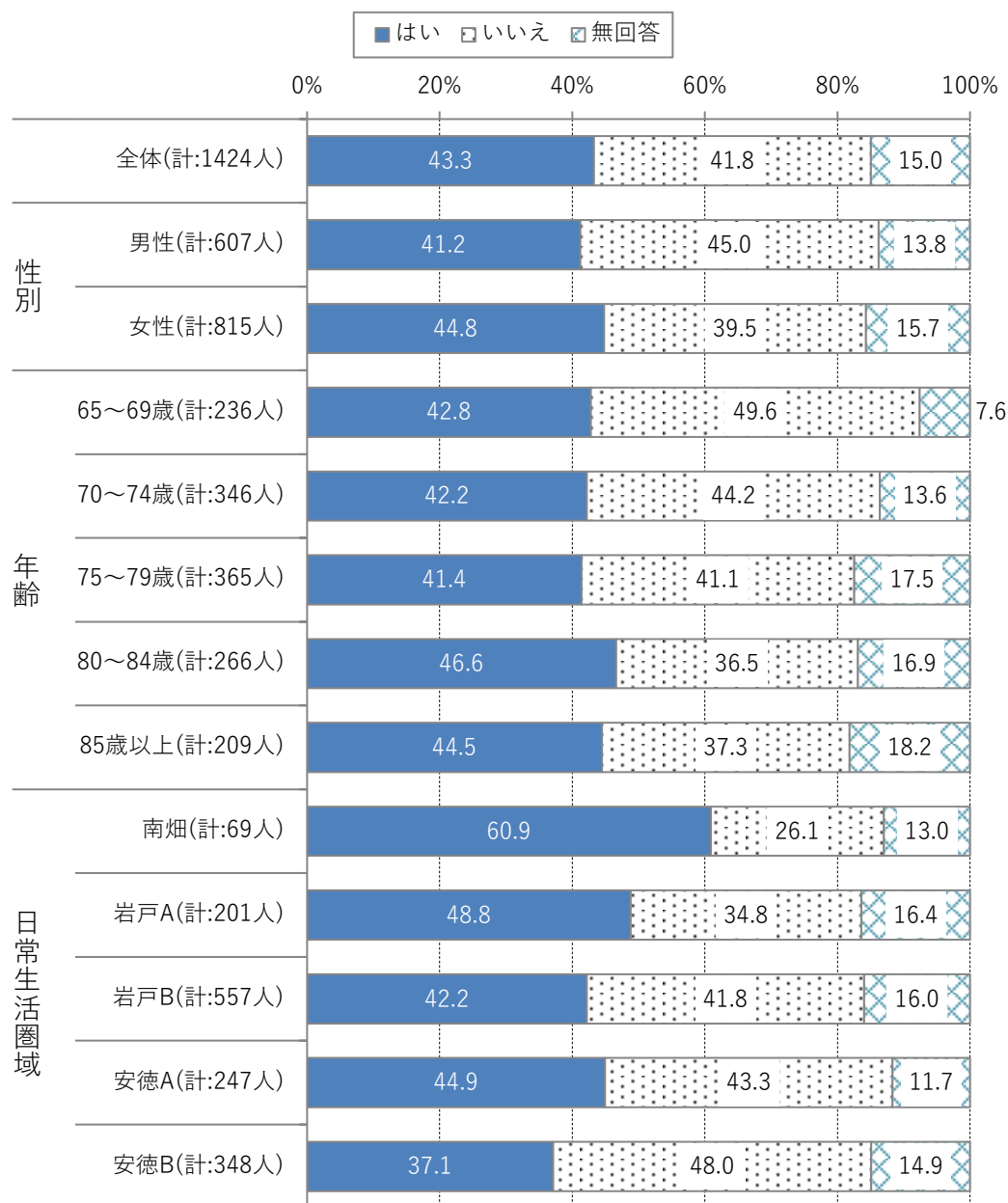
●地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますかとたずねたところ、「参加したくない」と回答した人の割合が最も高く、41.9%となっています。次いで、「参加してもよい」(39.3%)、「是非参加したい」(5.5%)と続いています。

問5 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか



●地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますかとたずねたところ、「参加したくない」と回答した人の割合が最も高く、61.6%となっています。次いで、「参加してもよい」(24.3%)、「既に参加している」(2.4%)と続いています。

問5（4）健康づくり活動や趣味等の地域活動を行う際に、集まる場所がありますか

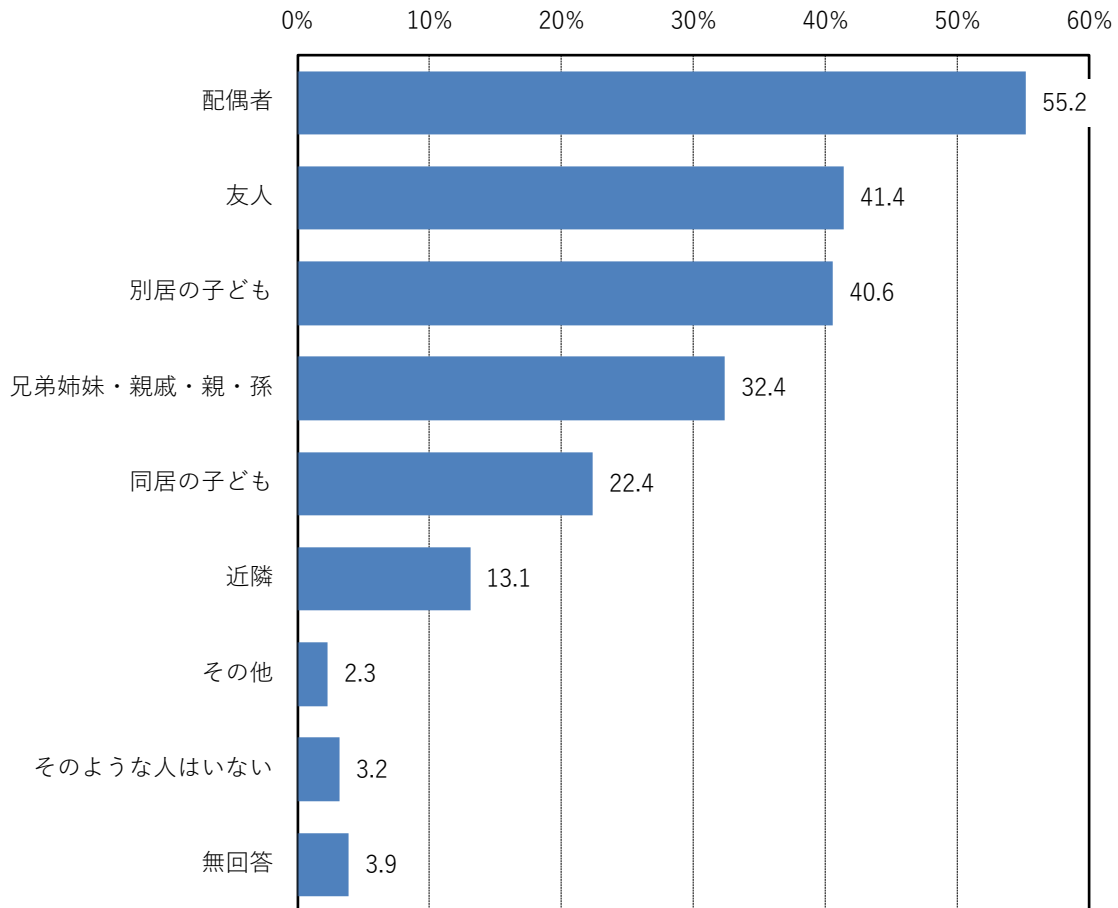


●健康づくり活動や趣味等の地域活動を行う際に、集まる場所がありますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は43.3%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は41.8%となっています。

問6 たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

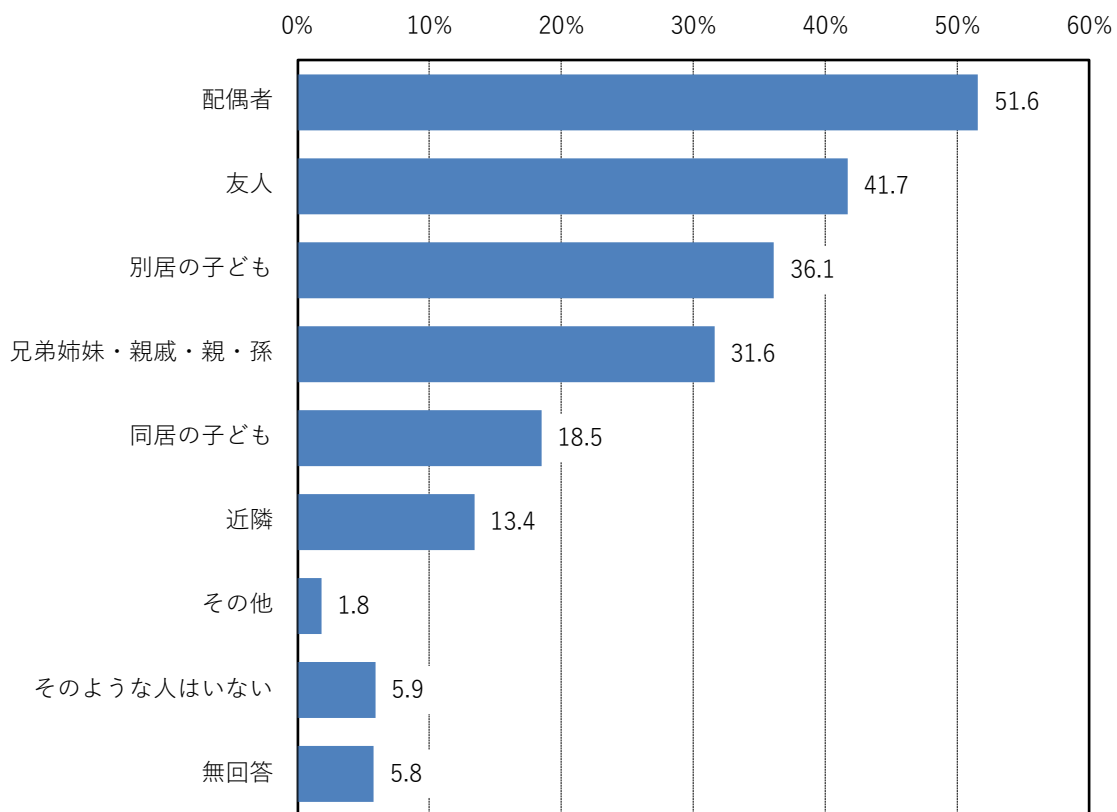
問6（1）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人



計：1424人

- あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人が最も多く、55.2%となっています。次いで、「友人」（41.4%）、「別居の子ども」（40.6%）と続いています。

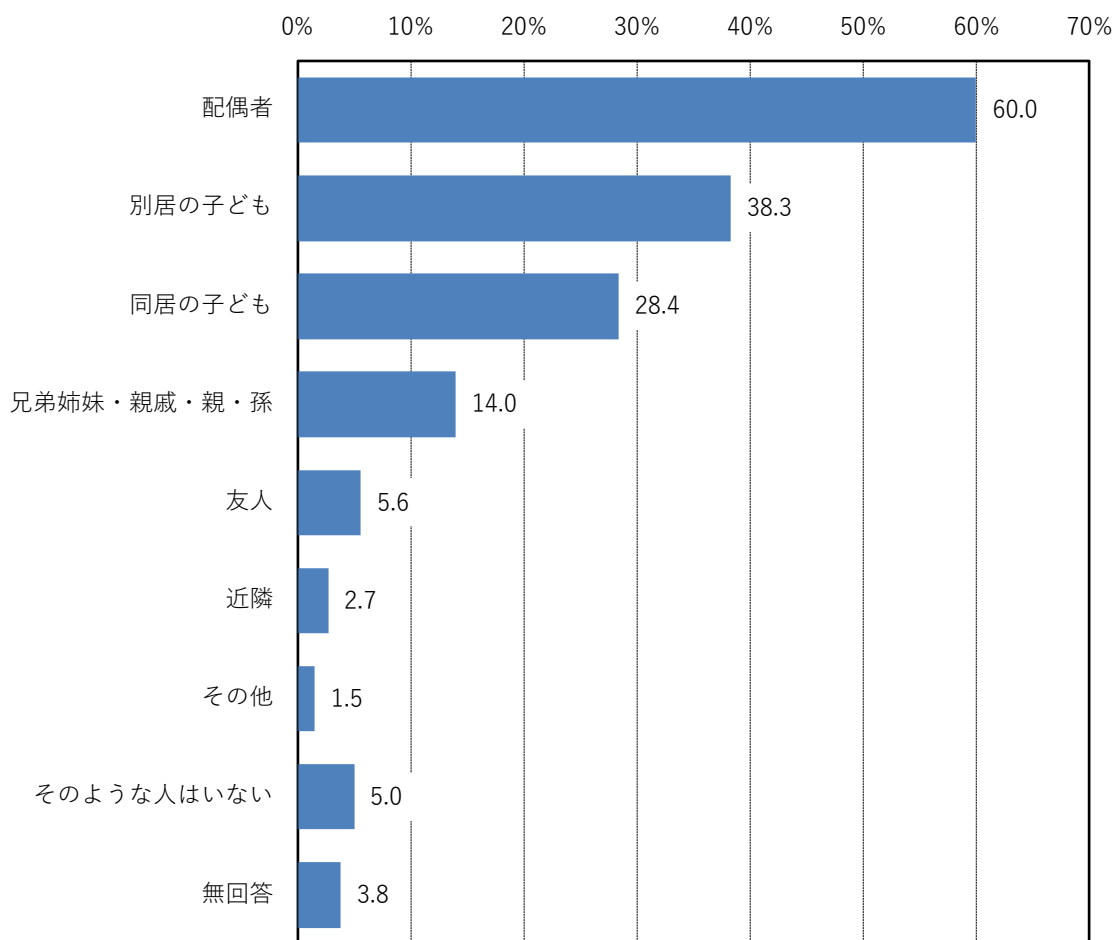
問6（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人



計：1424人

- 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人が最も多く、51.6%となっています。次いで、「友人」（41.7%）、「別居の子ども」（36.1%）と続いています。

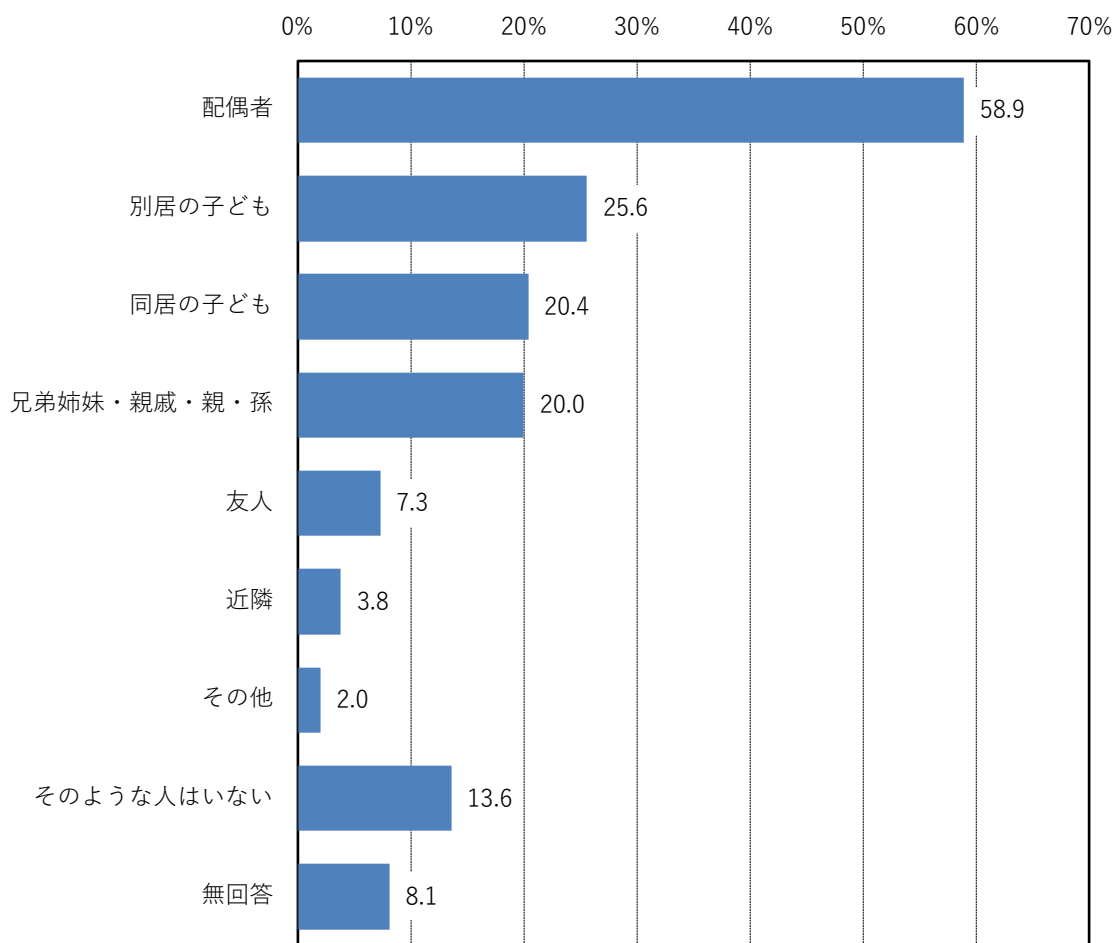
問6（3）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



計：1424人

- 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人が最も多く、60.0%となっています。次いで、「別居の子ども」(38.3%)、「同居の子ども」(28.4%)と続いています。

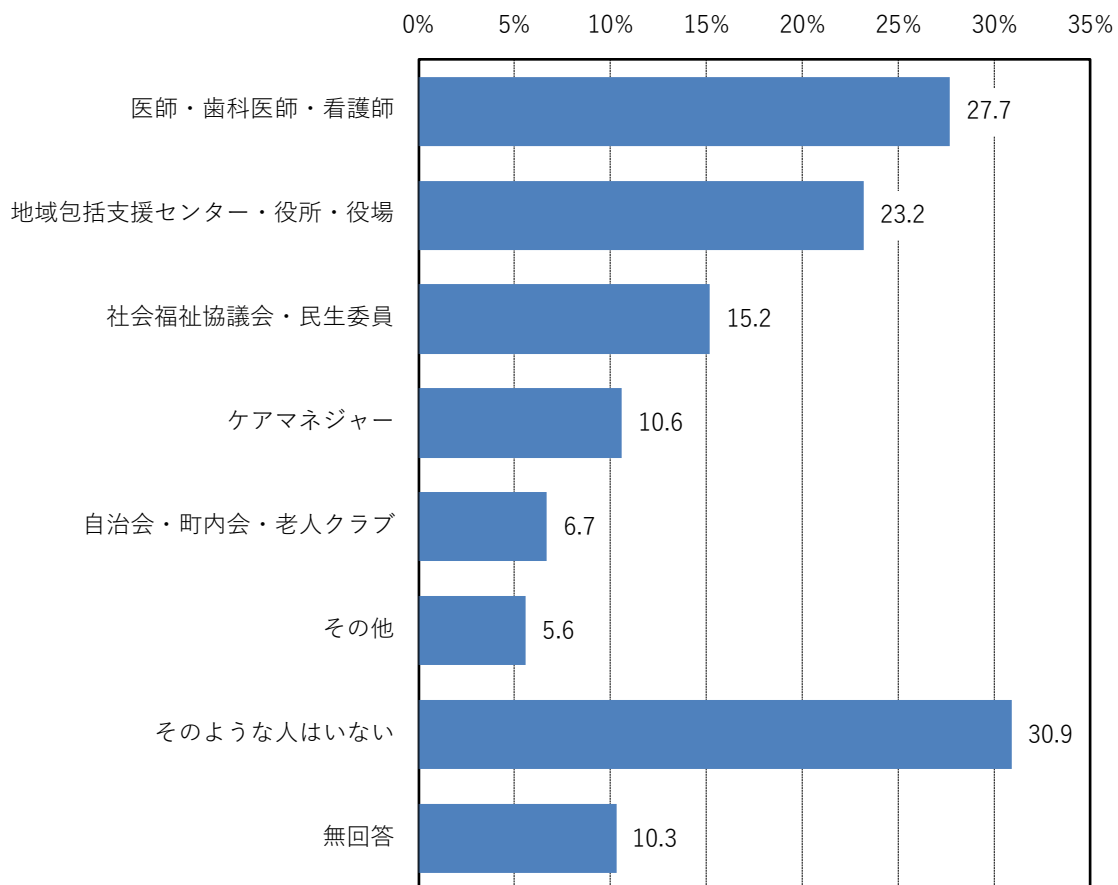
問6（4）反対に、看病や世話をしあける人



計：1424人

- 看病や世話をしあける人をたずねたところ、「配偶者」と回答した人が最も多く、58.9%となっています。次いで、「別居の子ども」（25.6%）、「同居の子ども」（20.4%）と続いています。

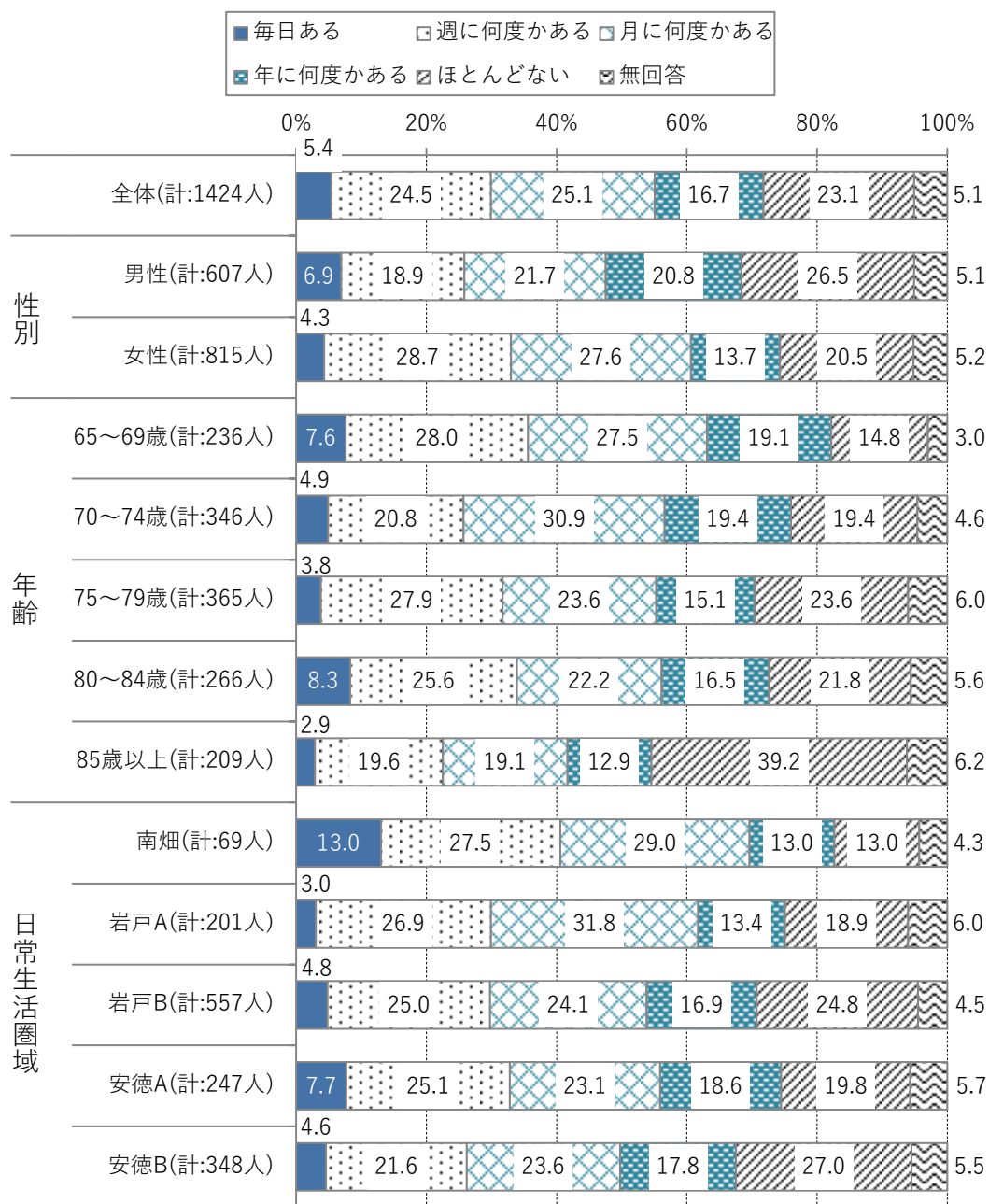
問6（5）家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください



計：1424人

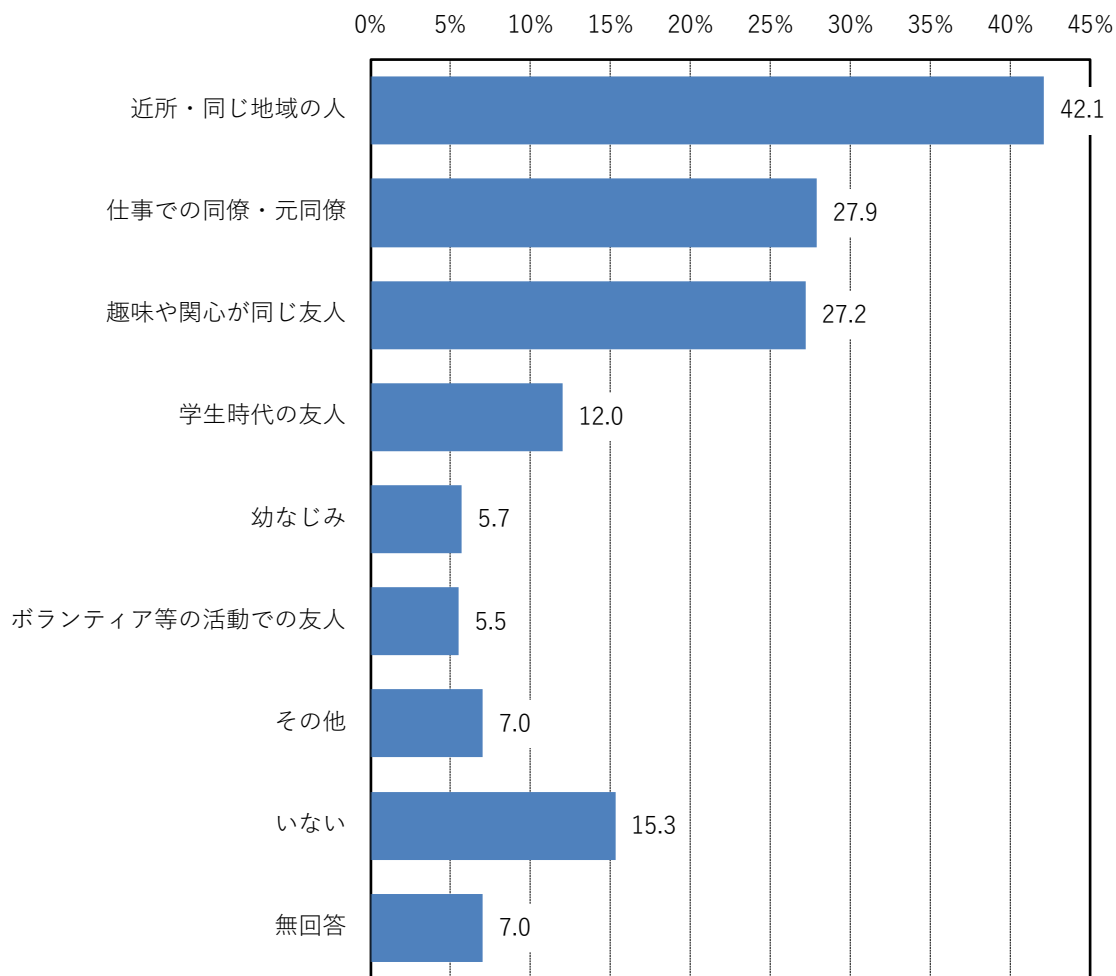
- 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手をたずねたところ、「医師・歯科医師・看護師」と回答した人が最も多く、27.7%となっています。次いで、「地域包括支援センター・役所・役場」（23.2%）、「社会福祉協議会・民生委員」（15.2%）と続いています。

問6 (6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか



●友人・知人と会う頻度はどれくらいですかとたずねたところ、「月に何度かある」と回答した人の割合が最も高く、25.1%となっています。次いで、「週に何度かある」(24.5%)、「ほとんどない」(23.1%)と続いています。

問6（7）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか

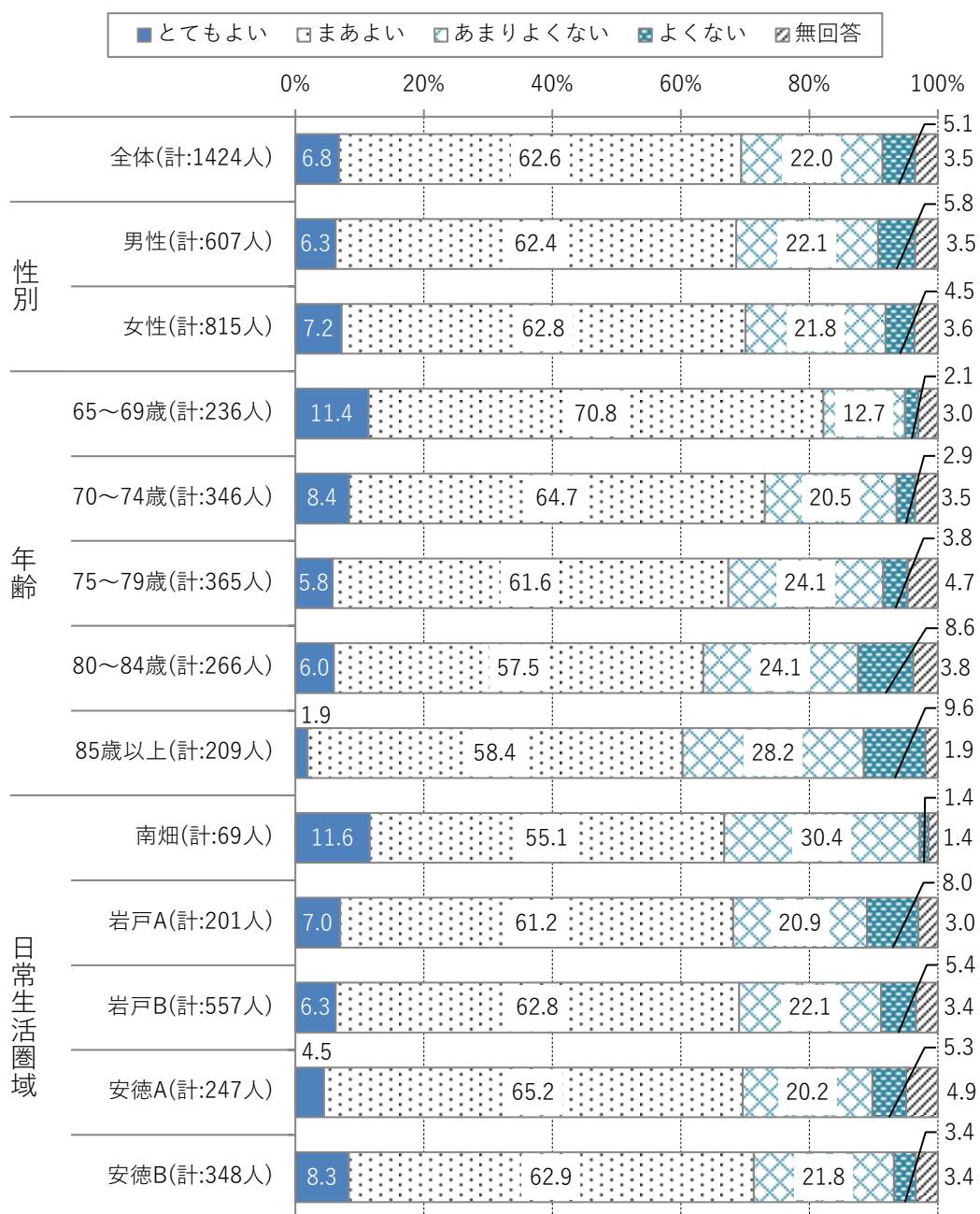


計：1424人

- よく会う友人・知人はどんな関係の人かとたずねたところ、「近所・同じ地域の人」と回答した人が最も多く、42.1%となっています。次いで、「仕事での同僚・元同僚」(27.9%)、「趣味や関心が同じ友人」(27.2%)と続いています。

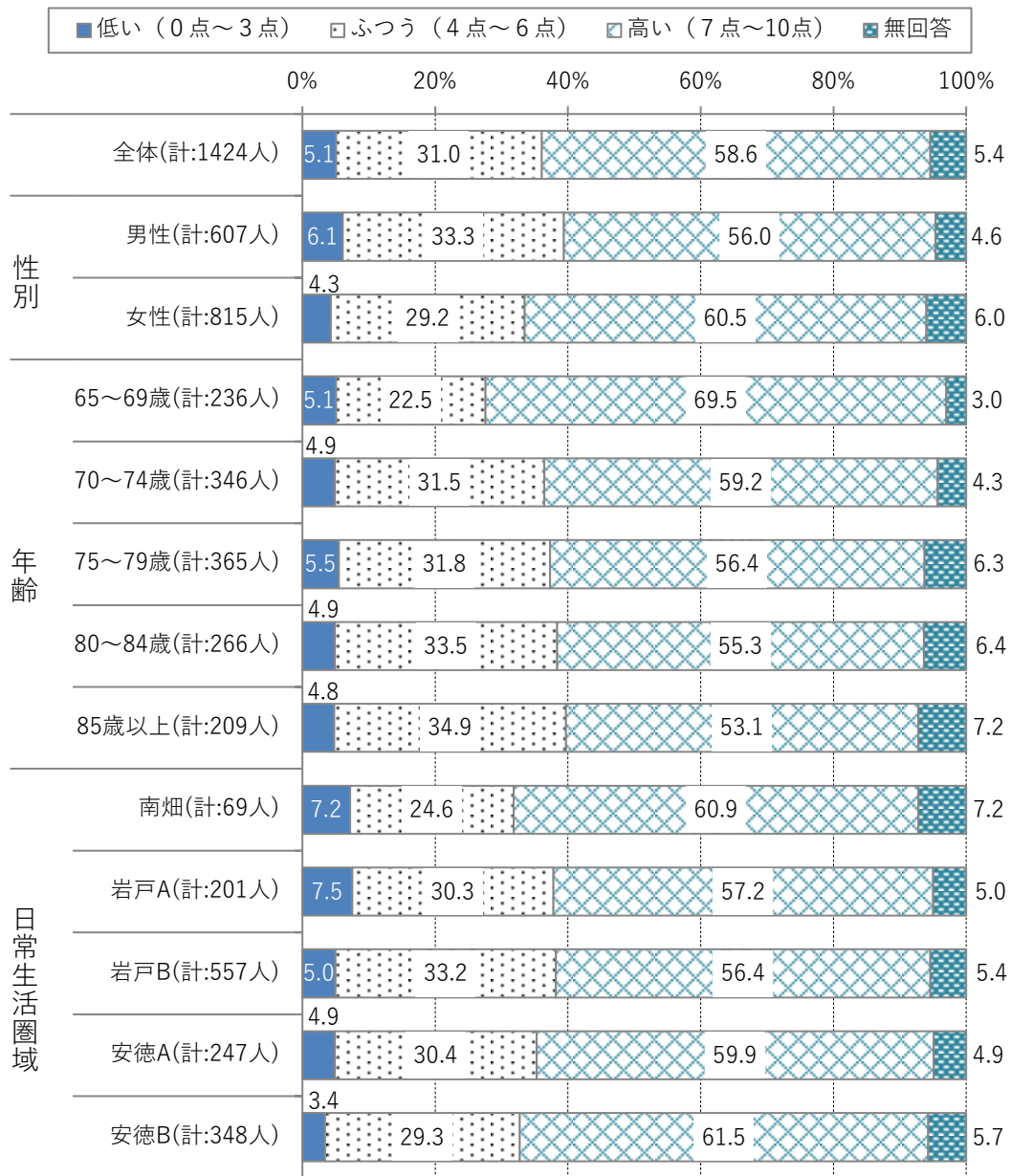
問7 健康について

問7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか



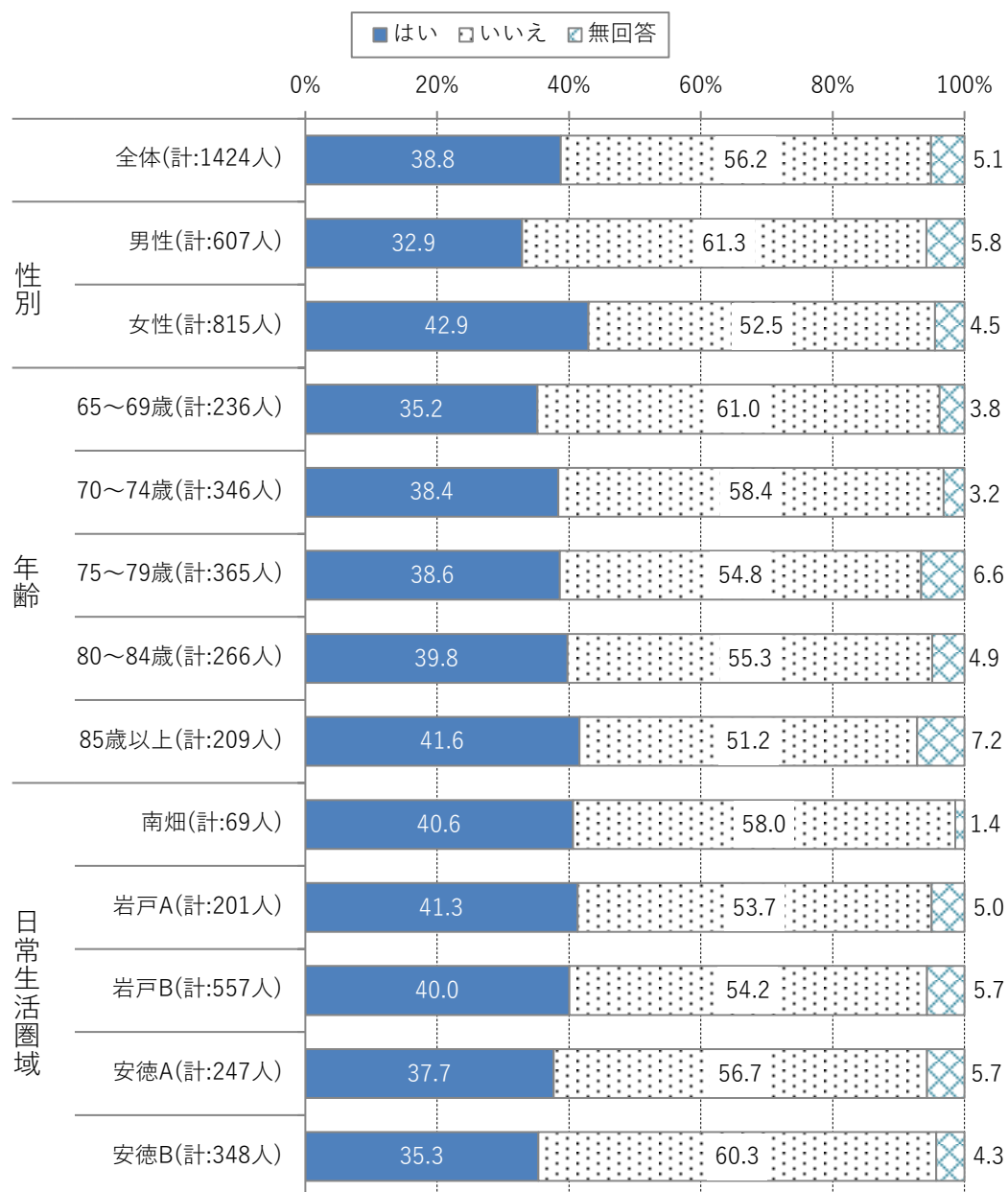
- 現在のあなたの健康状態はいかがですかとたずねたところ、「まあよい」と回答した人の割合が最も高く、62.6%となっています。次いで、「あまりよくない」(22.0%)、「とてもよい」(6.8%)と続いています。

問7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）（数量）



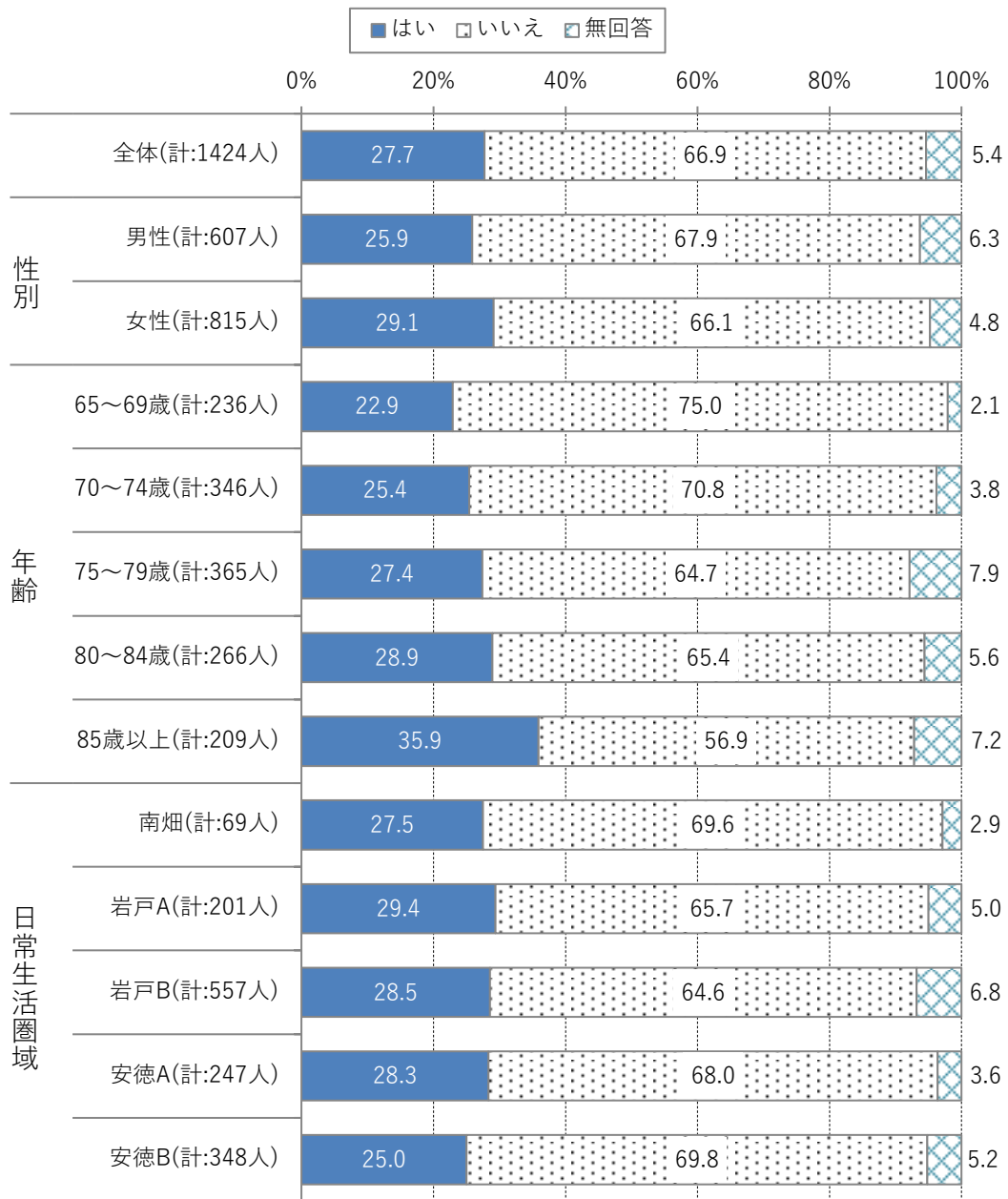
- あなたは、現在どの程度幸せですかとたずねたところ、幸福度が高い（7点～10点）の割合は58.6%となっており、ほぼ6割の市民が比較的幸福度が高いと回答していることが分かります。
- 一方、幸福度が低い（0点～3点）と回答した割合は、5.1%となっています。

問7 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか



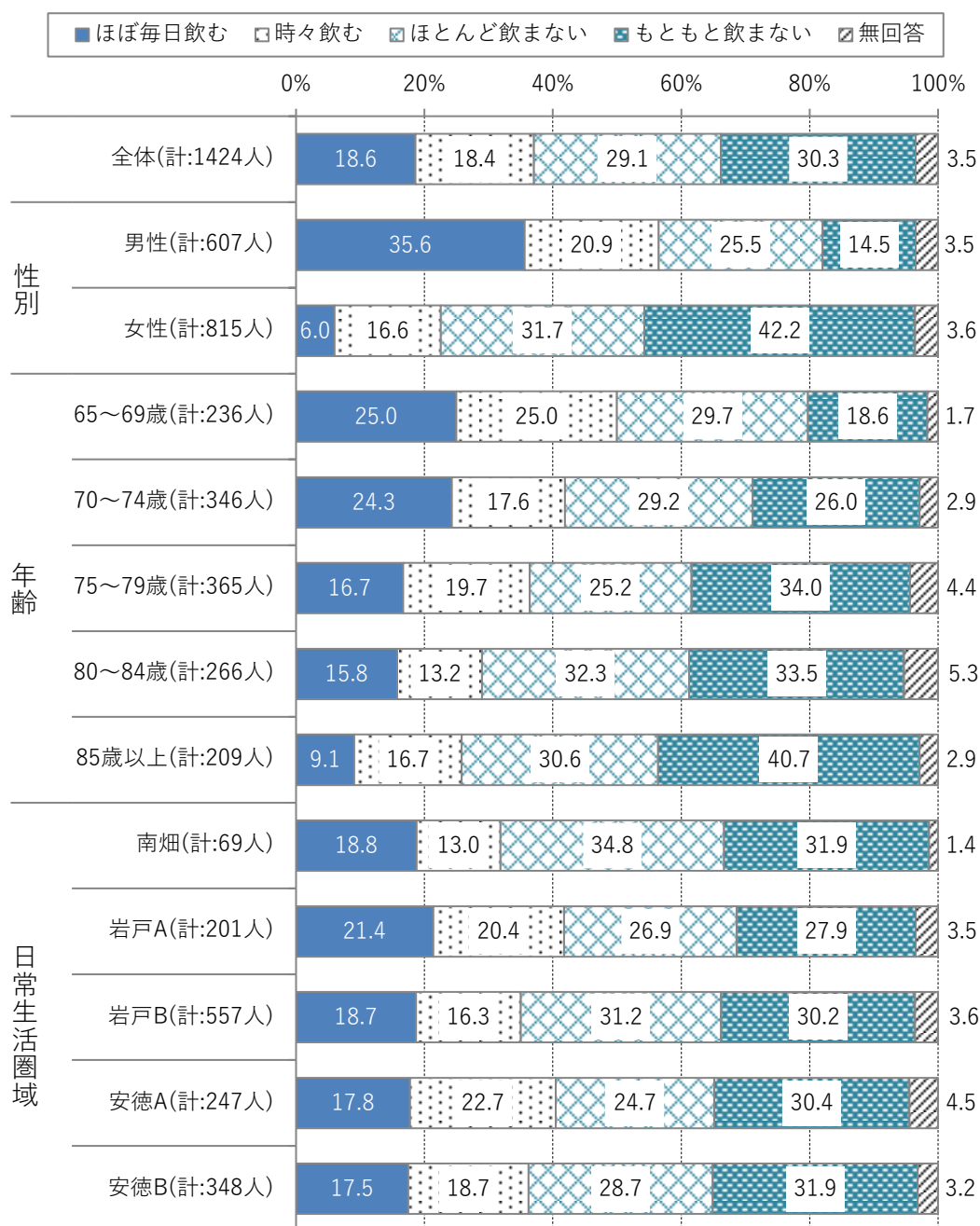
●この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は38.8%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は56.2%となっています。

問7（4）この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか



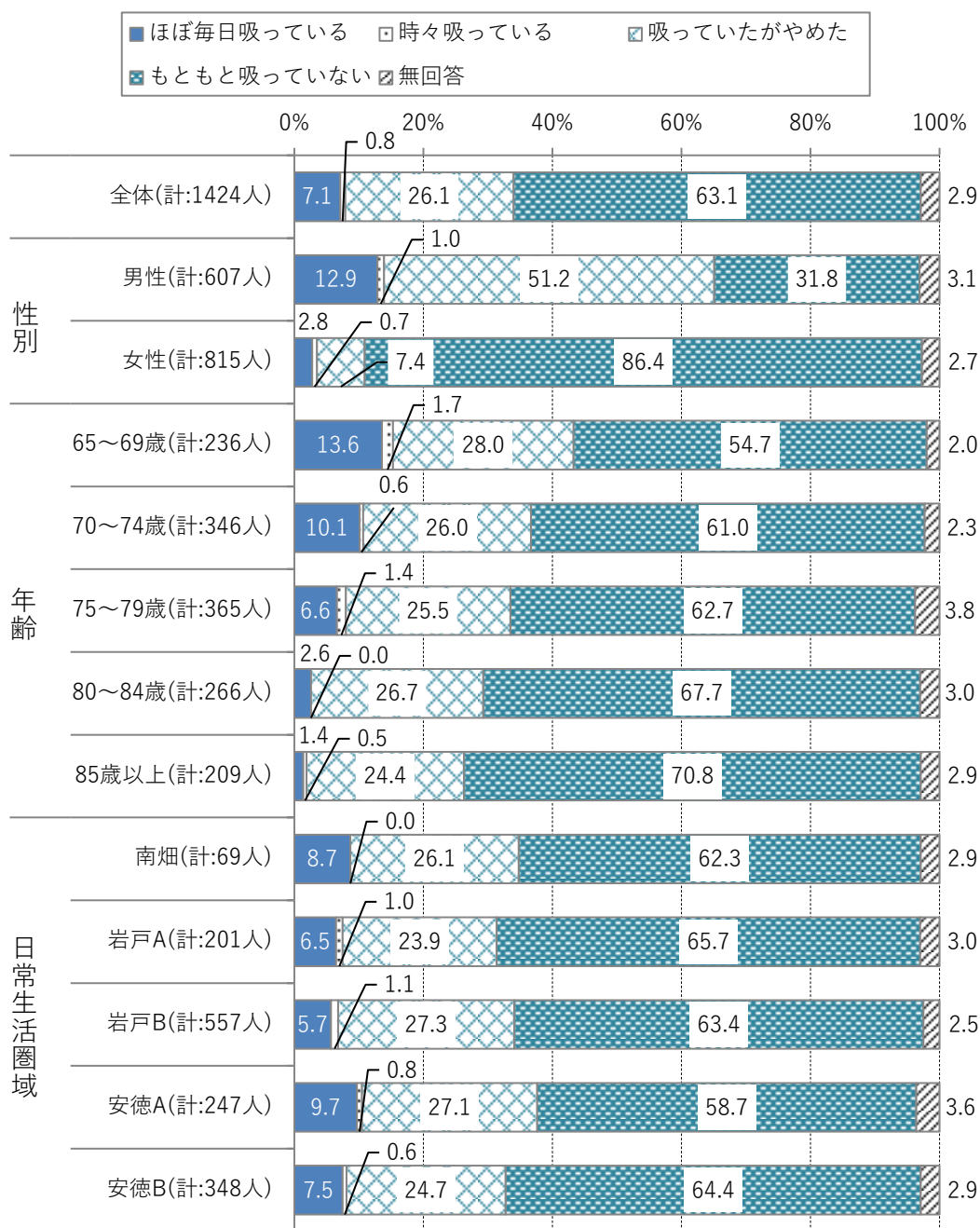
●この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は27.7%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は66.9%となっています。

問7（5）お酒は飲みますか



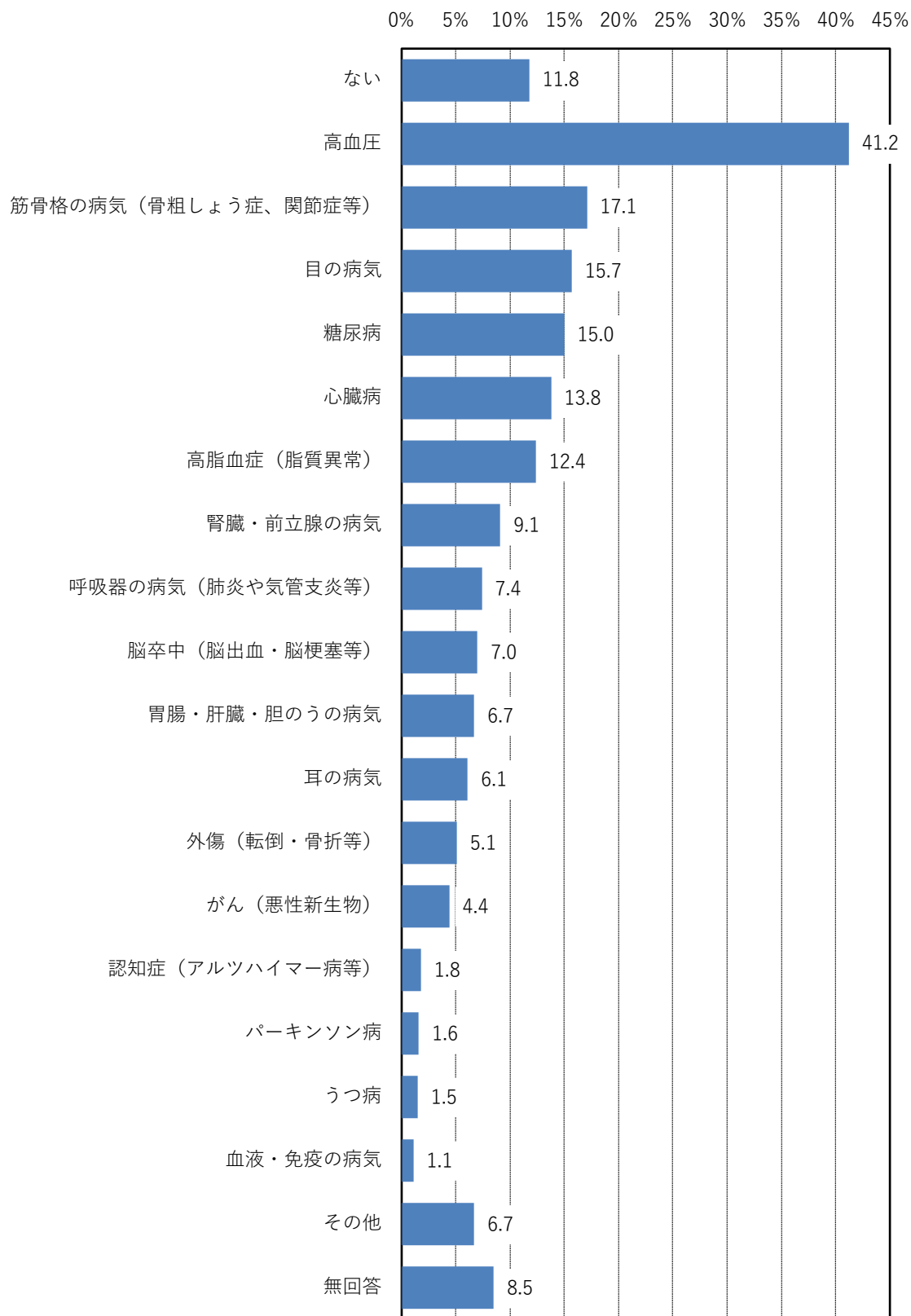
- お酒は飲みますかとたずねたところ、「もともと飲まない」と回答した人の割合が最も高く、30.3%となっています。次いで、「ほとんど飲まない」(29.1%)、「ほぼ毎日飲む」(18.6%)と続いています。

問7（6）タバコは吸っていますか



- タバコは吸っていますかとたずねたところ、「もともと吸っていない」と回答した人の割合が最も高く、63.1%となっています。次いで、「吸っていたがやめた」(26.1%)、「ほぼ毎日吸っている」(7.1%)と続いています。

問7（7）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか

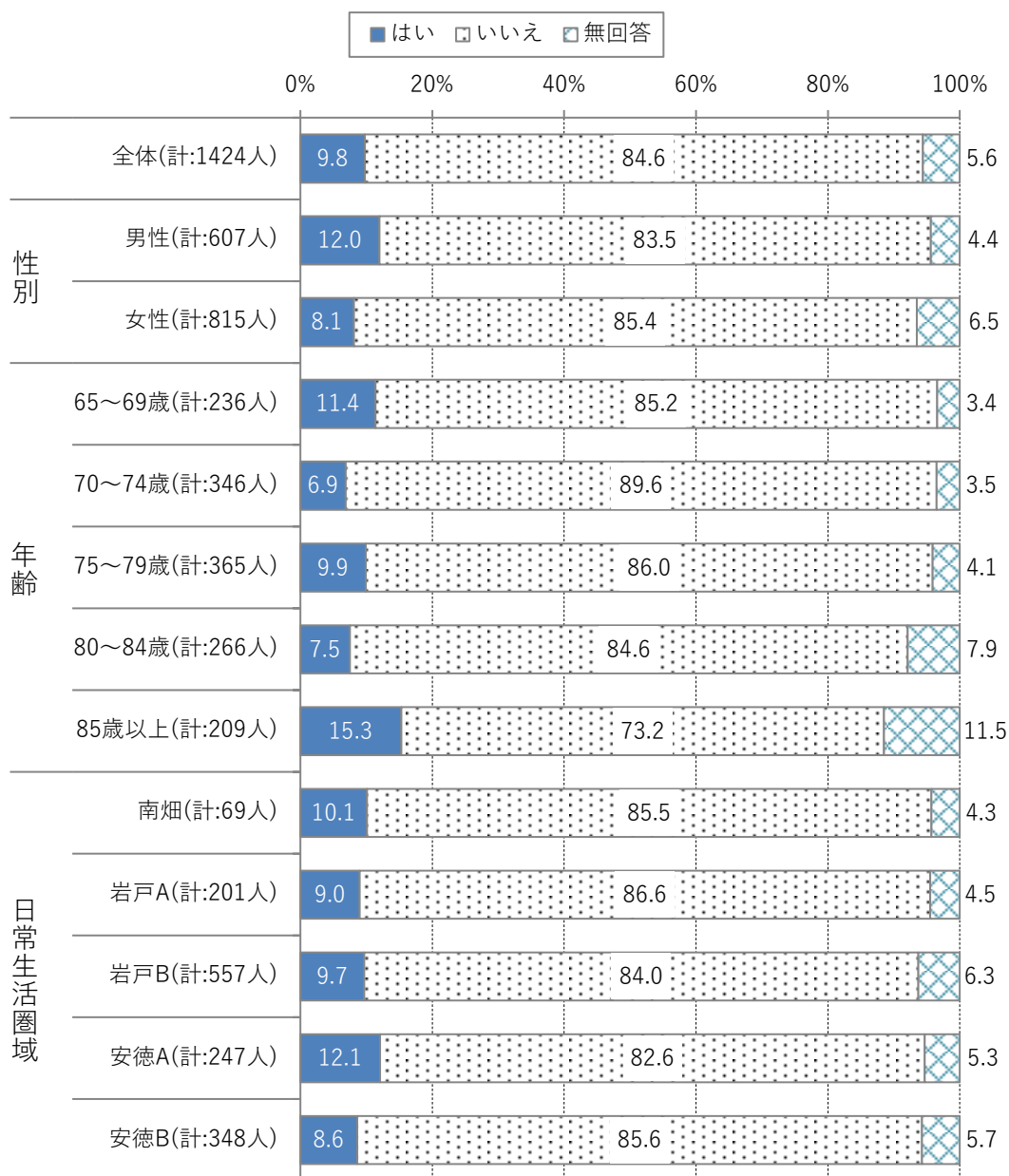


計：1424人

●現在治療中、または後遺症のある病気はあるかとたずねたところ、「高血圧」と回答した人が最も多く、41.2%となっています。次いで、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」（17.1%）、「目の病気」（15.7%）と続いています。

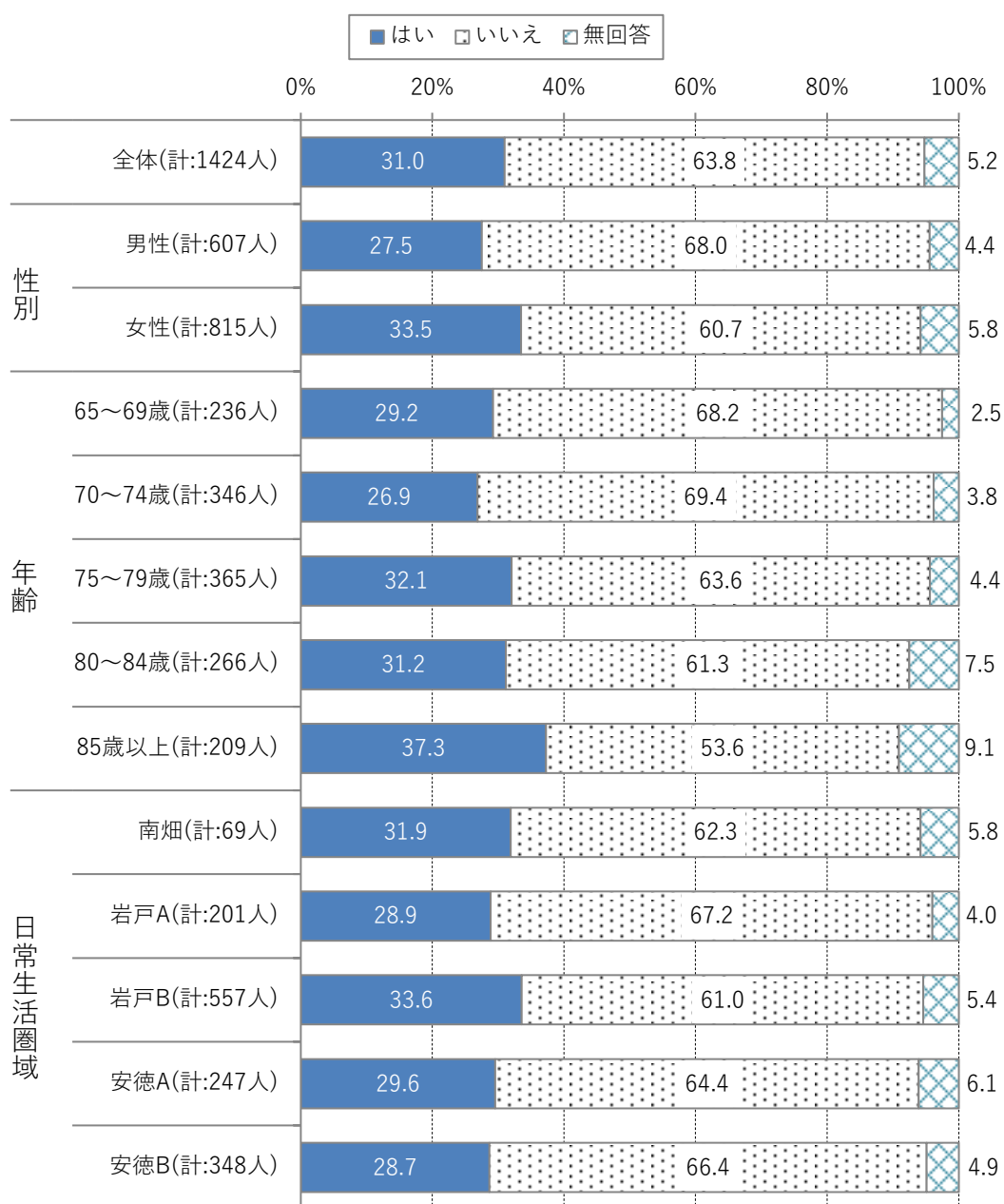
問 8 認知症にかかる相談窓口の把握について

問 8 (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか



- 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は9.8%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は84.6%となっています。

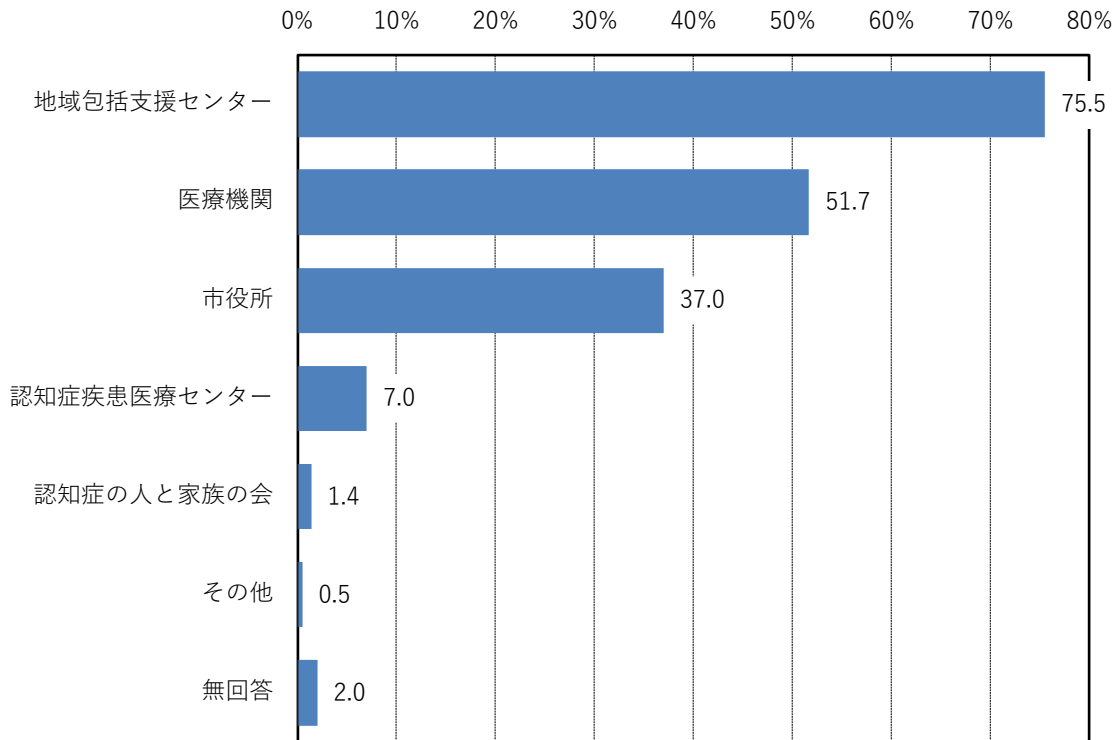
問8（2）認知症に関する相談窓口を知っていますか



●認知症に関する相談窓口を知っていますかとたずねたところ、「はい」と回答した人の割合は31.0%となっています。一方、「いいえ」と回答した人の割合は63.8%となっています。

【(2) において「1. はい」と回答した方のみ】

問8 (2) ① どの相談窓口を知っていますか

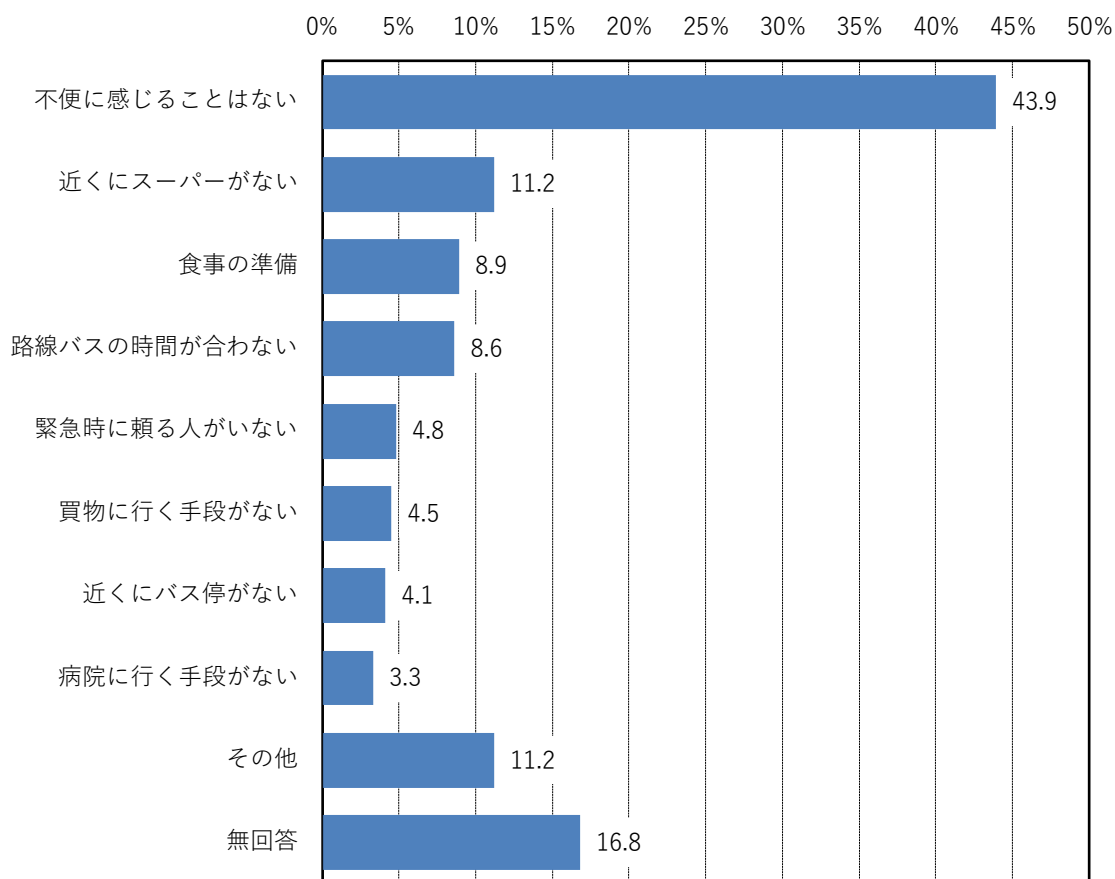


計：441人

- 認知症に関する相談窓口を知っていると回答した人に、どの相談窓口を知っていますかとたずねたところ、「地域包括支援センター」と回答した人が最も多く、75.5%となっています。次いで、「医療機関」(51.7%)、「市役所」(37.0%)と続いています。

問9 生活状況について（買物、移動等）

問9（1）生活で一番不便だと感じることを教えてください



計：1424人

- 生活で一番不便だと感じることにあつてたずねたところ、「近くにスーパーがない」と回答した人が最も多く、11.2%となつています。次いで、「食事の準備」（8.9%）、「路線バスの時間が合わない」（8.6%）と続いています。
- 一方、「不便に感じることはない」との回答は43.9%となつています。

| | | 買物に行く 手段がない | 近くにスー パーがない | 食事の準備 | 近くにバス 停がない | 路線バスの 時間が合わ ない |
|--------|-------------|----------------|---------------------|---------------------|---------------|----------------------|
| 日常生活圏域 | 全体(計:1424人) | 4.5 | 11.2 | 8.9 | 4.1 | 8.6 |
| | 南畑(計:69人) | 5.8 | 44.9 | 10.1 | 4.3 | 10.1 |
| | 岩戸A(計:201人) | 7.0 | 39.8 | 9.0 | 10.0 | 18.4 |
| | 岩戸B(計:557人) | 4.8 | 4.1 | 11.7 | 2.0 | 6.1 |
| | 安德A(計:247人) | 4.5 | 9.3 | 6.9 | 4.0 | 9.3 |
| | 安德B(計:348人) | 2.3 | 0.6 | 5.7 | 4.0 | 6.0 |
| | | 病院に行く 手段がない | 緊急時に頼 る人がいな い | 不便に感じ ることはな い | その他 | 無回答 |
| 日常生活圏域 | 全体(計:1424人) | 3.3 | 4.9 | 44.0 | 11.3 | 16.7 |
| | 南畑(計:69人) | 5.8 | 7.2 | 21.7 | 7.2 | 14.5 |
| | 岩戸A(計:201人) | 3.5 | 5.0 | 23.4 | 16.4 | 11.9 |
| | 岩戸B(計:557人) | 3.4 | 5.0 | 45.2 | 8.8 | 19.6 |
| | 安德A(計:247人) | 2.4 | 3.2 | 45.7 | 15.4 | 14.2 |
| | 安德B(計:348人) | 3.2 | 5.2 | 56.9 | 10.1 | 17.0 |

- 「近くにスーパーがない」という回答については「南畑」及び「岩戸A」では他の圏域と比較して多い傾向にあります。
- 「路線バスの時間が合わない」という回答については「岩戸A」が18.4%と比較的多くなっています。

第4章 調査票

第9期

★高齢福祉に関するアンケート★

～みなさまの健康づくりのために、ご記入いただき、ご返送ください～

日頃より市政の推進にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

このアンケート調査は、第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定するにあたり、みなさまの生活状況や健康状態等をうかがい、計画策定の資料とするとともに、今後の保健福祉行政に活かすことを目的として、那珂川市が実施するもので、介護保険被保険者台帳から無作為に抽出した2,000人の方にご協力をお願いしています。

また、お答えいただいた情報は、大切な個人情報であるという認識にたち、那珂川市個人情報保護条例に基づき適正に取り扱いますので、ご同意の上、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年12月 那珂川市長 武末 茂喜

○アンケートは、あて名のご本人にお答えいただきますが、ご本人がお答えできない場合には、ご家族の方などが、ご本人の立場に立ってお答えください。

○回答にあたっては、裏面に記載している記入方法の説明と質問内容をよくお読みいただき、ご記入ください。

○記入した調査票は、同封の返信用封筒に入れ、下記の期限までに郵便ポストへ投函してください（切手は不要）。 **投函期限:令和5年1月13日(金)**

○この調査についての問い合わせは、下記までお願いいたします。

【問い合わせ先】

那珂川市 健康福祉部 高齢者支援課
電話 092-953-2211(内線143)
FAX 092-953-2312

1-1-001

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものとさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果の評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、計画策定の目的以外には利用いたしません。また当該情報は、那珂川市が適切に管理いたします。
- ただし、計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する那珂川市外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。

【調査票】

- 調査票を記入する際は、各項目で該当する数字1つに○をつけてください。複数回答ができる場合は、設問の文末に（いくつでも）と表示しています。数字を記入する場合は右詰めです。
- 選択肢はあて名のご本人に現在もっとも近いものを選んでください。
- 設問によって回答していただく方が限られる場合があります。

| 記 入 日 | 令和 年 月 日 |
|------------------------------|----------|
| 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。 | |
| 1. あて名のご本人が記入 | |
| 2. ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄） | |
| 3. その他（） | |

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

1. 1人暮らし
2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
4. 息子・娘との2世帯
5. その他

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 2. 心臓病 3. がん(悪性新生物)
4. 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等) 5. 関節の病気(リウマチ等)
6. 認知症(アルツハイマー病等) 7. パーキンソン病 8. 糖尿病
9. 腎疾患(透析) 10. 視覚・聴覚障がい 11. 骨折・転倒
12. 脊椎損傷 13. 高齢による衰弱 14. その他()
15. 不明

【(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

②主にどなたの介護、介助を受けていますか(いくつでも)

1. 配偶者(夫・妻) 2. 息子 3. 娘
4. 子の配偶者 5. 孫 6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー 8. その他()

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ふつう
4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(3) 15分位続けて歩いていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか

1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. とても減っている | 2. 減っている |
| 3. あまり減っていない | 4. 減っていない |

(8) 外出を控えていますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

【(8) において「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

①外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

- | | |
|--|--|
| 1. 病気 <small>びょうき</small> | 2. 障がい <small>しょうがい</small> (脳卒中 <small>のうそっちゅう</small> の後遺症 <small>こういしょう</small> など) |
| 3. 足腰 <small>あしこし</small> などの痛み <small>いた</small> | 4. トイレの心配 <small>しんぱい</small> (失禁 <small>しっきん</small> など) |
| 5. 耳 <small>みみ</small> の障がい <small>しょうがい</small> (聞こえ <small>きこえ</small> の問題 <small>もんだい</small> など) | 6. 目の障がい <small>めしょうがい</small> |
| 7. 外 <small>そと</small> での楽しみ <small>たのしみ</small> がない | 8. 経済的 <small>けいざいてき</small> に出られない <small>で</small> |
| 9. 交通手段 <small>こうつうしゅだん</small> がない | 10. その他 () |

(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

- | | | |
|----------------|------------------|--------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 | 3. バイク |
| 4. 自動車(自分で運転) | 5. 自動車(人に乗せてもらう) | 6. 電車 |
| 7. 路線バス | 8. 病院や施設のバス | 9. 車いす |
| 10. 電動車いす(カート) | 11. 歩行器・シルバーカー | |
| 12. タクシー | 13. その他 () | |

(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか

1. はい

2. いいえ

(17) 趣味はありますか

1. 趣味あり \longrightarrow ()

2. 思いつかない

(18) 生きがいがありますか

1. 生きがいあり \longrightarrow ()

2. 思いつかない

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
 ※① - ⑨それぞれに回答してください

| | 週4回 以上 | 週2 ~3回 | 週1回 | 月1 ~3回 | 年に 数回 | 参加して いない |
|--|-----------|-----------|-----|-----------|----------|-------------|
| ① ボランティアのグループ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ② スポーツ関係のグループやクラブ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ③ 趣味関係のグループ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ④ 学習・教養サークル | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑤ (ステップ運動教室、いきいきリフレッシュ教室など) 介護予防のための通いの場 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑥ ふれあいサロン | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑦ 老人クラブ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑧ 町内会・自治会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑨ 収入のある仕事 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない 4. 既に参加している

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない 4. 既に参加している

(4) 健康づくり活動や趣味等の地域活動を行う際に、集まる場所がありますか

1. はい

2. いいえ

問6

たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者

2. 同居の子ども

3. 別居の子ども

4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫

5. 近隣

6. 友人

7. その他（ ）

8. そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

1. 配偶者

2. 同居の子ども

3. 別居の子ども

4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫

5. 近隣

6. 友人

7. その他（ ）

8. そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者

2. 同居の子ども

3. 別居の子ども

4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫

5. 近隣

6. 友人

7. その他（ ）

8. そのような人はいない

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

1. 配偶者

2. 同居の子ども

3. 別居の子ども

4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫

5. 近隣

6. 友人

7. その他（ ）

8. そのような人はいない

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(いくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 自治会・町内会・老人クラブ | 2. 社会福祉協議会・民生委員 |
| 3. ケアマネジャー | 4. 医師・歯科医師・看護師 |
| 5. 地域包括支援センター・役所・役場 | 6. その他 |
| 7. そのような人はいない | |

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 毎日ある | 2. 週に何度かある | 3. 月に何度かある |
| 4. 年に何度かある | 5. ほとんどない | |

(7) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 1. 近所・同じ地域の人 | 2. 幼なじみ | 3. 学生時代の友人 |
| 4. 仕事での同僚・元同僚 | 5. 趣味や関心が同じ友人 | |
| 6. ボランティア等の活動での友人 | | |
| 7. その他 | 8. いない | |

問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

(2) あなたは、現在どの程度幸せですか
（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

| とても不幸 | | | | | | | | | | | とても幸せ |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-------|
| 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | 4点 | 5点 | 6点 | 7点 | 8点 | 9点 | 10点 | |

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

1. はい 2. いいえ

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

1. はい 2. いいえ

(5) お酒は飲みますか

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない
4. もともと飲まない

(6) タバコは吸っていますか

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

- | | | |
|--|---|---|
| 1. ない | 2. <small>こうけつあつ</small> 高血圧 | 3. <small>のうそっちゆう のうしゅつけつ・のうこうそく</small> 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) |
| 4. <small>しんぞうびょう</small> 心臓病 | 5. <small>とうようびょう</small> 糖尿病 | 6. <small>こうしけっしょう ししつじょう</small> 高脂血症 (脂質異常) |
| 7. <small>こきゅうき びょうき はいえん きかんしえん</small> 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等) | 8. <small>いちよう かんぞう たん びょうき</small> 胃腸・肝臓・胆のうの病気 | |
| 9. <small>じんぞう ぜんりつせん びょうき</small> 腎臓・前立腺の病気 | 10. <small>きんこつかく びょうき こつそ しょう かんせつしょう</small> 筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等) | |
| 11. <small>がいしょう てんとう こっせつなど</small> 外傷 (転倒・骨折等) | 12. <small>あくせいしんせいぶつ</small> がん (悪性新生物) | 13. <small>けつえき めんえき びょうき</small> 血液・免疫の病気 |
| 14. <small>びょう</small> うつ病 | 15. <small>にんちしょう びょう</small> 認知症 (アルツハイマー病等) | 16. <small>びょう</small> パーキンソン病 |
| 17. <small>め びょうき</small> 目の病気 | 18. <small>みみ びょうき</small> 耳の病気 | 19. その他 () |

問8 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

1. はい 2. いいえ

(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

1. はい 2. いいえ

【(2)において「1. はい」と回答した方のみ】

①どの相談窓口を知っていますか (いくつでも)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 地域包括支援センター | 2. 市役所 |
| 3. 医療機関 | 4. 認知症疾患医療センター |
| 5. 認知症の人と家族の会 | 6. その他 () |

問9 生活状況について（買物、移動等）

（1）生活で一番不便だと感じることをお教えてください

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 買物に行く手段がない | 2. 近くにスーパーがない |
| 3. 食事の準備 | 4. 近くにバス停がない |
| 5. 路線バスの時間が合わない | 6. 病院に行く手段がない |
| 7. 緊急時に頼る人がいない | 8. 不便に感じることはない |
| 9. その他 | |

()

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

●調査票記入後は、3つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、
令和5年1月13日（金）までにポストへ投函してください。切手は不要です。

那珂川市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果報告書

令和 5年 3月

発行 那珂川市 健康福祉部 高齢者支援課

〒811-1292 福岡県那珂川市西隈1丁目1番1号
